

令和3年度

教 育 要 項

奈良県立医科大学大学院

看護学研究科（修士課程）

目 次

大学院看護学研究科ポリシー

令和3年度 年間教務日程

令和3年度 看護学研究科時間割(前期・後期)

| | | |
|-----|--------------|----|
| I | 看護学研究科の概要 | 5 |
| 1 | 設置の趣旨 | |
| 2 | 教育上の理念および目的 | |
| 3 | 看護学専攻の考え方と特色 | |
| 4 | 看護学研究科修士課程構成 | |
| II | 履修要項 | 9 |
| 1 | 修了要件 | |
| 2 | 履修方法 | |
| 3 | 単位修得の認定 | |
| 4 | 研究指導 | |
| 5 | 長期履修期間の短縮 | |
| 6 | 学位の授与 | |
| 7 | 取得できる資格 | |
| III | 教育課程等の概要 | 35 |
| IV | 科目概要 | 45 |
| 1 | 共通科目 | |
| 2 | 専門科目 | |
| | 基盤看護学分野 | |
| | 実践看護学分野 | |
| | 助産学実践科目 | |

奈良県立医科大学大学院看護学研究科のアドミッションポリシー、 カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

看護学研究科アドミッションポリシー

1. 人間に対する深い関心と生命倫理や医療倫理を身につけている人
2. 専攻分野における基礎知識を身につけている人
3. 自ら進んで課題に取り組む意欲と探究心がある人
4. 看護学の教育、研究、実践の分野で地域社会に貢献する意志があり、看護学関連分野を学習してきた人

看護学研究科カリキュラムポリシー

1. 教育理念・目的に基づき、豊かな感性、人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化、専門分化および多様化していく医療に要求される知識や技術を的確に習得、発展させながら、実践科学としての看護学を探究する高度な実践能力と基礎的な研究能力を育成するために必要なカリキュラムを配置する。
2. 看護学コースと助産学実践コースを置き、すべての学生が幅広く専門知識を修得するために共通科目を配置する。看護学コースでは各専門分野に必要な能力を養成するために、特論、演習、特別研究の授業科目を配置する。さらに助産学実践コースでは助産師となるために必要な特論、演習、実習科目を配置する。

看護学研究科ディプロマポリシー

本大学院に2年以上（優れた研究業績を上げた者については1年以上）在学し、授業科目について、看護学コースのうち、論文コースにあつては30単位以上修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格することが、高度実践コースの高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）にあつては40単位以上、同コースの周麻酔期看護師教育課程にあつては46単位以上修得し、かつ、特定の課題についての研究の成果（以下、「課題研究成果物」という。）の審査及び最終試験に合格することが、助産学実践コースにあつては、58単位以上修得し、かつ、課題研究成果物の審査及び最終試験に合格することが、課程の修了と学位授与の必要条件である。修了時には以下の能力が求められる。

1. 看護学に関する確かな専門知識と深い学識を修得している。
2. 生命科学、社会科学、情報科学などの知識を活用して研究能力が発揮できる。
3. 看護専門職者（論文コース修了者）として、地域医療での指導能力を発揮できる。
4. 看護専門職者（高度実践コース修了者）として、高度な実践能力と指導能力を発揮できる。
5. 看護専門職者（助産学実践コース修了者）として、地域における周産期医療での指導能力と高度な実践能力を発揮できる。

令和3年度 大学院看護学研究科 年間教務日程

| 日 程 | | 学 事 |
|------|-----------------------|-------------------------------|
| 令和3年 | 4月1日 (木) ~ 4月13日 (火) | 履修届提出期間 |
| | 4月6日 (火) | 入学式 |
| | 4月7日 (水) | 前期授業開始 |
| | 7月27日 (火) | 前期授業終了 |
| | 7月28日 (水) ~ 8月2日 (月) | 助産学実践コース試験期間 |
| | 8月3日 (火) ~ 9月16日 (木) | 夏期休業[注1] |
| | 8月20日 (金) | 学内立入禁止 ^[注2] |
| | 8月23日 (月) | 大学院入学試験(一次募集) ^[注2] |
| | 9月16日 (木) | 修士論文中間発表会 |
| | 9月17日 (金) | 後期授業開始 |
| | 11月30日 (火) | 学内立入禁止[予定] ^[注2] |
| | 12月1日 (水) | 大学院入学試験(二次募集)[予定] |
| | 12月27日 (月) ~ 1月3日 (月) | 冬期休業 |
| 令和4年 | 1月17日 (月) | 修士論文提出締切 |
| | 1月24日 (月) | 後期授業終了 |
| | 2月8日 (火) | 予備審査 |
| | 2月17日 (木) | 公聴会 |
| | 3月1日 (火) | 本審査 |
| | 3月15日 (火) | 学位授与式(予定) |
| | 3月16日 (水) ~ 入学式前日 | 春期休業 |

[注1] 夏期休業中に、助産学実践コース1・2年生は助産学実習を行う。

[注2] 入学試験及び準備に当たる日は、校舎内立入禁止

令和3年度 看護学研究科時間割

【前期】(4/7～)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|----|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|-------------------------|--|---|
| 月 | 9:00～10:30 周産期看護学特論 | 10:40～12:10 女性健康学特論 | 13:00～14:30 助産学特論 I | 14:40～16:10 助産学特論 IV | 16:20～17:50 助産学特論 IV | 18:00～19:30 小児看護学特論 高齢者看護学特論 在宅看護学特論 助産学実習 I | 19:40～21:10 小児看護学実習 高齢者看護学実習 在宅看護学実習 |
| 2年 | 周麻酔期看護学実習 II がん看護学実習 II | 周麻酔期看護学実習 II がん看護学実習 II | 周麻酔期看護学実習 II がん看護学実習 II | 助産学実習 V がん看護学実習 II | がん看護学実習 II | | |
| 1年 | 助産学特論 V | 助産学特論 V | 助産診断・技術学実習 IV | 助産診断・技術学実習 IV 周麻酔期看護学特論 I | 周麻酔期看護学特論 II がん病態治療学 | ○看護理論 | ○看護研究方法論 |
| 火 | 周麻酔期看護学実習 II がん看護学実習 III | 周麻酔期看護学実習 II がん看護学実習 III | 周麻酔期看護学実習 II がん看護学実習 III | 助産学実習 V がん看護学実習 III | がん看護学実習 III | 特別研究 | 特別研究 |
| 1年 | 助産学特論 II | 助産学特論 II 助産学特論 VI | 周産期看護学実習 ●看護倫理学 | 女性健康学実習 がん看護学特論 | ●「ト・ハツパイ」カゼット | 心と脳の発達学特論 環境病態学特論 ●病態生理学 | 心と脳の発達学実習 |
| 水 | 助産診断・技術学実習 IV | 助産診断・技術学実習 IV | | | | | |
| 2年 | 周麻酔期看護学実習 III がん看護学実習 IV | 周麻酔期看護学実習 III がん看護学実習 IV | 周麻酔期看護学実習 III がん看護学実習 IV | がん看護学実習 IV | がん看護学実習 IV | | |
| 1年 | 助産学特論 II | 助産学特論 II 助産診断・技術学実習 IV | 助産診断・技術学実習 III | 助産診断・技術学実習 I | 助産診断・技術学実習 I | 医の共通科目/衛生社会医学 環境病態学実習 看護実践応用学特論 公衆衛生看護学特論 | 看護実践応用学実習 |
| 木 | | | がん看護学実習 I | がん看護学実習 I | がん看護学実習 III | | 公衆衛生看護学実習 |
| 2年 | 周麻酔期看護学実習 III がん看護学実習 V | 周麻酔期看護学実習 III がん看護学実習 V | 周麻酔期看護学実習 III がん看護学実習 V | がん看護学実習 V | がん看護学実習 V | がん看護学実習 V | |
| 1年 | 助産診断・技術学実習 II | 助産学特論 III | 助産診断・技術学実習 II | 助産診断・技術学実習 II 周麻酔期看護学実習 I | 助産学特論 II | 基礎看護学特論 精神看護学特論 助産学実習 I | 基礎看護学実習 精神看護学実習 英文解説 |
| 2年 | | | | 助産学実習 V | | | |

【凡例】
○：看護学専攻で必修の共通科目
●：高度実践コースのみ必修の共通科目
※表中の1コマは30時間分の授業を示す。

◇ 集中講義
下記の3科目は集中講義として開講
①看護管理論：前期集中講義
②看護情報学：後期集中講義
③家族看護学：後期集中講義
※日程については 別途連絡
◇ 医学・看護学修士課程合同科目
下記の2科目は医学研究科（修士課程）との合同授業
①医の共通科目
②衛生社会医学
※日程については別途連絡
◇ がん看護学実習 I・II・III・IV・V
※日程については別途連絡
◇ その他
授業は担当教員と履修者が相談のうえ、左表に記載

【使用教室】

| 施設 | 階 | 教室 | 主な使用科目 |
|----------|----|---------------------|------------|
| 看護学棟 | 6F | 大学院第1講義室 | 共通科目 等 |
| | 4F | 情報科学室 | 英文講読・看護情報学 |
| | 3F | 第1～5演習室 | 各演習科目 等 |
| 看護学棟 | 2F | 第3講義室 | 助産学実践科目 |
| | 2F | 第4講義室 | 助産学実践科目 |
| 基礎医学棟 | 1F | 第1講義室 | 環境病態学 |
| | 1F | LL教室 | 英文講読 |
| 医局棟 | 3F | 薬理学名研究室 | 臨床薬理学 |
| | 3F | 麻酔科学講座 カンファレンス室 | 周麻酔期看護学科目 |
| 臨床研修センター | 2F | 地域医療学講座 カンファレンス室 | 地域医療学 |

【後期】(9/17(金)～)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|----|-----------------------------|------------------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|------------------------------------|----------------------|
| 月 | 9:00～10:30 助産学実習Ⅱ | 10:40～12:10 助産学実習Ⅱ | 13:00～14:30 助産学実習Ⅱ | 14:40～16:10 助産学実習Ⅲ | 16:20～17:50 助産学実習Ⅲ | 18:00～19:30 小児看護学演習 高齢者看護学演習 | 19:40～21:10 地域医療学 |
| 火 | 1年 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ |
| 水 | 1年 周産期看護学実習Ⅰ 周産期看護学演習 | 周産期看護学実習Ⅰ 女性健康学演習 がん看護学援助特論Ⅰ | 周産期看護学実習Ⅰ がん看護学援助特論Ⅱ | 周産期看護学実習Ⅰ がん看護学援助特論Ⅲ | ●臨床薬理学 がん看護学援助特論Ⅳ | 精神保健学 周産期看護学特論Ⅳ | 心と脳の発達学演習 |
| 木 | 1年 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ がん看護学演習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ がん看護学演習Ⅱ | 助産学実習Ⅲ | 連携病態学演習 看護実践応用学演習 公衆衛生看護学演習 | がん看護学演習Ⅲ |
| 金 | 2年 がん看護学実習Ⅰ | がん看護学実習Ⅰ | がん看護学実習Ⅰ | がん看護学実習Ⅰ | がん看護学実習Ⅰ | 基礎看護学演習 精神看護学演習 | |
| | 1年 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅱ | 助産学実習Ⅳ | | |
| 2年 | | | | | | | |

【凡例】

- ：看護学専攻で必修の共通科目
- ：高度実践コースのみ必修の共通科目
- ※表中の1コマは30時間分の授業を示す。

◇ 集中講義

- 下記の3科目は集中講義として開講
- ①看護管理論：前期集中講義
 - ②看護情報学：後期集中講義
 - ③家族看護学：後期集中講義
- ※日程については、別途連絡

◇ 医学・看護学修士課程合同科目

- 下記の2科目は医学研究科（修士課程）との合同授業
- ①医の共通科目
 - ②衛生社会医学
- ※日程については別途連絡
- ◇ がん看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
附属病院等での臨床実習を各3～4週間かけて行う。
- ◇ その他
授業は担当教員と履修者が相談のうえ、左表に記載

【使用教室】

| 階 | 施設 | 教室 | 主な使用科目 |
|----|----|---------------------|------------|
| 6F | | 大学院第1講義室 | 共通科目 等 |
| 4F | | 情報科学室 | 英文講読・看護情報学 |
| 3F | | 第1～5演習室 | 各演習科目 等 |
| 2F | | 第3講義室 | 助産学実践科目 |
| | | 第4講義室 | 助産学実践科目 |
| | | 第1講義室 | 環境病態学 |
| | | LL教室 | 英文講読 |
| 3F | | 薬理学各研究室 | 臨床薬理学 |
| 3F | | 病態科学講座 カンファレンス室 | 周産期看護学科目 |
| 2F | | 地域医療学講座 カンファレンス室 | 地域医療学 |

I 看護学研究科修士課程の概要

1 設置の趣旨

奈良県立医科大学医学部看護学科は優秀な人材の確保と社会に開かれた大学及び大学院をめざし、進歩が著しい看護学を学び、研究する人材を受け入れるため、看護学研究科修士課程・看護学専攻を設置し、優れた看護学を総合的に研究する機会を広げている。看護学に関係する広い分野に関する探究心の旺盛な人材を大学卒業予定者、卒業者、さらに社会人も含め広く募り、修士課程の充実を図っている。

近年、医療の進歩とともに看護学の進歩も著しく、看護領域が高度専門化され、専門看護師、認定看護師などが養成されてきている。この看護学の進歩に対応できる人材の育成が必要である。また同時に細分化、専門化するほどこれらの領域を有機的につなげ、さらに他職種との連携においてもリーダーとして活躍できる能力を有する看護職者の養成が必要となってきている。

また、本県の特徴として、大阪経済圏に距離的に近い北部の都会型の環境と、へき地が多く存在する南部の過疎地型の環境が共存しており、地域によるニーズの違いも生じている。このような状況の中で保健・医療・福祉に関する様々な問題に対して、的確な対応ができる高度な専門的知識・技術を有する看護職者の育成が必要となってきている。

近年の産科医不足によって全国的に出産場所が減少し、「お産難民」など搬送が必要な妊産婦の受け入れ先が決まるまでに時間を要した結果、生命の安全をゆるがす事態が生じている。奈良県においても平成 18 年に分娩中に意識不明になった妊婦が複数の病院で受け入れができず、その後死亡したという事例があり、また平成 19 年には、かかりつけ医のいない未受診の妊婦が複数の病院で受け入れができず死産するといった深刻な事案が発生した。それらのことを契機として平成 20 年に「奈良県地域医療等対策協議会」が設立され、「奈良県保健医療計画」が策定された。その中で周産期医療における産科医の不足、偏在を補うためにメディカルバースセンターが設置されることとなった。これは正常経過をたどる妊婦を対象に、産科医師との連携のもとに、助産師が中心となってケアを行い、自然な形で出産することをめざす独立した病棟と助産師外来を有している。加えて、助産師をめざす学生や地域の助産師が、妊娠から分娩・出産まで対応できるようにスキルアップを行うための研修機能も有している。

これらのことに対応するためには、高度な実践能力を備えた助産師の育成が不可欠であることから、本学大学院修士課程において助産師の養成を行うこととした。バースセンターを主たる実習場とすることで、助産師本来の業務である正常な妊娠の診断から妊娠期・分娩期・産褥期及び新生児期の経過診断を継続的にかつ自立して行い、その経過に沿った助産ケアを提供していく実習の実施が可能となる。

また、前述の「奈良県保健医療計画」において、いわゆる「へき地」と呼ばれる地域が本県の 67%を占めており、へき地を中心とした地域医療対策が急務となっていることが取り上げられている。医師の確保が困難な状況においてはへき地住民の健康を維持し、疾病予防や医療相談を受けられる保健師や看護師が必要であり、高度な実践能力を有する看護職者の育成が重要となっている。

このため、深い人間理解に基づいたケアができ、かつ高度な実践能力をもつ看護師・保健師・助産師の育成とともに、進歩著しい看護学教育を主体的に取り入れるため、既存の看護学科に加え、看護学研究科修士課程看護学専攻を、平成 24 年度に設置したところである。看護学研究科修

士課程を設立することによって、高い倫理観や科学的思考力を育てると共に、学際的視野を広げ、看護学における研究課題を自発的・具体的に研究し、質の高い看護学を学習し、実践できる能力を養うことを目標としている。なお、本県にはそれまで看護学研究科はなく、奈良県では初めての看護学における大学院研究科であり、県内の看護学の教育・研究をリードする場となっている。また、加えて本学修士課程においては、助産学実践コースを設置し、高度な知識と技術を有し、高度な実践能力を持つ質の高い助産師を養成し、地域に輩出することを目指してきた。

そして、平成30年4月に看護学コースに、高度な知識と技術を有する看護師の養成を目指すべく高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野）及び周麻酔期看護師教育課程を設置した。さらに、近年の高度化、複雑化する医療情勢において、がんは今や2人に1人が罹患する疾患となり、患者や家族への看護においては、高度な専門知識に基づいた判断能力、技術、態度及び高い倫理観が求められていることや都道府県がん診療連携拠点病院である附属病院における看護機能を高めるためには、がん看護分野が不可欠と考え、令和2年4月に設置した。また、将来的には、修士課程修了者がさらに学習、研究を進めていく場として、本看護学研究科内に博士課程を設置し、さらに質の高い博士課程教育につなげることにより、地域における看護教育及び研究の拠点として多くの教育者や研究者を教育・指導できる人材を育成することにより、地域の社会や医療に貢献し、本学のさらなる発展に寄与できると考える。

2 教育研究上の理念および目的

1) 理 念

本学は、「豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指す」という教育理念のもとに、教育・研究を展開し地域社会に貢献してきた。医学部看護学科は、その理念を受けて、その人らしい生き方を支える看護のあり方を追求し、地域社会との連携のもとに、人間と健康に関わる問題を多面的な視野から解決できる看護実践の中核的な役割を果たす人材を育成することを目的としている。

本研究科修士課程では、この理念を基盤に、豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化・専門分化および多様化していく医療に要求される知識や技術を的確に習得・発展させながら、実践科学としての看護学を探究する高度な実践能力と基礎的な研究能力を有する看護職者の育成をめざす。

2) 目 的

- (1) 優秀かつ柔軟な資質を併せもち、研究・教育・臨地のいずれの領域においても指導者となり得る人材の育成を図る。
- (2) 生命の尊厳の深い理解を基盤とし、専門性の高い看護実践能力と教育研究能力を備えた、看護学実践の専門職者、管理者、教育者を育成する。
- (3) 人間性豊かな高い倫理観を有し、生涯にわたって自ら学び、自立して研究ができる医療人の育成に努める。
- (4) 看護学における基礎的な研究能力を養うとともに、地域の特性を踏まえて、看護学と生命科学・社会科学の調和を図る。

3 看護学専攻の考え方と特色

1) 看護学コース

本県の地勢的な特徴や少子・高齢化に関する特徴及び高度機能病院を附属病院に持つということを鑑み、地域に居住する住民の疾病予防や健康維持・増進を担う高度な実践能力を有する看護職の育成を目指す。地域色の濃い医療の提供に関しては、海外、特にアメリカ等では“ルーラルナースィング（田舎又はへき地看護）”と位置づけており、都市部の看護活動とは違った課題を有している。本来のルーラルナースィング（以後 RN と略す。）は、一定地域内に居住する人口を指標としているが、本県においては中山間・山間地域が RN 該当地域と考えられる。RN の看護師の担う役割は、少ない人数で救急から慢性疾患及び在宅等に関する、あらゆる医療業務を行うこと、保健福祉サービスの業務、介護的業務も担うことが明らかにされている。RN の看護師は、いわゆる「あらゆる看護場面に対応できるジェネラリスト」であり、医療の受給者からは「地域性を熟知した上で対応してくれる専門職」の期待を背負っている。いわゆるジェネラリストであるが専門職でもあるという両方の養成が望まれているという現状がある。

また看護職者は医療チームとして他職種と関わり、地域住民の健康状況や健康問題への支援の必要性を適切に判断し、主体的・創造的にケアを提供する役割が求められる。言い換えれば、様々な健康レベルや健康に対するニーズを持つ人の、ライフサイクルに応じた、しかも、より個別性を見据えた、健康回復・推進に関する方法論の構築である。そのためには、人間の存在に対する深い理解と生命の尊厳に基づくヒューマンケアリングの実践家として、広い視野から学識を修め、理論と実践を統合する自立した実践者としてリフレクティブな看護を実践・研究・教育することのできる人材の育成を目的とする。

そして、平成 30 年 4 月に高度実践機能を有する看護師を養成するために高度実践コースを設置し、その中に日本看護系大学協議会（以下、「JANPU」という。）が認定する高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野）と本学認定の周麻酔期看護師教育課程を開設し、続いて令和 2 年に高度実践看護師教育課程（がん看護分野）の設置を完了した。JANPU の高度実践看護師教育課程には、専門看護師教育課程とナースプラクティショナー教育課程があるが、本学では専門看護師教育課程のみ設置している。専門看護師教育課程は、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する患者にケアとキューアを統合し、卓越した直接ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育及び研究を行い、ケアシステム全体を改善することで、看護実践力を向上させる高度実践看護師を養成する教育課程である。

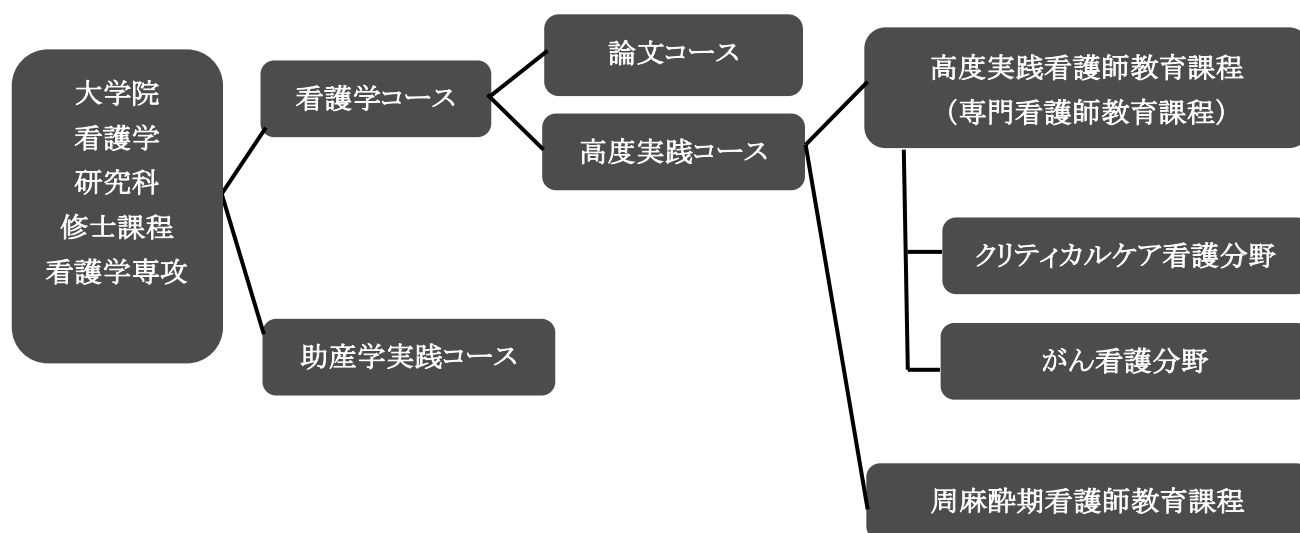
また、周麻酔期看護師教育課程は、麻酔科の医学的知識を集中的に学び、看護師として麻酔科医と協働して患者の麻酔管理を行う周麻酔期看護師を養成する課程である。看護学を基盤とし、麻酔学をはじめ薬理学、生理学、解剖学などの深い専門知識と高い麻酔管理技術により周麻酔期における包括的ケアを実践していく新しい分野である。手術室のみならず、術前・術後はもちろんのこと麻薬・鎮痛薬を使用する検査、救急医療、緩和医療などさまざまな場面での活躍が期待される。

2) 助産学実践コース

本学看護学科は、その前身である短大・専門学校であった、昭和 60 年から助産師の養成を行っており、それは大学になった後も助産選択コースとして続いている。近畿圏内における助産師養成は、数としての需給見通しは立つようになってきた。しかしながら、周産期における

課題は、家族形態の変化や女性の社会進出、少子高齢化、高齢出産、若年からの慢性疾患罹患、性の商品化による若年者の性の問題等様々な様相を呈している。そのため、従来の妊娠・出産に関する看護ではカバーできにくいニーズも存在するようになってきた。おりしも、本学附属病院に正常産は助産師が中心になって継続的に関わり、リスクのある場合は産科医が医療対応するメディカルバースセンターが設置されたことから、母と子及び家族に対するケアの開発研究や高度な実践力を持ち、他分野と協働しながら母子保健に貢献できる研究者・実践者の育成を目指すこととした。そのため、看護学研究科修士課程に助産師国家試験受験資格を得ることができる高度実践コースを開設することにした。

4 看護学研究科修士課程構成



II 奈良県立医科大学大学院看護学研究科（修士課程）履修要項

1 修了要件

本大学院に2年以上（優れた研究業績を上げた者については、1年以上）在学し、授業科目について、看護学コースのうち、論文コースにあつては30単位以上、高度実践コースの高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）にあつては40単位以上、同コースの周麻酔期看護師教育課程にあつては46単位以上修得し、かつ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果（以下、「課題研究成果物」という。）を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。助産学実践コースは、58単位以上修得し、かつ、課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

2 履修方法

修了要件に必要な科目の履修は、次のとおりである。

1) 看護学コース

(1) 論文コース

○必須の専門科目（学位論文作成の基本となる領域の科目）

| | |
|------|--------|
| 特 論 | 2 単位以上 |
| 演 習 | 4 単位以上 |
| 特別研究 | 8 単位以上 |

○選択専門科目（上記以外の領域の授業科目）

| | | |
|------|--------|--|
| 選択科目 | 6 単位以上 | 特論又は、演習を6単位以上選択。 研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1） |
|------|--------|--|

○共通科目 10 単位以上 必修科目（看護研究方法論、看護理論）4 単位
選択科目 6 単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1）

(2) 高度実践コース

①高度実践看護師（CNS）教育課程（専門看護師教育課程）

<クリティカルケア看護分野>

○必須の専門科目（クリティカルケア看護学の各専門科目）

| | |
|---------|-------|
| 専 門 科 目 | 14 単位 |
| 看護学実習 | 10 単位 |
| 課 題 研 究 | 2 単位 |

- 共通科目 14単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）
※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の1/2以内）を含む。

<がん看護分野>

- 必須の専門科目（がん看護学の各専門科目）

| | |
|-------|------|
| 専門科目 | 14単位 |
| 看護学実習 | 10単位 |
| 課題研究 | 2単位 |

- 共通科目 14単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）
※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の1/2以内）を含む。

※高度実践コースのクリティカルケア看護分野と論文コースの専門科目看護実践応用学領域は両コースともに同一年度に開講の場合に限り、相互の科目選択を可能とする。

②周麻酔期看護師教育課程

- 必須の専門科目（周麻酔期看護学の各専門科目）

| | |
|-------|------|
| 専門科目 | 12単位 |
| 看護学実習 | 16単位 |
| 課題研究 | 4単位 |

- 共通科目 14単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）
※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の1/2以内）を含む。

2) 助産学実践コース

- 必須の専門科目（課題研究成果物作成の基本となる領域の科目）

| | |
|------|-------|
| 特論 | 2単位以上 |
| 演習 | 4単位以上 |
| 課題研究 | 4単位以上 |

○選択専門科目（上記以外の領域の授業科目）

選択科目 6単位以上 特論又は、演習を6単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1）

○共通科目 10単位以上 必修科目（看護研究方法論、看護理論）4単位
選択科目 6単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1）

○助産学実践科目 32単位

3 単位修得の認定

履修した授業科目の単位修得の認定は、当該授業科目の担当教員が行い、成績判定会議で承認されたのち、修士課程委員会に報告するものとする。（様式2）

4 研究指導

1) 修士論文・課題研究成果物作成指導及び論文審査

学生は修士論文・課題研究成果物にかかる研究及び論文作成等にあたり、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。教育研究上有益と認められるときは、主科目以外の科目を担当する教員の指導を受けることができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。

(1) 研究指導のプロセス

学生は修士論文・課題研究成果物にかかる研究及び論文作成等にあたり、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。また複数の研究指導教員又は研究指導補助教員がいる主科目については、学生が提出した研究計画書における研究内容、研究方法等を参考に、学生本人の希望・意思及び教員の専門分野をあわせて総合的に判断され、研究指導教員と研究指導補助教員が決定される。教育研究上有益と認められるときは、主科目以外の科目を担当する教員の指導を受けることができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。

主科目の研究指導教員は、専門分野の特別研究において、研究課題の明確化、研究計画書作成から修士論文・課題研究成果物提出までの過程を、学生の作業過程にあわせて、適時、助言、指導を行う。

論文審査にあたっては、修士論文は主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの2名の研究指導教員、課題研究成果物においては主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの1名の研究指導教員からなる修士論文・課題研究成果物審査委員会（主科目の研究指導教員を含む。委員長は主科目の研究指導教員になることはできない。）が審査する。修士論文・課題研究成果物公聴会の前に、研究過程全般をとおして学生の学習経過を詳細に把握している主科目の研究指導教員をはじめとする指導教員から、今後の研究への発展や専門職業人としての活動に示唆を受

ける機会を得ることが可能である。

また、学生の研究の成果又はそのプロセスを広く公開する形式で修士論文・課題研究成果物公聴会を開催する。

(2) 評価の視点

① 研究課題

文献検討が充分になされ、研究課題は明確に定まっているか。

② 研究方法の選定

研究対象の選定、研究デザインは適切に選択されているか。

(系統的レビュー、症例報告等含む)

③ 倫理的配慮

研究デザインに添った倫理的配慮がなされているか。

④ 研究データの収集

課題に対するデータ収集が適切になされているか。

⑤ 結果とその解釈および研究の発表

- ・ 研究課題に対するこたえ、あるいは仮説の検定結果を示し、結果の意味や意義を解釈する考察が示されているか。
- ・ 研究は独創的思考に基づいているか。研究の発展性もしくは今後の課題は示されているか。看護学研究への貢献が期待できるものであるか。

2) 修士論文・課題研究成果物作成の基本的スケジュール

| 時期 | 論文コース | 高度実践コース、助産学実践コース | |
|-----|-------|--|---|
| 1年次 | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 主科目の研究指導教員よりオリエンテーションと2年間の研究スケジュールについて指導を受ける。 履修科目を決定する。 「人を対象とする医学系研究講習会」を必ず受講する（～5月）。 | |
| | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物の研究テーマ（仮）提出 主科目の研究指導教員より個別指導を受け、研究計画の構想を固める。 | |
| | 12月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物の研究計画書を主科目の研究指導教員に提出 研究における倫理的問題等に関する検討を経て、研究活動の許可を主科目の研究指導教員より得る。 倫理審査申請書類の作成 | |
| 2年次 | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 研究活動開始 特別研究において実験・実習・データ収集のための研究活動 | <ul style="list-style-type: none"> 看護学実習 研究活動開始 課題研究において実験・実習・データ収集のための研究活動 課題研究成果物作成 |
| | 6月 | <ul style="list-style-type: none"> 適宜、研究指導教員の個別指導を受ける。 研究活動の途中経過を主科目の研究指導教員に提出し、今後の進展方向の指導を受ける。 | |
| | 9月 | <ul style="list-style-type: none"> 中間発表会 | |
| | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 研究活動の継続、修士論文作成 | <ul style="list-style-type: none"> 課題研究成果物提出 |
| | 1月 | <ul style="list-style-type: none"> 論文審査申請・修士論文の提出 | |
| | 2月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物公聴会 | |
| | 3月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文審査及び最終試験 | |

※高度実践コース及び助産学実践コース履修者は中間発表会を行わない。

3) 最終試験

最終試験は、修士論文・課題研究成果物を中心として、主科目の研究指導教員が口頭又は筆記により行う。

4) 論文審査

修士論文・課題研究成果物は1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。審査は、看護学研究科修士課程委員会において修士論文・課題研究成果物審査委員会を設けて行う。修士論文・課題研究成果物公聴会を開催した後、修士論文・課題研究成果物審査委員会を開催する。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文においては看護学研究科修士課程委員会を構成する研究指導教員3名(主科目の研究指導教員1名と主科目でない研究指導教員

2名)の委員、課題研究成果物においては看護学研究科修士課程委員会を構成する研究指導教員2名(主科目の研究指導教員1名と主科目でない研究指導教員1名)で組織し、主科目担当でない研究指導教員1名を審査委員長とする。審査は1年に1回とする。ただし、特別の事情があるときは、看護学研究科修士課程委員会の議を経て、特別に審査することができる。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文・課題研究成果物審査終了後、審査結果、審査内容及び要旨を看護学研究科修士課程委員会に報告しなければならない。

看護学研究科修士課程委員会は、審査委員会の報告に基づき、学位授与の可否について、議決する。この議決は、看護学研究科修士課程委員会の構成員の3分の2以上が出席し、出席者の過半数以上の同意を必要とする。看護学研究科修士課程委員会委員長は、その結果を学長に報告しなければならない。学長は報告に基づき、修士の学位を授与すると決定された者には学位記を交付して学位を授与する。修士の学位を授与しないと決定された者には、その旨を通知する。

5 長期履修期間の短縮

2年間の課程を3年間で履修することができる長期履修制度を入学時に申請した学生が、長期履修期間の短縮を希望する場合、長期履修期間変更申請書を各年次の12月1日から12月20日までに学長に願い出て、その許可を受けなければならない。なお、2年次の上記期間中に短縮を希望する場合は、当該年度の9月に行われる中間発表会において発表を行わなければならない。

6 学位の授与

本研究科の課程を修了した者に与える学位は、
修士(看護学) Master of Science in Nursing である。

7 取得できる資格

助産師国家試験受験資格(助産学実践コースのみ)

受胎調節実地指導員(助産学実践コースのみ)

新生児蘇生法「専門」Aコース修了認定証(助産学実践コースのみ)

専門看護師認定審査受験資格(高度実践コースの高度実践看護師教育課程のみ)

※専門看護師認定審査を受けるためには、所定の単位取得の他に実務研修が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修であることが必要です。

周麻酔期看護師(高度実践コースの周麻酔期看護師教育課程のみ、大学院看護学研究科内認定)

II 奈良県立医科大学大学院看護学研究科（修士課程）履修要項

1 修了要件

本大学院に2年以上（優れた研究業績を上げた者については、1年以上）在学し、授業科目について、看護学コースのうち、論文コースにあつては30単位以上、高度実践コースの高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）にあつては40単位以上、同コースの周麻酔期看護師教育課程にあつては46単位以上修得し、かつ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果（以下、「課題研究成果物」という。）を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。助産学実践コースは、58単位以上修得し、かつ、課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

2 履修方法

修了要件に必要な科目の履修は、次のとおりである。

1) 看護学コース

(1) 論文コース

○必須の専門科目（学位論文作成の基本となる領域の科目）

| | |
|------|--------|
| 特 論 | 2 単位以上 |
| 演 習 | 4 単位以上 |
| 特別研究 | 8 単位以上 |

○選択専門科目（上記以外の領域の授業科目）

| | | |
|------|--------|---|
| 選択科目 | 6 単位以上 | 特論又は、演習を6 単位以上選択。 研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1） |
|------|--------|---|

○共通科目 10 単位以上 必修科目（看護研究方法論、看護理論）4 単位
選択科目 6 単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1）

(2) 高度実践コース

①高度実践看護師（CNS）教育課程（専門看護師教育課程）

<クリティカルケア看護分野>

○必須の専門科目（クリティカルケア看護学の各専門科目）

| | |
|---------|-------|
| 専 門 科 目 | 14 単位 |
| 看護学実習 | 10 単位 |
| 課 題 研 究 | 2 単位 |

- 共通科目 14単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）
※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の1/2以内）を含む。

<がん看護分野>

- 必須の専門科目（がん看護学の各専門科目）

| | |
|-------|------|
| 専門科目 | 14単位 |
| 看護学実習 | 10単位 |
| 課題研究 | 2単位 |

- 共通科目 14単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）
※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の1/2以内）を含む。

※高度実践コースのクリティカルケア看護分野と論文コースの専門科目看護実践応用学領域は両コースともに同一年度に開講の場合に限り、相互の科目選択を可能とする。

②周麻酔期看護師教育課程

- 必須の専門科目（周麻酔期看護学の各専門科目）

| | |
|-------|------|
| 専門科目 | 12単位 |
| 看護学実習 | 16単位 |
| 課題研究 | 4単位 |

- 共通科目 14単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）
※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の1/2以内）を含む。

2) 助産学実践コース

- 必須の専門科目（課題研究成果物作成の基本となる領域の科目）

| | |
|------|-------|
| 特論 | 2単位以上 |
| 演習 | 4単位以上 |
| 課題研究 | 4単位以上 |

○選択専門科目（上記以外の領域の授業科目）

選択科目 6単位以上 特論又は、演習を6単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1）

○共通科目 10単位以上 必修科目（看護研究方法論、看護理論）4単位
選択科目 6単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1）

○助産学実践科目 32単位

3 単位修得の認定

履修した授業科目の単位修得の認定は、当該授業科目の担当教員が行い、成績判定会議で承認されたのち、修士課程委員会に報告するものとする。（様式2）

4 研究指導

1) 修士論文・課題研究成果物作成指導及び論文審査

学生は修士論文・課題研究成果物にかかる研究及び論文作成等にあたり、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。教育研究上有益と認められるときは、主科目以外の科目を担当する教員の指導を受けることができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。

(1) 研究指導のプロセス

学生は修士論文・課題研究成果物にかかる研究及び論文作成等にあたり、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。また複数の研究指導教員又は研究指導補助教員がいる主科目については、学生が提出した研究計画書における研究内容、研究方法等を参考に、学生本人の希望・意思及び教員の専門分野をあわせて総合的に判断され、研究指導教員と研究指導補助教員が決定される。教育研究上有益と認められるときは、主科目以外の科目を担当する教員の指導を受けることができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。

主科目の研究指導教員は、専門分野の特別研究において、研究課題の明確化、研究計画書作成から修士論文・課題研究成果物提出までの過程を、学生の作業過程にあわせて、適時、助言、指導を行う。

論文審査にあたっては、修士論文は主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの2名の研究指導教員、課題研究成果物においては主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの1名の研究指導教員からなる修士論文・課題研究成果物審査委員会（主科目の研究指導教員を含む。委員長は主科目の研究指導教員になることはできない。）が審査する。修士論文・課題研究成果物公聴会の前に、研究過程全般をとおして学生の学習経過を詳細に把握している主科目の研究指導教員をはじめとする指導教員から、今後の研究への発展や専門職業人としての活動に示唆を受

ける機会を得ることが可能である。

また、学生の研究の成果又はそのプロセスを広く公開する形式で修士論文・課題研究成果物公聴会を開催する。

(2) 評価の視点

①研究課題

研究課題は明確か、タイトルは論文内容を反映しているか。

②研究デザイン（研究の枠組み）

研究デザインは適切に選択されているか。（系統的レビュー、症例報告等含む。）

③研究方法

対象の選定、課題に対する研究方法が適切か、研究の再現を可能とする具体的な研究方法の記述がされているか。

④倫理的配慮

研究デザインに添った倫理的配慮がなされているか。

⑤研究プロセスおよび結果

データ収集、分析が妥当か。結果、考察が明確に記載されているか。

⑥独創性、今後の発展性、看護学への貢献

研究は独創的思考に基づいているか。研究の発展性があるか。今後の課題は明確にされているか。看護学研究への貢献が期待できるか。

2) 修士論文・課題研究成果物作成の基本的スケジュール

| 時期 | 論文コース | 高度実践コース、助産学実践コース | |
|-----|-------|--|---|
| 1年次 | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 主科目の研究指導教員よりオリエンテーションと2年間の研究スケジュールについて指導を受ける。 履修科目を決定する。 「人を対象とする医学系研究講習会」を必ず受講する（～5月）。 | |
| | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物の研究テーマ（仮）提出 主科目の研究指導教員より個別指導を受け、研究計画の構想を固める。 | |
| | 12月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物の研究計画書を主科目の研究指導教員に提出 研究における倫理的問題等に関する検討を経て、研究活動の許可を主科目の研究指導教員より得る。 倫理審査申請書類の作成 | |
| 2年次 | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 研究活動開始 特別研究において実験・実習・データ収集のための研究活動 | <ul style="list-style-type: none"> 看護学実習 研究活動開始 課題研究において実験・実習・データ収集のための研究活動 課題研究成果物作成 |
| | 6月 | <ul style="list-style-type: none"> 適宜、研究指導教員の個別指導を受ける。 研究活動の途中経過を主科目の研究指導教員に提出し、今後の進展方向の指導を受ける。 | |
| | 9月 | <ul style="list-style-type: none"> 中間発表会 | |
| | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 研究活動の継続、修士論文作成 | <ul style="list-style-type: none"> 課題研究成果物提出 |
| | 1月 | <ul style="list-style-type: none"> 論文審査申請・修士論文の提出 | |
| | 2月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物公聴会 | |
| | 3月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文審査及び最終試験 | |

※高度実践コース及び助産学実践コース履修者は中間発表会を行わない。

3) 最終試験

最終試験は、修士論文・課題研究成果物を中心として、主科目の研究指導教員が口頭又は筆記により行う。

4) 論文審査

修士論文・課題研究成果物は1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。審査は、看護学研究科修士課程委員会において修士論文・課題研究成果物審査委員会を設けて行う。修士論文・課題研究成果物公聴会を開催した後、修士論文・課題研究成果物審査委員会を開催する。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文においては看護学研究科修士課程委員会を構成する研究指導教員3名(主科目の研究指導教員1名と主科目でない研究指導教員

2名)の委員、課題研究成果物においては看護学研究科修士課程委員会を構成する研究指導教員2名(主科目の研究指導教員1名と主科目でない研究指導教員1名)で組織し、主科目担当でない研究指導教員1名を審査委員長とする。審査は1年に1回とする。ただし、特別の事情があるときは、看護学研究科修士課程委員会の議を経て、特別に審査することができる。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文・課題研究成果物審査終了後、審査結果、審査内容及び要旨を看護学研究科修士課程委員会に報告しなければならない。

看護学研究科修士課程委員会は、審査委員会の報告に基づき、学位授与の可否について、議決する。この議決は、看護学研究科修士課程委員会の構成員の3分の2以上が出席し、出席者の過半数以上の同意を必要とする。看護学研究科修士課程委員会委員長は、その結果を学長に報告しなければならない。学長は報告に基づき、修士の学位を授与すると決定された者には学位記を交付して学位を授与する。修士の学位を授与しないと決定された者には、その旨を通知する。

5 長期履修期間の短縮

2年間の課程を3年間で履修することができる長期履修制度を入学時に申請した学生が、長期履修期間の短縮を希望する場合、長期履修期間変更申請書を各年次の12月1日から12月20日までに学長に願い出て、その許可を受けなければならない。なお、2年次の上記期間中に短縮を希望する場合は、当該年度の9月に行われる中間発表会において発表を行わなければならない。

6 学位の授与

本研究科の課程を修了した者に与える学位は、
修士(看護学) Master of Science in Nursing である。

7 取得できる資格

助産師国家試験受験資格(助産学実践コースのみ)

受胎調節実地指導員(助産学実践コースのみ)

新生児蘇生法「専門」Aコース修了認定証(助産学実践コースのみ)

専門看護師認定審査受験資格(高度実践コースの高度実践看護師教育課程のみ)

※専門看護師認定審査を受けるためには、所定の単位取得の他に実務研修が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修であることが必要です。

周麻酔期看護師(高度実践コースの周麻酔期看護師教育課程のみ、大学院看護学研究科内認定)

II 奈良県立医科大学大学院看護学研究科（修士課程）履修要項

1 修了要件

本大学院に2年以上（優れた研究業績を上げた者については、1年以上）在学し、授業科目について、看護学コースのうち、論文コースにあつては30単位以上、高度実践コースの高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）にあつては40単位以上、同コースの周麻酔期看護師教育課程にあつては46単位以上修得し、かつ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果（以下、「課題研究成果物」という。）を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。助産学実践コースは、58単位以上修得し、かつ、課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

2 履修方法

修了要件に必要な科目の履修は、次のとおりである。

1) 看護学コース

(1) 論文コース

○必須の専門科目（学位論文作成の基本となる領域の科目）

| | |
|------|--------|
| 特 論 | 2 単位以上 |
| 演 習 | 4 単位以上 |
| 特別研究 | 8 単位以上 |

○選択専門科目（上記以外の領域の授業科目）

| | | |
|------|--------|---|
| 選択科目 | 6 単位以上 | 特論又は、演習を 6 単位以上選択。 研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式 1） |
|------|--------|---|

○共通科目 10 単位以上 必修科目（看護研究方法論、看護理論）4 単位
選択科目 6 単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式 1）

(2) 高度実践コース

①高度実践看護師（CNS）教育課程（専門看護師教育課程）

<クリティカルケア看護分野>

○必須の専門科目（クリティカルケア看護学の各専門科目）

| | |
|---------|-------|
| 専 門 科 目 | 14 単位 |
| 看護学実習 | 10 単位 |
| 課 題 研 究 | 2 単位 |

○共通科目 14 単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、

看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学)

※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の 1/2 以内）を含む。

※高度実践コースのクリティカルケア看護分野と論文コースの専門科目成人看護学領域は両コースともに同一年度に開講の場合に限り、相互の科目選択を可能とする。

②周麻酔期看護師教育課程

○必須の専門科目（周麻酔期看護学の各専門科目）

| | |
|-------|-------|
| 専門科目 | 12 単位 |
| 看護学実習 | 16 単位 |
| 課題研究 | 4 単位 |

○共通科目 14 単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）
※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の 1/2 以内）を含む。

2) 助産学実践コース

○必須の専門科目（課題研究成果物作成の基本となる領域の科目）

| | |
|------|--------|
| 特論 | 2 単位以上 |
| 演習 | 4 単位以上 |
| 課題研究 | 4 単位以上 |

○選択専門科目（上記以外の領域の授業科目）

選択科目 6 単位以上 特論又は、演習を 6 単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式 1）

○共通科目 10 単位以上 必修科目（看護研究方法論、看護理論）4 単位
選択科目 6 単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式 1）

○助産学実践科目 32 単位

3 単位修得の認定

履修した授業科目の単位修得の認定は、当該授業科目の担当教員が行い、成績判定会議で承認されたのち、修士課程委員会に報告するものとする。（様式 2）

4 研究指導

1) 修士論文・課題研究成果物作成指導及び論文審査

修士論文・課題研究成果物にかかる研究及び論文作成等にあたり、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。教育研究上有益と認められるときは、主科目以外の科目を担当する教員の指導を受けることができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。

(1) 指導内容及び評価の視点

①研究課題と研究枠組みの妥当性

研究課題は明確で、かつ看護学研究としての意義が記述されているか。

研究テーマの設定と研究の枠組が適切か。

②研究方法の妥当性

研究方法は研究課題にふさわしく、適切かつ的確な方法か。研究方法を選択した理由は明確か。

③文献レビューの適切性

当該領域における国内外の主要な文献をレビューし、適切に検討しているか。文献検討の結果、研究の現状と取りあげる研究課題の位置づけが示されているか。

④データ収集と分析処理の的確さ

データ収集と分析の方法は科学的で、かつ、適切か。データ収集及び分析における長所・短所を明確にしているか。データ分析の解釈及び結果の記述は適切か。

⑤プレゼンテーションの適切性

データの表示、対象事例の説明は的確か。

⑥研究における倫理的配慮

研究における倫理的配慮がなされているか。

⑦独創性、今後の発展性、看護学への貢献

研究は独創的か。研究の発展性があるか。今後の課題は明確にされているか。看護学研究への貢献が期待できるか。

(2) 研究指導のプロセス

学生は修士論文・課題研究成果物にかかる研究及び論文作成等にあたり、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。また複数の研究指導教員又は研究指導補助教員がいる主科目については、学生が提出した研究計画書における研究内容、研究方法等を参考に、学生本人の希望・意思及び教員の専門分野をあわせて総合的に判断され、研究指導教員と研究指導補助教員が決定される。教育研究上有益と認められるときは、主科目以外の科目を担当する教員の指導を受けることができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。

主科目の研究指導教員は、専門分野の特別研究において、研究課題の明確化、研究計画書作成から修士論文・課題研究成果物提出までの過程を、学生の作業過程にあわせて、適時、助言、指導を行う。

論文審査にあたっては、修士論文は主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの 2 名の研究指導教員、課題研究成果物においては主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの

1名の研究指導教員からなる修士論文・課題研究成果物審査委員会(主科目の研究指導教員を含む。委員長は主科目の研究指導教員がなることはできない。)が審査する。修士論文・課題研究成果物公聴会の前に、研究過程全般をとおして学生の学習経過を詳細に把握している主科目の研究指導教員をはじめとする指導教員から、今後の研究への発展や専門職業人としての活動に示唆を受ける機会を得ることが可能である。

また、学生の研究の成果又はそのプロセスを広く公開する形式で修士論文・課題研究成果物公聴会を開催する。

2) 修士論文・課題研究成果物作成の基本的スケジュール

| 時期 | | 論文コース | 高度実践コース、助産学実践コース | |
|-----|-----|--|---|--|
| 1年次 | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 主科目の研究指導教員よりオリエンテーションと2年間の研究スケジュールについて指導を受ける。 履修科目を決定する。 「人を対象とする医学系研究講習会」を必ず受講する(～5月)。 | | |
| | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物の研究テーマ(仮)提出 主科目の研究指導教員より個別指導を受け、研究計画の構想を固める。 | | |
| | 12月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物の研究計画書を主科目の研究指導教員に提出 研究における倫理的問題等に関する検討を経て、研究活動の許可を主科目の研究指導教員より得る。 倫理審査申請書類の作成 | | |
| 2年次 | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 研究活動開始 特別研究において実験・実習・データ収集のための研究活動 | <ul style="list-style-type: none"> 看護学実習 研究活動開始 課題研究において実験・実習・データ収集のための研究活動 課題研究成果物作成 | |
| | 6月 | <ul style="list-style-type: none"> 適宜、研究指導教員の個別指導を受ける。 研究活動の途中経過を主科目の研究指導教員に提出し、今後の進展方向の指導を受ける。 | | |
| | 9月 | <ul style="list-style-type: none"> 中間発表会 | | |
| | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 研究活動の継続、修士論文作成 | | |
| | 1月 | <ul style="list-style-type: none"> 論文審査申請・修士論文の提出 | <ul style="list-style-type: none"> 課題研究成果物提出 | |
| | 2月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物公聴会 | | |
| | 3月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文審査及び最終試験 | <ul style="list-style-type: none"> 課題研究成果物審査及び最終試験 | |

※高度実践コース及び助産学実践コース履修者は中間発表会を行わない。

3) 最終試験

最終試験は、修士論文・課題研究成果物を中心として、主科目の研究指導教員が口頭又は筆記により行う。

4) 論文審査

修士論文・課題研究成果物は1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。審査は、看護学研究科修士課程委員会において修士論文・課題研究成果物審査委員会を設けて行う。修士論文・課題研究成果物公聴会を開催した後、修士論文・課題研究成果物審査委員会を開催する。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文においては看護学研究科修士課程委員会を構成する研究指導教員3名(主科目の研究指導教員1名と主科目でない研究指導教員2名)の委員、課題研究成果物においては看護学研究科修士課程委員会を構成する研究指導教員2名(主科目の研究指導教員1名と主科目でない研究指導教員1名)で組織し、主科目担当でない研究指導教員1名を審査委員長とする。審査は1年に1回とする。ただし、特別の事情があるときは、看護学研究科修士課程委員会の議を経て、特別に審査することができる。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文・課題研究成果物審査終了後、審査結果、審査内容及び要旨を看護学研究科修士課程委員会に報告しなければならない。

看護学研究科修士課程委員会は、審査委員会の報告に基づき、学位授与の可否について、議決する。この議決は、看護学研究科修士課程委員会の構成員の3分の2以上が出席し、出席者の過半数以上の同意を必要とする。看護学研究科修士課程委員会委員長は、その結果を学長に報告しなければならない。学長は報告に基づき、修士の学位を授与すると決定された者には学位記を交付して学位を授与する。修士の学位を授与しないと決定された者には、その旨を通知する。

5 長期履修期間の短縮

2年間の課程を3年間で履修することができる長期履修制度を入学時に申請した学生が、長期履修期間の短縮を希望する場合、長期履修期間変更申請書を各年次の12月1日から12月20日までに学長に願い出て、その許可を受けなければならない。なお、2年次の上記期間中に短縮を希望する場合は、当該年度の9月に行われる中間発表会において発表を行わなければならない。

6 学位の授与

本研究科の課程を修了した者に与える学位は、
修士(看護学) Master of Science in Nursing である。

7 取得できる資格

助産師国家試験受験資格(助産学実践コースのみ)

受胎調節実地指導員(助産学実践コースのみ)

新生児蘇生法「専門」Aコース修了認定証(助産学実践コースのみ)

専門看護師認定審査受験資格(高度実践コースの高度実践看護師教育課程のみ)

※専門看護師認定審査を受けるためには、所定の単位取得の他に実務研修が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修であることが必要です。

周麻酔期看護師(高度実践コースの周麻酔期看護師教育課程のみ、大学院看護学研究科内認定)

II 奈良県立医科大学大学院看護学研究科（修士課程）履修要項

1 修了要件

本大学院に2年以上（優れた研究業績を上げた者については、1年以上）在学し、授業科目について、看護学コースのうち、論文コースにあつては30単位以上、高度実践コースの高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）にあつては40単位以上、同コースの周麻酔期看護師教育課程にあつては46単位以上修得し、かつ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果（以下、「課題研究成果物」という。）を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。助産学実践コースは、論文コースの30単位に加え助産学実践科目28単位の修得を必要とする。

2 履修方法

修了要件に必要な科目の履修は、次のとおりである。

1) 看護学コース

(1) 論文コース

○必須の専門科目（学位論文作成の基本となる領域の科目）

| | |
|------|--------|
| 特 論 | 2 単位以上 |
| 演 習 | 4 単位以上 |
| 特別研究 | 8 単位以上 |

○選択専門科目（上記以外の領域の授業科目）

| | | |
|------|--------|--|
| 選択科目 | 6 単位以上 | 特論又は、演習を6単位以上選択。 研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1） |
|------|--------|--|

○共通科目 10 単位以上 必修科目（看護研究方法論、看護理論）4 単位
選択科目 6 単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式1）

(2) 高度実践コース

①高度実践看護師（CNS）教育課程（専門看護師教育課程）

<クリティカルケア看護分野>

○必須の専門科目（クリティカルケア看護学の各専門科目）

| | |
|---------|-------|
| 専 門 科 目 | 14 単位 |
| 看護学実習 | 10 単位 |
| 課 題 研 究 | 2 単位 |

- 共通科目 14 単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）
※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の1/2以内）を含む。

※高度実践コースのクリティカルケア看護分野と論文コースの専門科目成人看護学領域は両コースともに同一年度の開講の場合に限り、相互の科目選択を可能とする。

②周麻酔期看護師教育課程

- 必須の専門科目（周麻酔期看護学の各専門科目）

| | |
|-------|-------|
| 専門科目 | 12 単位 |
| 看護学実習 | 16 単位 |
| 課題研究 | 4 単位 |

- 共通科目 14 単位 必修科目（看護研究方法論、看護理論、看護倫理学、看護管理論、アドバンストフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）
※このうち病態生理学は、e-learning（全講義時間の1/2以内）を含む。

2) 助産学実践コース

- 必須の専門科目（学位論文作成の基本となる領域の科目）

| | |
|------|--------|
| 特論 | 2 単位以上 |
| 演習 | 4 単位以上 |
| 特別研究 | 8 単位以上 |

- 選択専門科目（上記以外の領域の授業科目）

| | | |
|------|--------|---|
| 選択科目 | 6 単位以上 | 特論又は、演習を 6 単位以上選択。 研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式 1） |
|------|--------|---|

- 共通科目 10 単位以上 必修科目（看護研究方法論、看護理論）4 単位
選択科目 6 単位以上選択。
研究指導教員の指導を受けて指定の期日までに届け出るものとする。（様式 1）

助産学実践コースは、上記 30 単位に加え助産学実践科目 28 単位を修得すること。

- 助産学実践科目 28 単位

3 単位修得の認定

履修した授業科目の単位修得の認定は、当該授業科目の担当教員が行い、成績判定会議で承認されたのち、修士課程委員会に報告するものとする。(様式2)

4 研究指導

1) 修士論文・課題研究成果物作成指導及び論文審査

学生は修士論文・課題研究成果物にかかる研究及び論文作成等にあたり、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。教育研究上有益と認められるときは、主科目以外の科目を担当する教員の指導を受けることができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。

(1) 指導内容及び評価の視点

①研究課題と研究枠組みの妥当性

研究課題は明確で、かつ看護学研究としての意義が記述されているか。

研究テーマの設定と研究の枠組みが適切か。

②研究方法の妥当性

研究方法是研究課題にふさわしく、適切かつ的確な方法か。研究方法を選択した理由は明確か。

③文献レビューの適切性

当該領域における国内外の主要な文献をレビューし、適切に検討しているか。文献検討の結果、研究の現状と取りあげる研究課題の位置づけが示されているか。

④データ収集と分析処理の的確さ

データ収集と分析の方法は科学的で、かつ、適切か。データ収集及び分析における長所・短所を明確にしているか。データ分析の解釈及び結果の記述は適切か。

⑤プレゼンテーションの適切性

データの表示、対象事例の説明は的確か。

⑥研究における倫理的配慮

研究における倫理的配慮がなされているか。

⑦独創性、今後の発展性、看護学への貢献

研究は独創的か。研究の発展性があるか。今後の課題は明確にされているか。看護学研究への貢献が期待できるか。

(2) 研究指導のプロセス

学生は修士論文・課題研究成果物にかかる研究及び論文作成等にあたり、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。また複数の研究指導教員又は研究指導補助教員がいる主科目については、院生が提出した研究計画書における研究内容、研究方法等を参考に、院生本人の希望・意思及び教員の専門分野をあわせて総合的に判断され、研究指導教員と研究指導補助教員が決定される。教育研究上有益と認められるときは、主科目以外の科目を担当する教員の指導を受けることができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。

主科目の研究指導教員は、専門分野の特別研究において、研究課題の明確化、研究計画書作成から修士論文・課題研究成果物提出までの過程を、院生の作業過程にあわせて、適時、助言、指

導を行う。

論文審査にあたっては、修士論文は主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの2名の研究指導教員、課題研究成果物においては主科目の研究指導教員が指名する主科目以外からの1名の研究指導教員からなる修士論文・課題研究成果物審査委員会(主科目の研究指導教員を含む。委員長は主科目の研究指導教員になることはできない。)が審査する。修士論文・課題研究成果物公聴会の前に、研究過程全般をとおして院生の学習経過を詳細に把握している主科目の研究指導教員をはじめとする指導教員から、今後の研究への発展や専門職業人としての活動に示唆を受ける機会を得ることが可能である。

また、大学院生の研究の成果又はそのプロセスを広く公開する形式で修士論文・課題研究成果物公聴会を開催する。

2) 修士論文・課題研究成果物作成の基本的スケジュール

| 時期 | | 論文コース、助産学実践コース | 高度実践コース |
|-----|-----|--|---|
| 1年次 | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 主科目の研究指導教員よりオリエンテーションと2年間の研究スケジュールについて指導を受ける。 履修科目を決定する。 「人を対象とする医学系研究講習会」を必ず受講する(～5月)。 | |
| | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物の研究テーマ(仮)提出 主科目の研究指導教員より個別指導を受け、研究計画の構想を固める。 | |
| | 12月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物の研究計画書を主科目の研究指導教員に提出 研究における倫理的問題等に関する検討を経て、研究活動の許可を主科目の研究指導教員より得る。 倫理審査申請書類の作成 | |
| 2年次 | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 研究活動開始 特別研究において実験・実習・データ収集のための研究活動 | <ul style="list-style-type: none"> 看護学実習 研究活動開始 課題研究において実験・実習・データ収集のための研究活動 課題研究成果物作成 |
| | 6月 | <ul style="list-style-type: none"> 適宜、研究指導教員の個別指導を受ける。 研究活動の途中経過を主科目の研究指導教員に提出し、今後の進展方向の指導を受ける。 | |
| | 9月 | <ul style="list-style-type: none"> 中間発表会 | |
| | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 研究活動の継続、修士論文作成 | |
| | 1月 | <ul style="list-style-type: none"> 論文審査申請・修士論文の提出 | <ul style="list-style-type: none"> 課題研究成果物提出 |
| | 2月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文・課題研究成果物公聴会 | |
| | 3月 | <ul style="list-style-type: none"> 修士論文審査及び最終試験 | <ul style="list-style-type: none"> 課題研究成果物審査及び最終試験 |

※高度実践コース履修者は中間発表会を行わない。

3) 最終試験

最終試験は、修士論文・課題研究成果物を中心として、主科目の研究指導教員が口頭又は筆記により行う。

4) 論文審査

修士論文・課題研究成果物は1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。審査は、看護学研究科修士課程委員会において修士論文・課題研究成果物審査委員会を設けて行う。修士論文・課題研究成果物公聴会を開催した後、修士論文・課題研究成果物審査委員会を開催する。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文においては看護学研究科修士課程委員会を構成する研究指導教員3名(主科目の研究指導教員1名と主科目でない研究指導教員2名)の委員、課題研究成果物においては看護学研究科修士課程委員会を構成する研究指導教員2名(主科目の研究指導教員1名と主科目でない研究指導教員1名)で組織し、主科目担当でない研究指導教員1名を審査委員長とする。審査は1年に1回とする。ただし、特別の事情があるときは、看護学研究科修士課程委員会の議を経て、特別に審査することができる。修士論文・課題研究成果物審査委員会は、修士論文・課題研究成果物審査終了後、審査結果、審査内容及び要旨を看護学研究科修士課程委員会に報告しなければならない。

看護学研究科修士課程委員会は、審査委員会の報告に基づき、学位授与の可否について、議決する。この議決は、看護学研究科修士課程委員会の構成員の3分の2以上が出席し、出席者の過半数以上の同意を必要とする。看護学研究科修士課程委員会委員長は、その結果を学長に報告しなければならない。学長は報告に基づき、修士の学位を授与すると決定された者には学位記を交付して学位を授与する。修士の学位を授与しないと決定された者には、その旨を通知する。

5 長期履修期間の短縮

2年間の課程を3年間で履修することができる長期履修制度を入学時に申請した学生が、長期履修期間の短縮を希望する場合、長期履修期間変更申請書を各年次の12月1日から12月20日までに学長に願い出て、その許可を受けなければならない。なお、2年次の上記期間中に短縮を希望する場合は、当該年度の9月に行われる中間発表会において発表を行わなければならない。

6 学位の授与

本研究科の課程を修了した者に与える学位は、
修士(看護学) Master of Science in Nursing である。

7 取得できる資格

助産師国家試験受験資格(助産学実践コースのみ)

受胎調節実地指導員(助産学実践コースのみ)

新生児蘇生法「専門」Aコース修了認定証(助産学実践コースのみ)

専門看護師認定審査受験資格(高度実践コースの高度実践看護師教育課程のみ)

※専門看護師認定審査を受けるためには、所定の単位取得の他に実務研修が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修であることが必要です。

周麻酔期看護師(高度実践コースの周麻酔期看護師教育課程のみ、大学院看護学研究科内認定)

(様式1)

年 月 日

大学院看護学研究科（修士課程）の履修登録について

奈良県立医科大学長 殿

氏名 _____ 印

下記のとおり、履修登録します。

記

| | | | |
|--------------|---|-------|-----|
| 学年 | 年 | | |
| 氏名 | | 主科目名 | |
| | | 科 目 名 | 備 考 |
| 特 論 | | | |
| | | | |
| | | | |
| 演 習 | | | |
| | | | |
| | | | |
| 特別研究 | | | |
| 共通科目 | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 主科目研究指導教員承認印 | | | |

(様式2)

大学院看護学研究科（修士課程）成績について

年 月 日

奈良県立医科大学長 殿

科目名 _____ 教員名 _____ 印 _____

上記科目の成績について、以下のとおり報告します。

記

| 学籍番号 | 氏名 | 成績 |
|------|----|----|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

(注) 成績はA. B. C. Dとして表示し、100点法との関係は、
A (100～80点) ・B (79～70点) ・C (69～60点) ・D (59～0点) とし、
A. B. Cを合格とし、Dを不合格とする。

助産学に係る科目の履修について

奈良県立医科大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程授業科目履修要領

(趣 旨)

第 1 条 この要領は、奈良県立医科大学大学院看護学研究科の授業科目の履修要領に基づき、助産師国家試験受験資格の取得に必要な科目のうち助産学に係る科目（以下「助産学実践科目」という。）の履修方法について必要な事項を定めるものとする。

(助産学実践科目の定義)

第 2 条 助産学実践科目の名称及び単位数は別表 I の通りとする。

(履修の制限等)

第 3 条 別表 I において、助産学実習 II を履修する者は、助産学特論 I ～VI、助産診断・技術学演習 I ～IV 及び助産学実習 I の単位を修得し、原則同一年次に「助産学実習 II ～IV」を履修すること。

第 4 条 この要領に定めるもののほか、助産学実践科目の履修にあたって必要な事項は、別に定める。

附則

この要領は平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この要領は平成 31 年 3 月 1 日から施行する。

附則

この要領は令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

別表 I 平成 31 年度以降入学生の助産学実践科目及び単位数

| 科目名 | 単位数 |
|----------------------------|-----|
| 助産学特論 I - 助産学概論 - | 2 |
| 助産学特論 II - 基礎助産学 - | 2 |
| 助産学特論 III - 胎児・新生児学 - | 1 |
| 助産学特論 IV - 健康教育 - | 1 |
| 助産学特論 V - 地域母子保健 - | 1 |
| 助産学特論 VI - 助産管理 - | 2 |
| 助産診断・技術学演習 I - 妊娠期 - | 2 |
| 助産診断・技術学演習 II - 分娩期 - | 3 |
| 助産診断・技術学演習 III - 産褥・新生児期 - | 2 |
| 助産診断・技術学演習 IV - ハイリスク - | 1 |
| 助産学実習 I - 基礎 - | 1 |
| 助産学実習 II - 病院 - | 9 |
| 助産学実習 III - ハイリスク - | 2 |
| 助産学実習 IV - 保健指導 - | 1 |
| 助産学実習 V - 助産所 - | 2 |
| 合 計 | 32 |

ディプロマポリシー

1. 看護学に関する確かな専門知識と深い学識を修得している。
2. 生命科学、社会科学、情報科学などの知識を活用して研究能力が発揮できる。
3. 看護専門職者（論文コース修了者）として、地域医療での指導能力を発揮できる。
4. 看護専門職者（高度実践コース修了者）として、高度な実践能力と指導能力を発揮できる。
5. 看護専門職者（助産学実践コース修了者）として、地域における周産期医療での指導能力と高度な実践能力を発揮できる。

看護学コース
[論文コース]

看護学コース
[高度実践コース]

助産学実践コース

修士論文

課題研究成果物

専門科目

①基盤看護学分野

- ・健康科学領域
「心と脳の発達学」
「環境病態学」
- ・基礎看護学領域

専門科目

②実践看護学分野

- ・看護実践応用学領域
- ・がん看護学領域
- ・高齢者看護学領域
- ・小児看護学領域
- ・女性健康・助産学領域
- ・精神看護学領域
- ・在宅看護学領域

専門科目

②実践看護学分野

- ・高度実践看護師教育課程
（専門看護師（CNS）教育課程）
＜クリティカルケア看護分野＞
＜がん看護分野＞
- ・周麻酔期看護師教育課程

助産学実践科目

- ・助産学実践コース

共通科目

- ・必修「看護研究方法論」「看護理論」
- ・選択「英文講読」「看護倫理学」「看護情報学」
「看護管理論」「病態生理学」「臨床薬理学」
「精神保健学」「家族看護学」
「アドバンストフィジカルアセスメント」「地域医療学」

医科学共通科目

- ・選択「医の共通科目」
「衛生社会医学」

教育課程等の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

| 区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 時間数 | 主担当教員 | 頁 | 修了要件履修単位 | |
|------------|---------------------|-------------|-----|-----|--------|--------|--------|---|---|
| | | | 必修 | 選択 | | | | | |
| 共通科目 | 看護研究方法論 ● | 1前 | 2 | | 30 | 石澤 美保子 | 45 | 【論文コース・助産学実践コース】 必修科目：4単位 選択科目：6単位以上 【高度実践コース】 ●印の科目14単位が必修 | |
| | 看護理論 ● | 1前 | 2 | | 30 | 川上 あずさ | 47 | | |
| | 英文講読 | 1前 | | 2 | 30 | 勝井 伸子 | 49 | | |
| | 看護倫理学 ● | 1前 | | 2 | 30 | 池邊 寧 | 51 | | |
| | 看護情報学 | 1後 | | 2 | 30 | 浅野 弘明 | 53 | | |
| | 精神保健学 | 1後 | | 2 | 30 | 太田 豊作 | 55 | | |
| | 家族看護学 | 1後 | | 2 | 30 | 新田 紀枝 | 57 | | |
| | 看護管理論 ● | 1前 | | 2 | 30 | 笠松 由利 | 59 | | |
| | アドバンストフィジカルアセスメント ● | 1前 | | 2 | 30 | 濱田 薫 | 61 | | |
| | 地域医療学 | 1後 | | 2 | 30 | 赤井 靖宏 | 63 | | |
| | 病態生理学 ● | 1前 | | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 64 | | |
| | 臨床薬理学 ● | 1後 | | 2 | 30 | 吉栖 正典 | 66 | | |
| | 医の共通科目 | 1前 | | 1 | 15 | 吉栖 正典 | 67 | | |
| 衛生社会医学 | 1前 | | 1 | 15 | 今村 知明 | 68 | | | |
| 論文コース | 専門科目 | 心と脳の発達学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 太田 豊作 | 69 | 【論文コース】 必須の専門科目：14単位 選択専門科目：6単位以上 |
| | | 心と脳の発達学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 太田 豊作 | 71 | |
| | | 心と脳の発達学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 太田 豊作 | 73 | |
| | | 環境病態学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 濱田 薫 | 74 | |
| | | 環境病態学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 濱田 薫 | 76 | |
| | | 環境病態学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 濱田 薫 | 77 | |
| | | 基礎看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 松田 明子 | 78 | |
| | | 基礎看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 松田 明子 | 79 | |
| | | 基礎看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 松田 明子 | 80 | |
| | | 看護実践応用学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 81 | |
| | | 看護実践応用学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 石澤 美保子 | 82 | |
| | | 看護実践応用学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 石澤 美保子 | 83 | |
| | | がん看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 田中 登美 | 84 | |
| | | がん看護学演習Ⅲ | 1通 | | 4 | 120 | 田中 登美 | 86 | |
| | | がん看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 田中 登美 | 87 | |
| | | 高齢者看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 澤見 一枝 | 88 | |
| | | 高齢者看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 澤見 一枝 | 89 | |
| | | 高齢者看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 澤見 一枝 | 91 | |
| | | 小児看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 川上 あずさ | 92 | |
| | | 小児看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 川上 あずさ | 94 | |
| 小児看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 川上 あずさ | 95 | | | |
| 女性健康学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 五十嵐 稔子 | 96 | | | |
| 女性健康学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 五十嵐 稔子 | 98 | | | |
| 女性健康学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 五十嵐 稔子 | 99 | | | |
| 周産期看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 五十嵐 稔子 | 100 | | | |
| 周産期看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 五十嵐 稔子 | 102 | | | |
| 周産期看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 五十嵐 稔子 | 103 | | | |

教育課程等の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

| 区分 | 授業科目の名称 | 配当 年次 | 単位数 | | 時間 数 | 主担当教員 | 頁 | 修了要件履修単位 | | |
|-----------|---------------------|----------------------|------------------|----|---------|-------|--------|----------|---|---|
| | | | 必修 | 選択 | | | | | | |
| 論文コース | 専門科目 | 精神看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 風間 眞理 | 104 | 【論文コース】 必須の専門科目：14単位 選択専門科目：6単位以上 | |
| | | 精神看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 風間 眞理 | 105 | | |
| | | 精神看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 風間 眞理 | 106 | | |
| | | 在宅看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 小竹 久実子 | 107 | | |
| | | 在宅看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 小竹 久実子 | 109 | | |
| | | 在宅看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 小竹 久実子 | 110 | | |
| | | 公衆衛生看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 城島 哲子 | 111 | | |
| | | 公衆衛生看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 城島 哲子 | 112 | | |
| | | 公衆衛生看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 城島 哲子 | 113 | | |
| 高度実践コース | 高度実践看護師教育課程 | クリティカルケア看護分野 専門科目 | 急性病態治療学 | 1前 | | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 114 | 【高度実践看護師教育課程】 ＜クリティカルケア看護分野＞ 必須の専門科目：26単位 |
| | | | 急性看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 116 | |
| | | | 急性看護学援助特論Ⅰ | 1後 | | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 118 | |
| | | | 急性看護学援助特論Ⅱ（治療管理） | 1通 | | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 120 | |
| | | | 急性看護学演習Ⅰ | 1通 | | 2 | 60 | 石澤 美保子 | 122 | |
| | | | 急性看護学演習Ⅱ | 1通 | | 2 | 60 | 石澤 美保子 | 124 | |
| | | | 急性看護学演習Ⅲ | 2前 | | 2 | 60 | 石澤 美保子 | 126 | |
| | | | 急性看護学実習Ⅰ | 1後 | | 2 | 90 | 石澤 美保子 | 128 | |
| | | | 急性看護学実習Ⅱ | 2通 | | 2 | 90 | 石澤 美保子 | 129 | |
| | | | 急性看護学実習Ⅲ | 2通 | | 2 | 90 | 石澤 美保子 | 130 | |
| | | | 急性看護学実習Ⅳ | 2通 | | 4 | 180 | 石澤 美保子 | 131 | |
| | | | 急性看護学課題研究 | 2通 | | 2 | 60 | 石澤 美保子 | 133 | |
| | がん看護分野 専門科目 | がん病態治療学 | 1前 | | 2 | 30 | 長谷川 正俊 | 134 | 【高度実践看護師教育課程】 ＜がん看護分野＞ 必須の専門科目：26単位 | |
| | | がん看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 田中 登美 | 84 | | |
| | | がん看護学援助特論Ⅰ | 1後 | | 2 | 30 | 田中 登美 | 136 | | |
| | | がん看護学援助特論Ⅱ | 1後 | | 2 | 30 | 田中 登美 | 138 | | |
| | | がん看護学援助特論Ⅲ | 1後 | | 2 | 30 | 田中 登美 | 140 | | |
| | | がん看護学演習Ⅰ | 1前 | | 2 | 60 | 田中 登美 | 142 | | |
| | | がん看護学演習Ⅱ | 1後 | | 2 | 60 | 田中 登美 | 144 | | |
| | | がん看護学実習Ⅰ | 1後 | | 2 | 90 | 田中 登美 | 147 | | |
| | | がん看護学実習Ⅱ | 2通 | | 2 | 90 | 田中 登美 | 149 | | |
| | | がん看護学実習Ⅲ | 2通 | | 2 | 90 | 田中 登美 | 151 | | |
| | | がん看護学実習Ⅳ | 2通 | | 2 | 90 | 田中 登美 | 152 | | |
| | | がん看護学実習Ⅴ | 2通 | | 2 | 90 | 田中 登美 | 153 | | |
| がん看護学課題研究 | 2通 | | 2 | 60 | 田中 登美 | 155 | | | | |
| 高度実践コース | 周麻酔期看護師教育課程 専門科目 | 周麻酔期看護学特論Ⅰ | 1前 | | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 156 | 【周麻酔期看護師教育課程】 必須の専門科目：32単位 | |
| | | 周麻酔期看護学特論Ⅱ | 1前 | | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 158 | | |
| | | 周麻酔期看護学特論Ⅲ | 1後 | | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 160 | | |
| | | 周麻酔期看護学特論Ⅳ | 1後 | | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 162 | | |
| | | 周麻酔期看護学演習Ⅰ | 1前 | | 2 | 60 | 川口 昌彦 | 164 | | |
| | | 周麻酔期看護学演習Ⅱ | 1後 | | 2 | 60 | 川口 昌彦 | 165 | | |
| | | 周麻酔期看護学実習Ⅰ | 1後 | | 4 | 180 | 川口 昌彦 | 166 | | |
| | | 周麻酔期看護学実習Ⅱ | 2前 | | 6 | 270 | 川口 昌彦 | 167 | | |
| | | 周麻酔期看護学実習Ⅲ | 2前 | | 6 | 270 | 川口 昌彦 | 168 | | |
| | | 周麻酔期看護学課題研究 | 2通 | | 4 | 120 | 川口 昌彦 | 169 | | |

教育課程等の概要

(看護学研究科看護学専攻 (M))

| 区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 時間数 | 主担当教員 | 頁 | 修了要件履修単位 | |
|---|---------|----------------------|-----|----|--------|-------|--------|--------------|--|
| | | | 必修 | 選択 | | | | | |
| 助産学実践コース | 専門科目 | 女性健康学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 五十嵐 稔子 | 96 | 【助産学実践コース】 必須の専門科目：10単位 選択専門科目：6単位以上 助産学実践科目：32単位 |
| | | 女性健康学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 五十嵐 稔子 | 98 | |
| | | 女性健康学課題研究 | 2通 | | 4 | 120 | 五十嵐 稔子 | 170 | |
| | | 周産期看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 五十嵐 稔子 | 100 | |
| | | 周産期看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 五十嵐 稔子 | 102 | |
| | | 周産期看護学課題研究 | 2通 | | 4 | 120 | 五十嵐 稔子 | 171 | |
| | 助産学実践科目 | 助産学特論Ⅰ-助産学概論- | 1前 | 2 | | 30 | 五十嵐 稔子 | 172 | |
| | | 助産学特論Ⅱ-基礎助産学- | 1前 | 2 | | 30 | 乾 つぶら | 174 | |
| | | 助産学特論Ⅲ-胎児新生児学- | 1前 | 1 | | 15 | 西久保 敏也 | 176 | |
| | | 助産学特論Ⅳ-健康教育- | 1前 | 1 | | 15 | 上田 佳世 | 177 | |
| | | 助産学特論Ⅴ-地域母子保健- | 1前 | 1 | | 15 | 森兼 真理 | 178 | |
| | | 助産学特論Ⅵ-助産管理- | 1前 | 2 | | 30 | 五十嵐 稔子 | 179 | |
| | | 助産診断・技術学演習Ⅰ-妊娠期- | 1前 | 2 | | 60 | 上田 佳世 | 181 | |
| | | 助産診断・技術学演習Ⅱ-分娩期- | 1前 | 3 | | 90 | 乾 つぶら | 183 | |
| | | 助産診断・技術学演習Ⅲ-産褥・新生児期- | 1前 | 2 | | 60 | 上田 佳世 | 185 | |
| | | 助産診断・技術学演習Ⅳ-ハイリスク- | 1前 | 1 | | 30 | 乾 つぶら | 187 | |
| | | 助産学実習Ⅰ-基礎- | 1前 | 1 | | 45 | 五十嵐 稔子 | 189 | |
| | | 助産学実習Ⅱ-病院- | 1後 | 9 | | 405 | 五十嵐 稔子 | 190 | |
| | | 助産学実習Ⅲ-ハイリスク- | 1後 | 2 | | 90 | 五十嵐 稔子 | 191 | |
| | | 助産学実習Ⅳ-保健指導- | 1後 | 1 | | 45 | 五十嵐 稔子 | 192 | |
| 助産学実習Ⅴ-助産所- | 2前 | 2 | | 90 | 五十嵐 稔子 | 193 | | | |
| 学位又は称号 : 修士 (看護学) | | 学位又は学科の分野 : 保健衛生学関係 | | | | | | | |
| 修了要件及び履修方法 | | | | | | | | | |
| 本大学院に2年以上 (優れた研究業績を上げた者については、1年以上) 在学し、授業科目について、論文コースにあつては30単位以上、高度実践コースの高度実践看護師教育課程にあつては40単位以上、周産期看護師教育課程にあつては46単位以上修得し、かつ、修士論文又は課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 助産学実践コースは、58単位以上修得し、かつ、課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 | | | | | | | | 1学年の学期区分 2期 | |
| | | | | | | | | 1学期の授業期間 15週 | |
| | | | | | | | | 1時限の授業時間 90分 | |

| 教 育 課 程 等 の 概 要 | | | | | | | | |
|--|---------------------|------|--------|--------|---------|--------|-----|---|
| (看護学研究科看護学専攻 (M)) | | | | | | | | |
| 科目 区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 時間 数 | 主担当教員 | 頁 | 修了要件履修単位 |
| | | | 必 修 | 選 択 | | | | |
| 共通科目 | 看護研究方法論 ● | 1前 | 2 | | 30 | 石澤 美保子 | 45 | 【看護学コース[論文コース]】 【助産学実践コース】 必修4単位 選択6単位 【看護学コース[高度実践コース]】については、●印の科目14単位を履修すること。 |
| | 看護理論 ● | 1前 | 2 | | 30 | 川上 あずさ | 47 | |
| | 英文講読 | 1前 | | 2 | 30 | 勝井 伸子 | 49 | |
| | 看護倫理学 ● | 1前 | 2 | | 30 | 池邊 寧 | 51 | |
| | 看護情報学 | 1後 | 2 | | 30 | 浅野 弘明 | 53 | |
| | 精神保健学 | 1後 | 2 | | 30 | 太田 豊作 | 55 | |
| | 家族看護学 | 1後 | 2 | | 30 | 新田 紀枝 | 57 | |
| | 看護管理論 ● | 1前 | 2 | | 30 | 笠松 由利 | 59 | |
| | アドバンストフィジカルアセスメント ● | 1前 | 2 | | 30 | 濱田 薫 | 61 | |
| | 地域医療学 | 1後 | 2 | | 30 | 赤井 靖宏 | 63 | |
| | 病態生理学 ● | 1前 | 2 | | 30 | 川口 昌彦 | 64 | |
| | 臨床薬理学 ● | 1後 | 2 | | 30 | 吉栖 正典 | 66 | |
| | 医の共通科目 | 1前 | | 1 | 15 | 吉栖 正典 | 67 | |
| | 衛生社会医学 | 1前 | | 1 | 15 | 今村 知明 | 68 | |
| 小計 (14科目) | | | 4 | 22 | | | | |
| 基 盤 専 門 看護 学 目 分 野 | 心と脳の発達学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 太田 豊作 | 69 | |
| | 心と脳の発達学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 太田 豊作 | 71 | |
| | 心と脳の発達学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 太田 豊作 | 73 | |
| | 環境病態学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 濱田 薫 | 74 | |
| | 環境病態学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 濱田 薫 | 76 | |
| | 環境病態学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 濱田 薫 | 77 | |
| | 基礎看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 松田 明子 | 78 | |
| | 基礎看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 松田 明子 | 79 | |
| | 基礎看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 松田 明子 | 80 | |
| 小計 (9科目) | | | | 42 | | | | |
| 実 践 専 門 看護 学 目 分 野 | 成人看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 81 | 【看護学コース[論文コース]】 【助産学実践コース】 選択16単位以上 |
| | 成人看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 石澤 美保子 | 82 | |
| | 成人看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 石澤 美保子 | 83 | |
| | 高齢者看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 澤見 一枝 | 88 | |
| | 高齢者看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 澤見 一枝 | 89 | |
| | 高齢者看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 澤見 一枝 | 91 | |
| | 小児看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 川上 あずさ | 92 | |
| | 小児看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 川上 あずさ | 94 | |
| | 小児看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 川上 あずさ | 95 | |
| | 女性健康学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 五十嵐 稔子 | 96 | |
| | 女性健康学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 五十嵐 稔子 | 98 | |
| | 女性健康学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 五十嵐 稔子 | 99 | |
| | 女性健康学課題研究 | 2通 | | 4 | 60 | 五十嵐 稔子 | 170 | |
| | 周産期看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 五十嵐 稔子 | 100 | |
| | 周産期看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 五十嵐 稔子 | 102 | |
| | 周産期看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 五十嵐 稔子 | 103 | |
| | 周産期看護学課題研究 | 2通 | | 4 | 60 | 五十嵐 稔子 | 171 | |
| | 精神看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 風間 眞理 | 104 | |
| | 精神看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 風間 眞理 | 105 | |
| | 精神看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 風間 眞理 | 106 | |
| 在宅看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 小竹 久実子 | 107 | | |
| 在宅看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 小竹 久実子 | 109 | | |
| 在宅看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 小竹 久実子 | 110 | | |
| 公衆衛生看護学特論 | 1前 | | 2 | 30 | 城島 哲子 | 111 | | |
| 公衆衛生看護学演習 | 1通 | | 4 | 120 | 城島 哲子 | 112 | | |
| 公衆衛生看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 240 | 城島 哲子 | 113 | | |

教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻(M))

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 時間数 | 主担当教員 | 頁 | 修了要件履修単位 | |
|--|---------------------------------|----------------|-----------|----|-----|--------------|--------|--|-----|
| | | | 必修 | 選択 | | | | | |
| 実 専 門 科 目 分 野 | 急性病態治療学 | ■ | 1前 | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 114 | 【看護学コース[高度実践コース]】のうち、高度実践看護師教育課程(クリティカルケア看護分野)については、■印の科目26単位を履修すること。 【看護学コース[高度実践コース]】のうち、周麻酔期看護師教育課程については、▲印の科目32単位を履修すること。 | |
| | 急性看護学特論 | ■ | 1前 | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 116 | | |
| | 急性看護学援助特論 I | ■ | 1後 | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 118 | | |
| | 急性看護学援助特論 II (治療管理) | ■ | 1通 | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 120 | | |
| | 急性看護学演習 I | ■ | 1通 | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 122 | | |
| | 急性看護学演習 II | ■ | 1通 | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 124 | | |
| | 急性看護学演習 III | ■ | 2前 | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 126 | | |
| | 急性看護学実習 I | ■ | 1後 | 2 | 60 | 石澤 美保子 | 128 | | |
| | 急性看護学実習 II | ■ | 2通 | 2 | 60 | 石澤 美保子 | 129 | | |
| | 急性看護学実習 III | ■ | 2通 | 2 | 60 | 石澤 美保子 | 130 | | |
| | 急性看護学実習 IV | ■ | 2通 | 4 | 120 | 石澤 美保子 | 131 | | |
| | 急性看護学課題研究 | ■ | 2通 | 2 | 30 | 石澤 美保子 | 133 | | |
| | 周麻酔期看護学特論 I | ▲ | 1前 | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 156 | | |
| | 周麻酔期看護学特論 II | ▲ | 1前 | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 158 | | |
| | 周麻酔期看護学特論 III | ▲ | 1後 | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 160 | | |
| | 周麻酔期看護学特論 IV | ▲ | 1後 | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 162 | | |
| | 周麻酔期看護学演習 I | ▲ | 1前 | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 164 | | |
| | 周麻酔期看護学演習 II | ▲ | 1後 | 2 | 30 | 川口 昌彦 | 165 | | |
| | 周麻酔期看護学実習 I | ▲ | 1後 | 4 | 120 | 川口 昌彦 | 166 | | |
| | 周麻酔期看護学実習 II | ▲ | 2前 | 6 | 180 | 川口 昌彦 | 167 | | |
| | 周麻酔期看護学実習 III | ▲ | 2前 | 6 | 180 | 川口 昌彦 | 168 | | |
| | 周麻酔期看護学課題研究 | ▲ | 2通 | 4 | 60 | 川口 昌彦 | 169 | | |
| | 小計 (48科目) | | | | 178 | | | | |
| | 助 産 学 実 践 科 目 | 助産学特論 I-助産学概論- | | 1前 | 2 | 30 | 五十嵐 稔子 | | 172 |
| 助産学特論 II-基礎助産学- | | | 1前 | 2 | 30 | 乾 つぶら | 174 | | |
| 助産学特論 III-胎児新生児学- | | | 1前 | 1 | 30 | 西久保 敏也 | 176 | | |
| 助産学特論 IV-健康教育- | | | 1前 | 1 | 15 | 上田 佳世 | 177 | | |
| 助産学特論 V-地域母子保健- | | | 1前 | 1 | 15 | 森兼 眞理 | 178 | | |
| 助産学特論 VI-助産管理- | | | 1前 | 2 | 30 | 五十嵐 稔子 | 179 | | |
| 助産診断・技術学演習 I-妊娠期- | | | 1前 | 2 | 45 | 上田 佳世 | 181 | | |
| 助産診断・技術学演習 II-分娩期- | | | 1前 | 3 | 60 | 乾 つぶら | 183 | | |
| 助産診断・技術学演習 III-産褥・新生児期- | | | 1前 | 2 | 30 | 上田 佳世 | 185 | | |
| 助産診断・技術学演習 IV-ハイリスク- | | | 1前 | 1 | 30 | 乾 つぶら | 187 | | |
| 助産学実習 I-基礎- | | | 1前 | 1 | 45 | 五十嵐 稔子 | 189 | | |
| 助産学実習 II-病院- | | | 1後 | 9 | 405 | 五十嵐 稔子 | 190 | | |
| 助産学実習 III-ハイリスク- | | | 1後 | 2 | 90 | 五十嵐 稔子 | 191 | | |
| 助産学実習 IV-保健指導- | | | 1後 | 1 | 45 | 五十嵐 稔子 | 192 | | |
| 助産学実習 V-助産所- | | | 2前 | 2 | 90 | 五十嵐 稔子 | 193 | | |
| 小計 (15科目) | | | 32 | | | | | | |
| 合計 (85科目) | | | | 40 | 242 | | | | |
| 学位又は称号 | 修士 (看護学) | | 学位又は学科の分野 | | | | | | |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | | | |
| 本大学院に2年以上 (優れた研究業績を上げた者については、1年以上) 在学し、授業科目について、論文コースにあつては30単位以上、高度実践コースの高度実践看護師教育課程にあつては40単位以上、周麻酔期看護師教育課程にあつては46単位以上修得し、かつ、修士論文又は課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 助産学実践コースは、58単位以上修得し、かつ、課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 | | | | | | 1学年の学期区分 2期 | | | |
| | | | | | | 1学期の授業期間 15週 | | | |
| | | | | | | 1時限の授業時間 90分 | | | |

平成29年度以前入学生用

| 教 育 課 程 等 の 概 要 | | | | | | | |
|---|-------------------|------|--------|--------|--------|-----|----------------------|
| (看護学研究科看護学専攻 (M)) | | | | | | | |
| 科目 区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 主担当教員 | 頁 | 修了要件履修単位 |
| | | | 必 修 | 選 択 | | | |
| 共通科目 | 看護研究方法論 | 1前 | 2 | | 石澤 美保子 | 45 | 必修4単位 選択6単位 以上 |
| | 看護理論 | 1前 | 2 | | 川上 あずさ | 47 | |
| | 英文講読 | 1前 | | 2 | 勝井 伸子 | 49 | |
| | 看護倫理学 | 1前 | | 2 | 池邊 寧 | 51 | |
| | 看護情報学 | 1後 | | 2 | 浅野 弘明 | 53 | |
| | 精神保健学 | 1後 | | 2 | 太田 豊作 | 55 | |
| | 家族看護学 | 1後 | | 2 | 新田 紀枝 | 57 | |
| | アドバンストフィジカルアセスメント | 1前 | | 2 | 濱田 薫 | 61 | |
| | 地域医療学 | 1後 | | 2 | 赤井 靖宏 | 63 | |
| | 医の共通科目 | 1前 | | 1 | 吉栖 正典 | 67 | |
| | 衛生社会医学 | 1前 | | 1 | 今村 知明 | 68 | |
| | 小計 (11科目) | | | 4 | 16 | | |
| 基 盤 専 門 看 護 科 学 目 分 野 | 心と脳の発達学特論 | 1前 | | 2 | 太田 豊作 | 69 | 20単位 以上 |
| | 心と脳の発達学演習 | 1通 | | 4 | 太田 豊作 | 71 | |
| | 心と脳の発達学特別研究 | 2通 | | 8 | 太田 豊作 | 73 | |
| | 環境病態学特論 | 1前 | | 2 | 濱田 薫 | 74 | |
| | 環境病態学演習 | 1通 | | 4 | 濱田 薫 | 76 | |
| | 環境病態学特別研究 | 2通 | | 8 | 濱田 薫 | 77 | |
| | 基礎看護学特論 | 1前 | | 2 | 松田 明子 | 78 | |
| | 基礎看護学演習 | 1通 | | 4 | 松田 明子 | 79 | |
| | 基礎看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 松田 明子 | 80 | |
| 小計 (9科目) | | | | 42 | | | |
| 実 践 専 門 看 護 科 学 目 分 野 | 成人看護学特論 | 1前 | | 2 | 石澤 美保子 | 81 | 20単位 以上 |
| | 成人看護学演習 | 1通 | | 4 | 石澤 美保子 | 82 | |
| | 成人看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 石澤 美保子 | 83 | |
| | 高齢者看護学特論 | 1前 | | 2 | 澤見 一枝 | 88 | |
| | 高齢者看護学演習 | 1通 | | 4 | 澤見 一枝 | 89 | |
| | 高齢者看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 澤見 一枝 | 91 | |
| | 小児看護学特論 | 1前 | | 2 | 川上 あずさ | 92 | |
| | 小児看護学演習 | 1通 | | 4 | 川上 あずさ | 94 | |
| | 小児看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 川上 あずさ | 95 | |
| | 女性健康学特論 | 1前 | | 2 | 五十嵐 稔子 | 96 | |
| | 女性健康学演習 | 1通 | | 4 | 五十嵐 稔子 | 98 | |
| | 女性健康学特別研究 | 2通 | | 8 | 五十嵐 稔子 | 99 | |
| | 周産期看護学特論 | 1前 | | 2 | 五十嵐 稔子 | 100 | |
| | 周産期看護学演習 | 1通 | | 4 | 五十嵐 稔子 | 102 | |
| | 周産期看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 五十嵐 稔子 | 103 | |
| | 精神看護学特論 | 1前 | | 2 | 風間 眞理 | 104 | |
| | 精神看護学演習 | 1通 | | 4 | 風間 眞理 | 105 | |
| | 精神看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 風間 眞理 | 106 | |
| | 在宅看護学特論 | 1前 | | 2 | 小竹 久実子 | 107 | |
| | 在宅看護学演習 | 1通 | | 4 | 小竹 久実子 | 109 | |
| 在宅看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 小竹 久実子 | 110 | | |
| 公衆衛生看護学特論 | 1前 | | 2 | 城島 哲子 | 111 | | |
| 公衆衛生看護学演習 | 1通 | | 4 | 城島 哲子 | 112 | | |
| 公衆衛生看護学特別研究 | 2通 | | 8 | 城島 哲子 | 113 | | |
| 小計 (24科目) | | | | 112 | | | |

| 教 育 課 程 等 の 概 要 | | | | | | | |
|--|----------------------|------|-----------|--------|-----------------|-----|----------|
| (看護学研究科看護学専攻 (M)) | | | | | | | |
| 科目 区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 主担当教員 | 頁 | 修了要件履修単位 |
| | | | 必 修 | 選 択 | | | |
| 助産学 実践 科目 | 助産学特論Ⅰ-助産学概論- | 1前 | 2 | | 五十嵐 稔子 | 172 | 28単位 |
| | 助産学特論Ⅱ-基礎助産学- | 1前 | 2 | | 乾 つぶら | 174 | |
| | 助産学特論Ⅲ-胎児新生児学- | 1前 | 1 | | 西久保 敏也 | 176 | |
| | 助産学特論Ⅳ-健康教育- | 1前 | 1 | | 上田 佳世 | 177 | |
| | 助産学特論Ⅴ-地域母子保健- | 1前 | 1 | | 森兼 眞理 | 178 | |
| | 助産学特論Ⅵ-助産管理- | 1前 | 2 | | 五十嵐 稔子 | 179 | |
| | 助産診断・技術学演習Ⅰ-妊娠期- | 1前 | 2 | | 上田 佳世 | 181 | |
| | 助産診断・技術学演習Ⅱ-分娩期- | 1前 | 3 | | 乾 つぶら | 183 | |
| | 助産診断・技術学演習Ⅲ-産褥・新生児期- | 1前 | 2 | | 上田 佳世 | 185 | |
| | 助産診断・技術学演習Ⅳ-ハイリスク- | 1前 | 1 | | 乾 つぶら | 187 | |
| | 助産学実習Ⅰ-病院での助産実践- | 1後 | 9 | | 五十嵐 稔子 | - | |
| | 助産学実習Ⅱ-地域での助産実践- | 2前 | 2 | | 五十嵐 稔子 | - | |
| 小計 (12科目) | | | 28 | | | | |
| 合計 (56科目) | | | 32 | 170 | | | |
| 学位又は称号 | 修士 (看護学) | | 学位又は学科の分野 | | 保健衛生学関係 | | |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | 授業期間等 | | |
| 本大学院に2年以上在学し、授業科目について30単位以上修得し、かつ、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 助産学実践コースは、上記30単位に加え助産学実践科目28単位の修得を必要とする。 | | | | | 1 学年の学期区分 2 期 | | |
| | | | | | 1 学期の授業期間 1 5 週 | | |
| | | | | | 1 時限の授業時間 9 0 分 | | |

◇科目の読み替えについて

平成31年度以前入学生の令和2年度以降入学生用教育課程の開講科目については、次のとおり読み替えを行う。

| 平成31年度以前入学生用開講科目 | | | | | | 令和2年度以降入学生用開講科目 | | | | | | 備考 |
|------------------|----|----|----|-----|----|-----------------|----|----|----|-----|----|----|
| 科目名 | 年次 | 時期 | 単位 | 時間数 | 種類 | 科目名 | 年次 | 時期 | 単位 | 時間数 | 種類 | |
| 成人看護学特論 | 1 | 前期 | 2 | 30 | 選択 | 看護実践応用学特論 | 1 | 前期 | 2 | 30 | 選択 | |
| 成人看護学演習 | 1 | 通年 | 4 | 120 | 選択 | 看護実践応用学演習 | 1 | 通年 | 4 | 120 | 選択 | |
| 成人看護学特別研究 | 2 | 通年 | 8 | 240 | 選択 | 看護実践応用学特別研究 | 2 | 通年 | 8 | 240 | 選択 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|----------------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子／川上 あずさ／小竹 久実子／風間 眞理 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 看護研究の意義を理解し、適切な研究課題および研究手法による研究実施能力と修士論文作成の基礎的知識を習得する。 | | | |
|------|---|--|---------------|--|
| 目標 | 1) 看護における研究の役割と意義を理解できる。 2) 研究に必要な倫理的配慮について理解できる。 3) 文献収集方法を理解できる。 4) 研究論文のクリティークについて理解できる。 5) 質的研究に関する研究方法について理解できる。 6) 量的研究に関する研究方法について理解できる。 7) 研究計画書の書き方について理解できる。 8) 学位論文の作成および研究発表について理解できる。 | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 | |
| | 1 文献収集方法について ・文献収集方法について学ぶ（図書館3階視聴覚室にて） | 演習 | 鈴木孝明 (図書館) | |
| | 2 看護研究の意義と役割 研究に必要となるもの－研究計画書作成までの道筋－ | 講義 | 石澤美保子 | |
| | 3 倫理的配慮の意義と方法について ・研究に必要となる倫理に関する基盤となる指針や理論を理解し、研究上の倫理的配慮について学ぶ | 講義 | 小竹久実子 | |
| | 4 質的研究デザインの種類と特徴 ・質的研究に関する研究方法について①② | 講義 | 川上あずさ | |
| | 5・6 質的研究デザインの論文 文献検討 質的帰納的分析① | 演習 | 川上あずさ | |
| | 7・8 質的帰納的分析②③ | 演習 | 川上あずさ | |
| | 9～10 量的研究デザインの種類と特徴 ・量的研究に関する研究方法について①② | 講義 | 石澤美保子 | |
| | 11 量的研究デザインの種類と特徴 ・量的研究に関する研究方法について③ | 講義 | 石澤美保子 | |
| | 12 量的研究の実際 | 演習 | 小竹久実子 | |
| | 13 研究計画書の書き方について ・倫理審査申請書の記述方法 | 講義 | 石澤美保子 | |
| | 14 修士論文作成方法および研究発表について① ・論文の構成、文章表現、口演発表および示説発表時のプレゼンテーション方法を学ぶ | 講義 | 風間眞理 | |
| | 15 修士論文作成方法および研究発表について② ・論文の構成、文章表現、口演発表および示説発表時のプレゼンテーション方法を学ぶ | 講義 | 風間眞理 | |
| | 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| | 評価方法・評価基準 | 授業参加度20%、プレゼンテーション30%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、レポート50%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 看護における研究：南裕子、日本看護協会出版会、看護研究Step by Step：黒田裕子、学研ナースのための質的研究入門第2版：ホロウェイ+ウィーラー 監訳野口美和子 医学書院 | | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---------------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 川上 あずさ／五十嵐 稔子／澤見 一枝／田中 登美 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 卓越した看護実践の基盤となる看護諸理論の発展の経緯とその特徴を理解するとともに、実践と研究との位置づけを確認し、看護の現象に関する説明や援助・研究への活用について考察する。そのことをとおして、看護理論が高度な看護実践の基盤となることを理解する。 | | |
|---|--|------|--------|
| 目標 | 1) 看護実践の基盤となる看護諸理論の発展の経緯とその特徴を理解する。 2) 看護理論の構成要素とその分析をとおし、主要な看護理論と看護実践・研究との関連を考察する。 3) 看護理論の特徴をふまえ、看護実践・研究への活用について検討し理解する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 授業展開のオリエンテーション／文献の活用・プレゼンテーションについて | 講義 | 川上・五十嵐 |
| | 2 看護理論の構築（記述・構成要素）と概念分析、看護理論の概観、看護理論の分類 | 講義 | 川上 |
| | 3 看護理論とは 看護理論の歴史的発展 | 講義 | 川上・澤見 |
| | 4 ニーズ理論の理解と活用について考察する ヘンダーソン、オレム、セルフ ケア理論等 | 演習 | 澤見 |
| | 5 相互作用理論の理解と活用について考察する トラベルビー、人間対人間の 看護、ペプロウ、看護における人間関係等 | 演習 | 五十嵐 |
| | 6 看護理論の研究・看護実践への活用：中範囲理論とは 中範囲理論の特徴 | 講義 | 田中 |
| | 7 ケアリング理論の理解と活用について考察する ベナー看護論、ワトソン看護論 | 演習 | 川上 |
| | 8 システム理論の理解と活用について考察する（ロイ、適応モデル、ロジャース看護論等） | 演習 | 田中 |
| | 9 相互作用理論の理解と活用について考察する（マーサー、母親役割移行過程理論等） | 演習 | 五十嵐 |
| | 10 看護理論の研究・看護実践への活用について検討し 討議する（看護のアセスメントと援助に関する理論） | 演習 | 田中 |
| | 11 看護理論の研究・看護実践への活用について検討し 討議する（病気・障害・人生の体験を説明する理論） | 演習 | 澤見 |
| | 12 看護理論の研究・看護実践への活用について検討し 討議する（危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論） | 演習 | 川上 |
| 13 看護理論の研究・看護実践への活用について検討し 討議する（行動変容、行動強化に関する理論） | 演習 | 五十嵐 | |

| | | | | |
|------------------|--|---|----|----|
| | 14 | 看護理論と研究・看護実践への活用について検討し討議する（認識の変容に焦点を当てた理論） | 演習 | 田中 |
| | 15 | 看護理論と研究・看護実践への活用 討論及び総括 | 演習 | 川上 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修については、テキストの授業内容に該当する範囲を精読しておく。事後学修については、授業時の資料をもとに内容を振り返り理解を深める。演習時は、各自主体的にプレゼンテーションの準備をすすめる。 | | | |
| 評価方法・評価基準 | プレゼンテーション50%、レポート50%を総合的に評価する。 レポートの課題：看護実践における看護理論の位置づけと活用方法、活用の意義についての考察 | | | |
| テキスト | 1. 筒井真優美編集：看護理論家の業績と理論評価, 医学書院, 2015. 2. 野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論第2版, メヂカルフレンド社, 2016. | | | |
| 参考図書 | 1. Jacqueline Fawcett, 大田喜久子他 監訳：看護理論の分析と評価, 医学書院, 2011. 2. Florence Nightingale：看護覚え書き フローレンス ナイチンゲール, 幸書房（復刻版）, 2007. 3. International Council of Nurses, 早野ZITO真佐子・小玉香津子 他 訳：現代に読み解くナイチンゲール・看護覚え書き, 日本看護協会出版会, 2011. 4. Virginia Henderson, 小玉香津子 訳：ヴァージニア・ヘンダーソン選集, 医学書院, 2007. 5. Virginia Henderson, 小玉香津子 訳：看護の基本となるもの（改訂版）, 日本看護協会出版会, 2006. 6. Margaret Jean Harman Watson, 稲岡文昭・稲岡光子 訳：ワトソン看護論-人間科学とヒューマンケア, 医学書院, 2004. 7. Margaret Jean Harman Watson, 川野雅資 長谷川浩訳：ワトソン21世紀の看護論, 日本看護協会出版会, 2003. 8. Patricia Benner, 井部俊子監訳：ベナー看護論（新訳版）, 医学書院, 2012. 9. Patricia Benner, 井上智子監訳：ベナー看護ケアの臨床知-行動しつつ考えること, 医学書院, 2012. 10. Dorothea E. Orem, 小野寺杜紀 訳：オレム看護論, 医学書院, 2005. 11. コニー・M・デニス, 小野寺杜紀監訳, オレム看護論入門-セルフケア不足看護理論へのアプローチ, 医学書院. 12. Sister Callista Roy, 松木光子 監訳：ザ・ロイ適応看護モデル, 医学書院, 2010. 13. Hildegard E. Peplau, 稲田八重子・小林富美栄他 訳：ペプロウ人間関係の看護論, 医学書院, 1996. 14. Howard Simpson, 高崎絹子他 訳：看護モデルを使う②ペプロウの発達モデル, 医学書院, 1994. 15. Joyce Travelbee, 長谷川浩・藤枝智子 訳：トラベルビー人間対人間の看護, 医学書院, 2010. 16. 黒田裕子：看護診断のためのよくわかる中範囲理論第2版、学研メディカル秀潤社, 2015. 17. Madeleine M Leininger, 稲岡文昭 訳：レイニンガー看護論, 医学書院, 1995. 18. Madeleine M Leininger, 近藤潤子 伊藤和弘監訳：看護における質的研究, 医学書院, 1997. 19. 城ヶ端初子：実践に生かす看護理論19, 医学芸術社, 2005. 20. 金子道子：ヘンダーソン、ロイ、オレム、ペプロウの看護理論と看護過程の展開, 照林社, 1999. 21. 筒井真優美 編：看護理論-看護理論20の理解と実践への応用-, 南近堂, 2015. 22. 野嶋佐由美編：看護学の概念と理論的基盤, 日本看護協会出版会, 2012. 23. アメリカ心理学会（APA）, 前田樹海他 訳：APA 論文作成マニュアル第2版, 医学書院, 2013. 注 再版されているものについては、この出版年に限りません。 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 勝井 伸子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 医療系（特に看護学）論文を読む実践的能力を育成する。 | | |
|------------------|--|-------|-----|
| 目標 | 1) 英語論文のスタイル・用語・概念に慣れる。 2) 複数の論文を比較できる程度まで、正確に、かつ速く読めるようになる。 3) 英語論文作成についても、アブストラクトまでは作成できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 論文とは何か・論文の種類 キーワードの設定・検索演習 | 講義・演習 | 勝井 |
| | 2 検索結果の整理 Abstractを読む | 講義・演習 | 勝井 |
| | 3 論文を読む上で必要な知識とは何か 量的研究と質的研究—論文講読演習（1） | 講義・演習 | 勝井 |
| | 4 量的研究と質的研究—論文講読演習（2）（3） | 講義・演習 | 勝井 |
| | 5 量的研究と質的研究—論文講読演習（4）（5） | 講義・演習 | 勝井 |
| | 6 ナラティブ分析について（1）（2） | 講義・演習 | 勝井 |
| | 7 文化的差異に関する看護論文について プレゼンテーション指導 | 講義・演習 | 勝井 |
| | 8 英語論文抄読 発表（1） | 演習 | 勝井 |
| | 9 英語論文抄読 発表（2） | 演習 | 勝井 |
| | 10 英語論文抄読 発表（3） | 演習 | 勝井 |
| | 11 英語論文抄読 発表（4） | 演習 | 勝井 |
| | 12 英語論文抄読 発表（5） | 演習 | 勝井 |
| | 13 英語論文抄読 発表（6） | 演習 | 勝井 |
| | 14 質疑応答まとめ | 演習 | 勝井 |
| | 15 講評 | 演習 | 勝井 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |

| | |
|------------|---|
| 評価方法・評価基準 | 受講態度20～30%、プレゼンテーション50～60%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート10～30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 |
| テキスト | |
| 参考図書 | 開講時に指示する。 |
| 学生へのメッセージ等 | ますますグローバル化していく看護学において、英文文献を読みこなすことは大学院では必須であると思われます。英語教師として、その初歩のお手伝いをして、みなさんの活躍の一助となることを願っています。積極的に研究へつなげられるよう、正確に読み込める力こそ、今後の研究を支えるものと考えています。 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 池邊 寧／松田 明子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 看護現場で直面する倫理的な諸問題やジレンマに対して関係者間で調整を行っていく際に必要となる倫理的思考力の基盤を本講義では現象学に求め、基本文献を精読するとともに、事例検討を通じて理解を深める。 | | |
|------------------|--|-------|-------|
| 目標 | 1) 倫理的な判断を行ううえで基礎となる倫理的思考力を身につける。 2) 看護現場で直面する倫理的諸問題について、事例検討を行い、対処の方法を提示することができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 現象学と看護学 | 講義 | 池邊・松田 |
| | 2 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（1） —気づかひの第一義性— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 3 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（2） —人であるとはどういうことか— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 4 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（3） —ストレスと対処に関する現象学的な観方— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 5 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（4） —成人の人生諸局面における病気への対処— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 6 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（5） —健康の増進— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 7 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（6） —症状への対処— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 8 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（7） —冠状動脈疾患への対処— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 9 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（8） —癌への対処（1）— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 10 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（9） —癌への対処（2）— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 11 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（10） —神経系への病気への対処— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 12 ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』を読む（11） —看護という仕事への対処— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 13 事例検討（1） —レポート発表（1）— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 14 事例検討（2） —レポート発表（2）— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| | 15 事例検討（3） —レポート発表（3）— | 講義・演習 | 池邊・松田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業の進度に合わせて、テキスト（ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』）をしっかりと読み込んでください。 | | |
| 評価方法・評価基準 | プレゼンテーション（50%）、授業参加度（50%） | | |
| テキスト | ベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』医学書院 | | |

| | |
|------------|--|
| 参考図書 | 榊原哲也『医療ケアを問いなおすー患者をトータルにみることの現象学』筑摩書房（ちくま新書） その他の参考図書は講義時に随時紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 「現象学的に考える」とは具体的にはどういう思考を指すのか、講義を通じて学びとってください。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 浅野 弘明／太田 豊作／石澤 美保子／田中 登美／五十嵐 稔子／風間 眞理／小竹 久実子／川口 昌彦 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 論文やプレゼン資料の作成に、パソコンは欠かすことができない。量的な研究に限らず、質的研究においてもパソコンなしで、研究を遂行することは難しい。このような研究遂行で必要となるパソコンの基礎的知識を広く習得する。 | | |
|------------------|--|-------|--|
| 目標 | 研究遂行上、欠かすことができない、表計算ソフトとスライド作成ソフトを中心に、各種アプリケーションの基本操作方法を習得し、各自の研究に役立てることができるレベルの技術・知識を身に付ける。さらに、統計処理で必要となる基本的知識を、各種演習を通じて習得する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 エクセルの基礎1、パワーポイントの基礎1、ワードの基礎1、情報検索1 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 2 エクセルの基礎2、パワーポイントの基礎2、ワードの基礎2、情報検索2 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 3 エクセルの基礎3、パワーポイントの基礎3、ワードの基礎3 情報検索3 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 4 グラフ作成1、パワーポイントの応用1、ワードの基礎4 ファイル操作1 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 5 グラフ作成2、パワーポイントの応用2、ワードの基礎5 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 6 グラフ作成3、プレゼン資料の作成1、ファイル操作2 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 7 グラフ作成4、エクセルの応用1、プレゼン資料の作成2、ファイル操作3 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 8 グラフ作成5、エクセルの応用2、プレゼン資料の作成3 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 9 データ入力ソフトの使い方1、統計処理の基礎1 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 10 データ入力ソフトの使い方2、統計処理の基礎2 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 11 データ入力ソフトの使い方3、統計書の基礎3 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 12 まとめ、課題の処理 | 実習・演習 | 浅野弘明 |
| | 13～15 量的・質的研究における、分析方法の選択、分析の実際、結果の解釈等、各自の研究課題を意識して取り組む 各指導教員とともに進める | | 太田 豊作 石澤 美保子 田中 登美 五十嵐 稔子 風間 眞理 小竹 久実子 川口 昌彦 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |

| | |
|------------|---------------------------|
| 評価方法・評価基準 | 講義への参加意欲（40%）、レポート課題（60%） |
| テキスト | テキストに替わる教材資料（電子ファイル）を配付する |
| 参考図書 | インターネットのHPを含め、適宜紹介する |
| 学生へのメッセージ等 | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 太田 豊作 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | メンタルヘルスを精神医学的視点から学び、ストレスとの関連性について学び、どのような要因がストレスとなり、精神疾患と結びつくかについて学び、さらにその予防法について学ぶ。また僻地における特有のストレスについて考察し、その予防について学ぶ。 | | |
|------------------|--|------|-----|
| 目標 | 1)精神保健の定義と領域を学ぶ 2)ライフサイクルと精神保健について学ぶ 3)家庭や職場における精神保健について学ぶ 4)ストレスと対処行動について学び、特に僻地のストレスについて学ぶ | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 メンタルヘルスとストレス | 講義 | 太田 |
| | 2 メンタルヘルスと精神医学 | 講義 | 太田 |
| | 3 乳幼児期のメンタルヘルスと精神疾患 | 講義 | 太田 |
| | 4 児童期のメンタルヘルスと精神疾患 | 講義 | 太田 |
| | 5 思春期・青年期のメンタルヘルスと精神疾患 | 講義 | 太田 |
| | 6 成人期のメンタルヘルスと精神疾患 | 講義 | 太田 |
| | 7 老年期のメンタルヘルスと精神疾患 | 講義 | 太田 |
| | 8 家庭とメンタルヘルス | 講義 | 太田 |
| | 9 職場とメンタルヘルス | 講義 | 太田 |
| | 10 学校とメンタルヘルス | 講義 | 太田 |
| | 11 地域（僻地）とメンタルヘルス | 講義 | 太田 |
| | 12 メンタルヘルスのアセスメント | 講義 | 太田 |
| | 13 ストレス対策 1 | 講義 | 太田 |
| | 14 ストレス対策 2 | 講義 | 太田 |
| | 15 まとめ | 講義 | 太田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。 | | |

| | |
|------------|--|
| 評価方法・評価基準 | 評価方法：授業参加度（20％）、中間レポート（40％）、期末レポート（40％） 評価基準：授業参加度は、精神保健についての理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。中間レポートは、ライフサイクルと精神保健について理解し、学んだ内容が整理され、論理的に提示されているか。期末レポートは、精神保健について理解し、メンタルヘルスの向上についての適切な考えを持つことができているか。 |
| テキスト | なし |
| 参考図書 | 講義時に紹介する |
| 学生へのメッセージ等 | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 新田 紀枝／佐竹 陽子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | この科目では、家族に対するアセスメント、援助方法に関する理解を深め、それらの学びを活用して家族に関する事例の分析を行うことにより、家族看護分野における看護実践能力を習得することを目的とする。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1. 家族を援助するためのアセスメントの視点、具体的な援助方法を理解できる。 2. 家族看護に関連する諸理論を説明できる。 3. 家族看護に関する諸理論を活用して事例を分析し、家族の課題と援助を検討できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 第1回 家族と家族看護、疾患、障害が家族に及ぼす影響 | 講義 | 新田 |
| | 第2回 家族に関する情報収集とアセスメント | 講義 | 新田 |
| | 第3回 家族を理解するための基礎理論 1 | 講義 | 新田 |
| | 第4回 家族を理解するための基礎理論 2 | 講義 | 新田 |
| | 第5回 家族に対する面接方法 | 演習 | 新田 |
| | 第6回 家族看護の方法 | 講義 | 新田 |
| | 第7回 家族看護の実践 1 「子どもと子どもをもつ家族への看護ケア」 | 演習 | 新田 |
| | 第8回 家族看護の実践 2 「認知症をもつ人と介護家族への看護ケア」 | 演習 | 新田 |
| | 第9回 家族看護の実践 3 「精神疾患をもつ人と家族への看護ケア」 | 演習 | 新田 |
| | 第10回 家族看護の実践 4 「退院支援における家族ケア」 | 演習 | 新田 |
| | 第11回 家族看護の実践 5 「生命危機にある人と家族への看護ケア」 | 演習 | 佐竹 |
| | 第12回 家族看護の実践 6 「がん・がん終末期の人と家族の看護ケア」 | 演習 | 佐竹 |
| | 第13回 家族看護の実践 7 「家族の意思決定支援」 | 演習 | 佐竹 |
| | 第14回 家族看護に関する研究 1 | 演習 | 佐竹 |
| | 第15回 家族看護に関する研究 2 | 演習 | 佐竹 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修：各回の授業テーマに関する参考文献、資料を精読する 事後学修：提示された課題に取り組む | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法：授業参加状況（20%）、プレゼンテーション（50%）、レポート（30%） 評価基準：諸理論を活用した事例の分析ができていないか、対象の課題を明確にして援助の方法が具体的に述べられているか。 | | |

| | |
|------------|---|
| テキスト | なし |
| 参考図書 | 鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子：家族看護学 理論と実践 第5版 （日本看護協会出版会 2019） その他、授業の中で適宜紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 家族は社会を形成する最小単位の集団になるので、家族看護の諸理論を理解すると地域社会のさまざまなシステムに応用ができるようになります。また、過去の看護実践を分析することで、さらに家族看護のおもしろさを実感できる機会になると思いますので、興味のある方は受講してください。 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 笠松 由利 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 看護管理論は、既存の経営管理論に理論的基盤の多くを負っており、経営管理論の諸理論の理解は必須である。さらにこれらを看護の現場で活用していくためには、現場の問題解決や課題達成への応用力の習得が望まれる。本講義では、看護管理で活用する基礎理論や概念を体系的に学びながら、どのように現場で活用しているのかを実際の事例を活用しながら検討する。そして安全で良質な医療を提供するために必要不可欠な基礎理論や概念の理解を深め、看護管理現場での応用力の向上を目指す。 | | |
|------|---|-------|-----|
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理で活用する概念や理論について理解できる 2. 自らの経験をもとに管理上の問題や課題を抽出し、文献を活用して自己の意見をまとめ、論理的に述べることができる 3. 本授業での学びをふまえ、自己ならびに看護管理における課題および対策をまとめることができる | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 第1回 授業オリエンテーション リーダーシップとマネジメントの諸理論と概念 | 講義 | 笠松 |
| | 第2回 集団の特性と経営管理論の変遷 | 講義 | 笠松 |
| | 第3回 医療制度と政策 | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第4回 人的資源活用（クリニカルリーダー、目標管理、キャリア開発） | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第5回 システム思考と組織学習 | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第6回 チームングとコラボレーション | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第7回 問題解決と課題達成 | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第8回 看護管理者の意思決定とクリティカルシンキング | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第9回 コンピテンシーとキャリアデザイン | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第10回 医療安全対策とリスクマネジメント | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第11回 労務管理 | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第12回 質管理 | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第13回 変革理論 | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第14回 生涯学習とリカレント教育 | 講義・演習 | 笠松 |
| | 第15回 看護管理の課題 | 講義・演習 | 笠松 |

| | | | |
|------------------|---|--|--|
| | まとめ | | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 【事前学習】各回の授業のテーマにそって文献を検索し、自分なりの考えをまとめておくこと 【事後学習】最終の課題レポートに備えて、授業の内容をまとめておくこと | | |
| 評価方法・評価基準 | 1. 授業内のプレゼンテーション：30% 〈評価基準〉①自らの経験を踏まえている（5%）、②内容がわかりやすく、簡潔にまとめられている（10%）、③参考文献を幅広く渉猟し活用している（10%）、④ディスカッションテーマが明示されている（5%） 2. 授業でのディスカッションへの貢献度：20% 〈評価基準〉①異なる意見であっても自らの意見を明確に表現できている（10%）、②ディスカッションの促進に貢献する内容やタイミングである（10%） 3. 最終課題レポート：50% 〈評価基準〉①授業での学びをふまえて論じている（5%）、②自らの考えを根拠づける証拠を明示しながら論じている（20%）、③レポート全体の主張が一貫している（20%）④読みやすい（5%） | | |
| テキスト | 特に指定しない | | |
| 参考図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理学習テキスト1～8，日本看護協会出版会 ・「看護管理」「看護展望」「病院」「ナースング・ビジネス」「ナースマネジャー」など ・スティーブンP. ロビンス：マネジメント入門，ダイヤモンド社. ・中原 淳：企業内人材育成，ダイヤモンド社. ・エイミーC. エドモンドソン：チームが機能するとはどういうことか，英治出版. ・高橋俊介：21世紀のキャリア論，東洋経済新報社. など適宜紹介していきます. | | |
| 学生へのメッセージ等 | <p>★第1回，第2回の導入以外は，受講者全員に分担して授業テーマに関連するプレゼンテーションを行っていただきます. 自分の経験や和文献，英文献，看護系雑誌を含む資料を活用してテーマを設定し，ディスカッションの材料を提示していただきます.</p> <p>★プレゼン担当以外の受講生も，積極的に議論に参加できるように，授業テーマに関する事前学習を求めます.</p> <p>★管理をする際に必要とされる能力の1つは，自分の考えを言葉で伝えることです. 伝わらなければ人は動きません. 本授業でその能力を磨き，現場で活用できる応用力を向上させていきましょう.</p> | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 濱田 薫 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 複雑な健康問題を持った対象の身体状況について系統的に全身を審査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を修得する。質の高い看護実践を行うために、在宅ターミナルの事例や複雑な健康問題を持つ事例を用いて対象の身体的情報を適確に捉え、実践的なアセスメントの手法と臨床判断を学ぶ。 | | |
|------|--|-------|-------|
| 目標 | 1) 高度実践看護師に必要な、系統的に全身を審査し、臨床看護判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を身につける。 2) 各系統別に得た情報を統合し、臨床場面における推論に結びつける。 3) 在宅ターミナルの事例や複雑な健康問題を持つ事例を用いて、多様な臨床場面における重要な病態の変化や疾患を、包括的にいち早くアセスメントし臨床判断ができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 フィジカルアセスメントの理解 | 講義 | 濱田 |
| | 2 循環器系の診断技術と判断能力の習得 ①診察手技と心音・心雑音の理解 | 講義・演習 | 濱田 |
| | 3 循環器系の診断技術と判断能力の向上 ②心電図の基本とモニター心電図の理解 | 講義・演習 | 濱田 |
| | 4 呼吸器系の診断技術と判断能力の習得 呼吸器系①呼吸生理の基本的知識 呼吸機能検査 | 講義・演習 | 濱田 |
| | 5 呼吸器系の診断技術と判断能力の向上 呼吸器系②胸部X線読影の基本と胸部CT | 講義・演習 | 濱田 |
| | 6 腹部の診断技術と判断能力の習得および消化器系疾患のアセスメント | 講義・演習 | 濱田 |
| | 7 脳神経系の診断技術と判断能力の習得 神経系診察手技と評価、意識障害・末梢神経障害と反射の理解 | 講義・演習 | 濱田 |
| | 8 腎・泌尿器系の診断技術と判断能力の習得 | 講義・演習 | 濱田 |
| | 9 代謝疾患・内分泌疾患とフィジカルアセスメント | 講義・演習 | 濱田 |
| | 10 術後の診かた-特に消化器外科領域の術後の問題点の把握と対応- | 講義・演習 | 濱田 |
| | 11 皮膚および体表の所見と看護学的判断 | 講義・演習 | 濱田 |
| | 12 筋・骨格系の診察とアセスメント 診察手技（握力、徒手筋力検査、関節可動領域検査、脊椎変形の評価など）の習得 | 講義・演習 | 濱田 |
| | 13 小児科領域のフィジカルアセスメント 幼児の神経学的発達診断 | 講義・演習 | 濱田 |
| | 14 在宅医療とフィジカルアセスメント | 講義・演習 | 濱田 |
| | 15 事例検討：総括と講評 | 演習 | 城島・濱田 |

| | |
|------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | |
| 評価方法・評価基準 | 1) グループ討議 30% 学習内容を臨床実践で活用した経験をグループ討議で共有し、深めることができる。 2) レポート 50 % A4 1600 字× 2枚。「講義から学んだことと臨床看護における活用」 3) 出席状況／取り組み方 20 % |
| テキスト | |
| 参考図書 | 1) 藤崎郁 フィジカルアセスメント完全ガイド 学習研究社 2) 山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 3) 日野原重明 フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 医学書院 |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 赤井 靖宏／周藤 俊治 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 地域医療とそれを支える医療体制や保険制度について理解を深める。 | | |
|------------------|--|------|-----|
| 目標 | 1) 地域医療を支える医療体制や保険制度について、概要を述べることができる。 2) 地域医療の現状と課題について概要を述べるができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1～3 地域医療を支える医療体制：医療制度 | 講義 | 赤井 |
| | 4～6 地域医療に関するデータの取得と分析 | 講義 | 周藤 |
| | 7～9 地理情報と組み合わせた地域医療の分析 | 講義 | 周藤 |
| | 10～12 地域医療を支える医療体制：保険制度と医療スタッフ | 講義 | 赤井 |
| | 13～15 わが国の医療制度から考える地域医療の課題 | 講義 | 赤井 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 受講態度20-30%（予復習・講義中の課題への取り組み状況），プレゼンテーション50-60%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力），レポート10-30%（論理性・一貫性・適切性）で総合評価 | | |
| テキスト | 資料配付 | | |
| 参考図書 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／井上 聡己／恵川 淳二／内藤 祐介／重松 英樹／中川 一郎／吉川 雅則／渡邊 恵介／澤見 一枝 ／石澤 美保子 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 病態生理学は、疾病や病態の機序や仕組みを解き明かす、考え方の学問であり、医療、看護の実践の基礎でもある。 病態生理学の履修を通し、事象への関心を深め、幅広く学問を探究し、批判的思考力をもつ。 | | |
|------|--|-------|-------|
| 目標 | 1) 病態生理学的な思考過程を学ぶ。患者の愁訴、症状、症候の背景機序を常に考えられるようになる。 2) 病態生理学的思考過程を、専門領域の看護実践に応用できる。基本的病態と専門領域との関連を常に考えるようになる。 3) 病態把握のため、専門領域間で共有するためのコミュニケーション能力を養成する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 臨床生理学総論I ヒト固体内の各機能連関と恒常性を学び外界との反応性を理解する | 講義 | 川口 |
| | 2 臨床生理学総論II ヒト固体内の各機能連関と恒常性を学び外界との反応性を理解する | 講義 | 内藤 |
| | 3 循環器疾患の病態生理 心機能、循環血流量、自律神経系の影響などを学ぶ | 講義 | 内藤 |
| | 4 呼吸器疾患の病態生理 主な呼吸器疾患の病態を学ぶ | 講義 | 井上 |
| | 5 呼吸不全の病態生理 呼吸不全の原因と病態について学ぶ | 講義 | 恵川 |
| | 6 精神疾患の病態生理 認知障害などの病態を学ぶ | 講義 | 澤見 |
| | 7 高齢者の病態生理 高齢者における生理学的変化を学ぶ | 講義 | 澤見 |
| | 8 脳神経疾患の病態生理 脳神経の解剖と機能障害の病態を学ぶ | 講義 | 中川 |
| | 9 筋骨格疾患の病態生理 筋骨格の解剖と機能障害の病態を学ぶ | 講義 | 重松 |
| | 10 栄養障害の病態生理 栄養状態と疾患の関連性や病態を学ぶ | 講義 | 吉川 |
| | 11 多臓器不全の病態生理 多臓器不全の機序と病態について学ぶ | 講義 | 井上 |
| | 12 血液疾患の病態生理 血栓止血・凝固・線溶系について学ぶ | 講義 | 位田 |
| | 13 慢性痛の病態生理 慢性痛の機序と病態を学ぶ | 講義 | 渡邊 |
| | 14 褥瘡の病態生理 褥瘡の機序と病態について学ぶ | 講義 | 石澤 |
| | 15 病態生理学演習 症例を用いて病態生理の理解を深める | 演習・実習 | 川口/石澤 |

| | |
|------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加度20～30%、プレゼンテーション50～60%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート10～30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。e-learningの単元1～2は、受講後にe-learningでの確認テストを受講するとともに、対面により口頭にて質問し、高度実践看護師として必要な知識・理解度の確認を行い、習得状況进行评估する。 |
| テキスト | 適宜資料を配布、提示する |
| 参考図書 | 適宜推薦 |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 吉栖 正典／中平 毅一／京谷 陽司／松田 明子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 薬物治療上、緊急応急処置、症状緩和、慢性疾患管理などに必要な薬理学的知識、薬物使用法を理解し修得する。 薬物の薬理作用を理解し、患者の治療及び看護に必要な臨床薬理学的知識を理解し修得する。 | | |
|------------------|---|------|-------------|
| 目標 | 緊急応急処置、症状緩和、慢性疾患管理に必要な薬剤の基礎知識を理解する。 薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、疾病からの回復を図るための知識と技術を習得する。 薬物の基礎知識に基づき患者の服薬管理能力の向上など臨床における看護実践に応用できる知識を習得する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 薬理学概論、薬力学、医薬品と法令を理解し学習する | 講義 | 吉栖 |
| | 2 薬物受容体、薬物代謝酵素、薬物動態学、薬物相互作用等について学習する | 講義 | 吉栖 |
| | 3 患者の服薬管理能力の向上を図るための知識および看護の視点について学習する。 | 講義 | 松田 |
| | 4～15 自己の臨床経験から薬理学的観点の課題を抽出し検討する。 【事例検討】 課題1～5/個人ワーク、グループワーク、学生プレゼンテーション、 事例患者について臨床薬理学的知識から分析し、看護の役割について検討する | 演習 | 吉栖、中平、京谷、松田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修：各課題について目標に沿って学習する。事後学修：各課題ごとに看護実践に活用できる視点について検討する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 講義中の学習意欲、探究心を重視する。 最終的には、レポートによる理解度との総合評価による。 | | |
| テキスト | 講義内で適宜紹介する。 | | |
| 参考図書 | 「New薬理学」（南江堂） 「カッティング・薬理学（原書8版）」（丸善） | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 1 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 吉栖 正典／池邊 寧／藤本 圭男／藤本 雅文／Bolstad Francesco／杉浦 重樹／菓子野 元郎／久保 薫 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 幅広い知識を修得してもらうとともに医療における倫理観を養う目的で設けた授業科目である。 | | |
|------------------|---|------|---------|
| 目標 | 1) 人間の尊厳と権利についての理解を深める。 2) 医学研究の歴史を踏まえ、研究倫理の必要性を理解できる。 3) 医学研究における倫理的配慮について理解できる。 4) 医師にとっても大切な教養を養う。 5) 医学における物理学の役割を認識する。 6) 英語の学会発表・ペーパーの構成のしかたを学ぶ。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 2021年4月8日（木） 18：00～19：30 研究遂行に関する法令① （カルタヘナ法） | 講義 | 杉浦 |
| | 2 2021年4月15日（木） 18：00～19：30 研究遂行に関する法令② （RI規制法） | 講義 | 菓子野 |
| | 3 2021年4月22日（木） 18：00～19：30 研究遂行に関する法令③ （動物愛護法等） | 講義 | 久保 |
| | 4 2021年5月6日（木） 18：00～19：30 研究遂行に関する実習 （緊急時の処置、実験計画書作成法） | 講義 | 杉浦 |
| | 5 2021年5月13日（木） 18：00～19：30 英語で論文を書く意味とその書き方 | 講義 | 吉栖 |
| | 6 2021年5月20日（木） 18：00～19：30 医療英語 | 講義 | Bolstad |
| | 7 2021年5月27日（木） 18：00～19：30 数学と医学の交叉点 | 講義 | 藤本(圭) |
| | 8 2021年6月3日（木） 18：00～19：30 医の物理学 「絶対温度の再定義に関して」 | 講義 | 藤本(雅) |
| | 9 2021年6月10日（木） 18：00～19：30 医の倫理学 | 講義 | 池邊 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 受講態度40～60%、レポート40～60%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 資料配付 | | |
| 参考図書 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 1 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 今村 知明 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 衛生社会医学では、衣食住の生活習慣や環境諸要因による健康障害、疾病構造を知り、そしてその予防対策や健康維持のための危機管理上の安全と危険の限界を確定する方法について知る。 | | |
|------------------|---|------|-------|
| 目標 | 1) 個体及び集団をとりまく環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響を把握するため、社会と健康・疾病との関係や地域医療について学ぶ 2) 保健統計の意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ 3) 生活習慣に関連した疾病の種類、病態と予防治療について学ぶ 4) 保健・医療・福祉と介護の制度の内容を学ぶ 5) 健康政策、医療政策について学ぶ | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| 1~2 | 2021年6月17日（木） 衛生統計概論 | 講義 | 今村知明 |
| 3 | 2021年6月24日（木） 統計学的検定 | 講義 | 野田龍也 |
| 4 | 2021年7月1日（木） 医療コミュニケーション学：医療従事者と患者・家族の関係、 ストレスマネジメント | 講義 | 岡本左和子 |
| 5 | 2021年7月8日（木） 生活習慣とリスク・糖尿病等 | 講義 | 西岡祐一 |
| 6~7 | 2021年7月15日（木） 社会医学方法論・疫学研究デザイン | 講義 | 佐伯圭吾 |
| 8 | 2021年7月29日（木） 疫学実践 | 講義 | 佐伯圭吾 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加度20～30%、プレゼンテーション40～50%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、レポート20～30%（論理性・一貫性・適切性）総合的に評価する。 | | |
| テキスト | | | |
| 参考図書 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 太田 豊作 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 人の心の発達を脳科学的な視点と精神心理学的な視点の両方から学習し、その両者の視点を統合させる。統合した視点で考えることで個人の発達の理解を深め、発達の視点で個人の行動を理解することを学ぶ。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1) 脳の発達を学習する。 2) 発達理論：フロイト、ピアジェ、エリクソン、マラー、ボウルビィなどの理論を学習する。 3) 脳の発達と心の発達の関連性を学習する。 4) 発達障害について学習する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 脳の進化 | 講義 | 太田 |
| | 2 脳のしくみ | 講義 | 太田 |
| | 3 脳の神経伝達のしくみ | 講義 | 太田 |
| | 4 精神分析的発達理論（フロイト） | 講義 | 太田 |
| | 5 認知発達理論（ピアジェ） | 講義 | 太田 |
| | 6 対象関係論（マラー、ウィニコット） | 講義 | 太田 |
| | 7 アタッチメント理論（ボウルビィ） | 講義 | 太田 |
| | 8 母子臨床と世代間伝達 | 講義 | 太田 |
| | 9 心と脳のしくみ | 講義 | 太田 |
| | 10 心の働きと脳 | 講義 | 太田 |
| | 11 心の異常と脳 | 講義 | 太田 |
| | 12 自閉スペクトラム症 | 講義 | 太田 |
| | 13 注意欠如・多動症 | 講義 | 太田 |
| | 14 パーソナリティの病と脳 | 講義 | 太田 |
| | 15 まとめ | 講義 | 太田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。 | | |

| | |
|------------|---|
| 評価方法・評価基準 | 評価方法：授業参加度（20％）、中間レポート（40％）、期末レポート（40％） 評価基準：授業参加度は、理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。中間レポートは、脳の発達および発達理論について理解し、学んだ内容が整理されているか。期末レポートは、脳科学的視点と精神心理学的視点を統合させ、個人の行動を理解することができているか。 |
| テキスト | なし |
| 参考図書 | 講義時に紹介する |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 太田 豊作 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 心の発達を各発達期別に脳科学的視点と精神心理学的視点を統合し、個人の発達をどのように捉えるかについて学ぶ。 | | |
|-------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1) 乳幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、老年期の発達について症例をとおして学ぶ 2) 自閉症などの発達障害と虐待の症例を対比しながら脳科学的視点と精神心理学的視点を学ぶ 3) 共同注意の発達、愛着理論、間主観性の発達について症例をとおして学ぶ | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1-2 乳幼児期の発達 共同注意 愛着理論 間主観性 | 講義 | 太田 |
| | 3-4 乳幼児期の症例 (評価と対応) | 演習 | 太田 |
| | 5-6 発達障害の症例 (評価と対応) | 演習 | 太田 |
| | 7-8 虐待の症例 (評価と対応) | 演習 | 太田 |
| | 9-10 児童期の発達 | 講義 | 太田 |
| | 11-12 児童期の症例 (評価と対応) | 演習 | 太田 |
| | 13-14 思春期の発達 | 講義 | 太田 |
| | 15-16 思春期の症例 (評価と対応) | 演習 | 太田 |
| | 17-18 青年期の発達 | 講義 | 太田 |
| | 19-20 青年期の症例 (評価と対応) | 演習 | 太田 |
| | 21-22 成人期の発達 | 講義 | 太田 |
| | 23-24 成人期の症例 (評価と対応) | 演習 | 太田 |
| | 25-26 老年期の発達 | 講義 | 太田 |
| | 27-28 老年期の症例 (評価と対応) | 演習 | 太田 |
| 29-30 症例検討 | 演習 | 太田 | |
| 授業外学修 (事前学修・事後学修) | 事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行い、事前に提示された症例についての発表資料を作成する。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。 | | |

| | |
|------------|---|
| 評価方法・評価基準 | 評価方法：授業参加度（20%）、プレゼンテーション（60%）、期末レポート（20%） 評価基準：授業参加度は、理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。プレゼンテーションは、症例の評価および対応が妥当・適切であるか、また発表内容・方法を含めて適切に表現できているか。期末レポートは、脳科学的視点と精神心理学的視点を統合させ、個人の発達を理解することができているか。 |
| テキスト | なし |
| 参考図書 | 講義時に紹介する |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 太田 豊作 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 心の発達もしくは脳の発達に関する臨床的な研究課題を生理学的手法や心理学的手法をとおして研究を行う。その過程で先行研究のレビューを行い、研究に必要な能力を習得する。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 個々の研究課題に基づき、研究プロセスをとおしてその成果を発表し、論文を作成することができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 先行研究の文献検討する。 | 演習 | 太田 |
| | 2 脳と心の発達における研究計画（先行研究、目的、仮説の有無、用語の定義、研究方法、プレテスト、研究依頼等） | 演習 | 太田 |
| | 3 脳と心の発達における研究の実践（介入研究）と評価 | 演習 | 太田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修：先行研究の文献検討を行い、演習のための発表資料を準備する。 事後学修：演習で生じた検討課題について、文献検討や関連領域の学習などから課題の解決を図る。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法：研究態度（30%）、プレゼンテーション（30%）、論文完成度（40%） 評価基準：研究態度は、研究計画の進捗状況や論文作成の進捗状況は円滑であったか。プレゼンテーションは、先行研究の吟味を適切に行っているか、修士論文について論理的に発表ができていないか。論文完成度は、研究計画書から論文作成まで一貫性をもって行っているか、論文の内容が適切であり、妥当なものであるか。 | | |
| テキスト | なし | | |
| 参考図書 | 授業時に紹介する | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 濱田 薫 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 環境要因は多くの疾病において、その発症から病態、治療反応性、さらに予後に影響をあたえる。代表的な疾患の病態における環境要因の関与を明らかにし、疾病についての理解を深める。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1) 環境要因の視点から各領域の代表的疾患の発症機序を理解する 2) 疾患についての理解を深めることから看護学への応用を図る 3) 各疾患の一次予防の可能性をさぐる | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 環境と病態 | 講義 | 濱田 |
| | 2 大気環境 | 講義 | 濱田 |
| | 3 水質・土壌 | 講義 | |
| | 4 食物連鎖・生物濃縮と疾病 講 | 講義 | 濱田 |
| | 5 放射線と疾病 | 講義 | 濱田 |
| | 6 金属と疾病 | 講義 | 濱田 |
| | 7 環境とアレルギー 講 | 講義 | 濱田 |
| | 8 シックハウス | 講義 | 濱田 |
| | 9 石綿肺と環境曝露 | 講義 | 濱田 |
| | 10 内因性攪乱物質 | 講義 | 濱田 |
| | 11 微生物叢と病態 | 講義 | 濱田 |
| | 12 寄生虫 | 講義 | 濱田 |
| | 13 身近な大気汚染：タバコ | 講義 | 濱田 |
| | 14 環境問題と活動 | 講義 | 濱田 |
| | 15 まとめ | 講義 | 濱田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 受講態度20～30%、プレゼンテーション50～60%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート10～30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |

| | |
|------------|------------|
| テキスト | 講義開始時に紹介予定 |
| 参考図書 | 講義開始時に紹介予定 |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 濱田 薫 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 種々の病態における環境要因の関与について、疫学的あるいは実験モデルを用いた研究論文を用いて、その結果内容および研究手法について理解する | | |
|--------------------|---|-------|-----|
| 目標 | 1) 英文の学術論文を読むことに慣れる 2) 学術論文から研究方法の構築を理解する 3) 英語論文を作成する | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 英語の学術論文の構成 | 講義・演習 | 濱田 |
| | 2 論文を読む | 演習 | 濱田 |
| | 3 要約をまとめる | 演習 | 濱田 |
| | 4 研究論文の紹介 目的に合わせたpresentation | 演習 | 濱田 |
| | 5 抄読会と論文のreview | 演習 | 濱田 |
| | 6 論文を書くために | 演習 | 濱田 |
| | 7 研究テーマとReview | 演習 | 濱田 |
| | 8 研究テーマとReview | 演習 | 濱田 |
| | 9 研究テーマとReview | 演習 | 濱田 |
| 10 [~] 演習 | 演習 | 濱田 | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 受講態度20~30%、プレゼンテーション50~60%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート10~30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 講義開始時に紹介予定 | | |
| 参考図書 | 講義開始時に紹介予定 | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 濱田 薫／吉川 正英 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 環境と病態の関連に関する研究テーマを決定し、研究方法を吟味し、結果とその適切な考察をまとめ、医学（科学）雑誌へ投稿する。 | | |
|------------------|--|-------|-------|
| 目標 | 研究について発案の段階から結果・考察の公表として論文投稿するまでを実際に体験する。研究成果は内容次第であり夜間、休日に施行せざるを得ないこともある。研究の成果ならびに進捗状況によっては、資料の解析による文献研究とする | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 研究テーマを決める | 講義・演習 | 濱田 吉川 |
| | 2~4 研究実施 | | 濱田 吉川 |
| | 5 進捗状況の報告会 | | 濱田 吉川 |
| | 6~ 以下、同様。3週毎に報告会。 | | 濱田 吉川 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成までの進捗状況、論文提出とその完成度にて評価する。 | | |
| テキスト | 講義開始時に紹介予定 | | |
| 参考図書 | 講義開始時に紹介予定 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 実験の準備、実施、結果の解析などどの段階も自ら積極的にすることが重要。サイエンスを実感できます。 | | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 松田 明子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 科学的思考過程に基づく高度な看護実践の意義を理解し、看護技術と医療安全管理に着眼し、必要となる看護実践の根拠をふまえて、より効果的な看護実践方法を探求する。 | | |
|------------------|--|-------|-----|
| 目標 | 1) 看護実践の質の向上が的確な判断力に基づくことを理解し、医療安全管理に必要な能力について説明できる 2) 看護技術を医療安全管理の視点で分析できる視点を習得し、その視点で観察できる 3) 患者の治療過程に焦点をあて、看護実践における看護援助技術の意義とその方法について探求する | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 医療事故と看護業務（診療補助業務/療養上の世話） | 講義 | 松田 |
| | 3~6 事故防止の考え方とその教授方法 医療安全管理の思考過程 リスクマネジメント・セイフティマネジメント 看護事故の構造/看護事故防止の考え方 | 講義・演習 | 松田 |
| | 7~10 診療補助業務および療養上の世話における事故とその予防策立案 薬物療法を受ける患者の観察の視点と事故予防策 業務プロセスに沿った事例を取り上げ、その事例を分析する。 | 講義・演習 | 松田 |
| | 11~15 患者の治療過程と看護の役割 症状マネジメント/患者の意思決定等/事例検討 | 講義・演習 | 松田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 各課題に沿って事前・事後学修に取り組む。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 課題：看護実践の中から看護事故を1つ挙げ、医療安全管理の視点で分析をし、より効果的な看護実践について考察する。 授業参加度 30%、プレゼンテーション 40%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、レポート30%（論理性・一貫性・適切性）総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 講義開始時に紹介予定 | | |
| 参考図書 | 講義開始時に紹介予定 医療安全 医学書院 看護治療学の基本 ライフサポート社 2013 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 開講時、予定曜日に開講。学生に相談の上、講義日変更することがあります。 | | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 松田 明子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 患者の治療過程に焦点をあて、看護実践における生活援助技術の意義とその方法について探求する。患者の薬物治療・療養過程においてその支援方法について検討する。科学的思考過程に基づく意義を理解するとともに、看護実践で活用する。 患者へ教育方法や支援方法を探求する。また、看護の役割として、安全管理の視点で分析し新たな知見を得て、より効果的な看護実践方法を探求するための研究的能力を習得する。 | | |
|------------------|--|-------|-----|
| 目標 | 1) 患者への教育的関わりとその評価方法について理解する 2) 治療を受ける事例を臨床薬理学分野や医療安全管理の視点から分析する方法を理解する 3) 薬物治療を受ける事例を抽出し、臨床薬理学分野や医療安全管理の視点で分析し、対象者の生活支援に反映できる視点を説明できる | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~11 患者教育のための援助技術の基盤となる学習理論 看護職による教育・相談機能の体系化/方法/評価 | 講義・演習 | 松田 |
| | 12~16 看護における臨床薬理学分野や医療安全管理の視点 看護業務と臨床薬理学分野の観察の視点（患者の特性、薬効評価他） 看護業務と添付文書の読み方/事例紹介とその観察 | 演習 | 松田 |
| | 17~20 薬物治療をうける患者の生活管理とその評価の視点 生物学的製剤使用とその観察 患者の症状管理と患者教育 | 演習 | 松田 |
| | 21~26 看護実践方法に関するエビデンスの検証1 文献 クリーティーク | 演習 | 松田 |
| | 27~30 薬物治療学における看護実践方法に関するエビデンスの検証2 自ら経験してきた看護技術や看護実践に関し、関連があると思われる文献を検索し、科学的な根拠に基づいて分析し、説明・記述する。 | 演習 | 松田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加度 30%、プレゼンテーション40%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、レポート30%（論理性・一貫性・適切性）総合的に評価する。 レポート課題 自己の看護実践から臨床薬理学分野の視点から看護技術について、科学的思考過程をふまえてその適用と効果についての分析を記述・説明し、自己の関心ある課題を記述する。 | | |
| テキスト | 講義開始時に紹介予定 | | |
| 参考図書 | 講義開始時に紹介予定 必要に応じて、随時紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 松田 明子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 看護実践を通して研究課題を見出し、その課題に関して研究のプロセスを踏み、看護実践に寄与することができる知見を明らかにする。また、看護実践を科学的に分析する力を養う。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1) 自己の関心領域における看護の現象から研究的視点を持ち、研究課題を見出す 2) 研究課題について倫理的課題を踏まえ、研究計画書の作成ができる 3) 研究プロセスに沿って研究の実施し、その成果を論述できる | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~8 看護実践の現象から文献を検討し、研究課題を探索する。学会や研修に参加し、情報収集し研究課題を探索する。 | 演習 | 松田 |
| | 9~12 研究課題をもとに文献研究をおこない研究課題を明確にする。学会や研修に参加し、情報収集し研究課題を探索する。 | 演習 | 松田 |
| | 13~15 研究課題から研究方法を選択し、研究計画書を作成する。 | 演習 | 松田 |
| | 16~30 研究計画書に沿って研究を実施し、データ収集する。 | 演習 | 松田 |
| | 31~40 収集したデータを分析する。学会や研修に参加し、分析方法を探索する。 | 演習 | 松田 |
| | 41~50 分析した結果をまとめる 研究課題にそって分析結果を整理する。 新たな知見を明らかにする。 | 演習 | 松田 |
| | 51~60 研究結果を文献や動向から考察し、論述する。 | 演習 | 松田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 課題に対して事前・事後学修に臨む | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究に取り組む姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成までの進捗状況、論文提出とその完成度で評価する。 | | |
| テキスト | 講義開始時に紹介予定 | | |
| 参考図書 | 講義開始時に紹介予定 必要に応じて、随時紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 大学院で自己の看護実践を探索し、研究プロセスを理解し、自分なりに計画遂行できるように日々励んでください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 成人看護学領域の急性期で重要と考えられる理論や概念、モデルの分析を行い、関連領域の研究論文をクリティックし研究の動向と課題を探究する。ストーマをはじめとした排泄管理学と褥瘡、下腿潰瘍等の創傷管理における臨床に則した専門的看護実践技術について、理解を深めエビデンスに基づいた看護実践能力を向上する。 | | |
|------------------|---|-------|-----|
| 目標 | 1)成人看護学領域の急性期看護に活用できる理論の構築方法や、理論と研究デザインとの関連について文献クリティックを用いて探究し、主に急性期看護学領域の研究の概念枠組みに用いられる中範囲理論について理解を深める 2)ストーマ、褥瘡、下腿潰瘍等の臨床におけるスキンケアおよび創傷管理論、ストーマに関連する排泄管理学などの専門的看護実践技術について研究能力を高める | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 オリエンテーション | 講義 | 石澤 |
| | 2~3 成人看護学領域（急性期）における看護に関する代表的な危機理論、各理論の概念、解決モデル | 講義・演習 | 石澤 |
| | 4~6 急性期、周手術期看護における疾患と代表的な看護理論・概念との関連性患者および家族との関係構築、コミュニケーション理論 講義 演習 石澤 関連領域の文献クリティック | 講義・演習 | 石澤 |
| | 7~8 急性期、周手術期看護における代表的な疾患に関連する排泄管理論（ストーマ、失禁等） | 講義・演習 | 石澤 |
| | 9~11 急性期、周手術期看護における代表的な疾患に関連する急性創傷管理論（ドレッシング、手術創管理等）生活支援、患者教育、患者および家族に生じる心理社会的問題、関連領域の文献クリティック | 講義・演習 | 石澤 |
| | 12 排泄管理が必要とされる患者・家族を取り巻く諸問題（ストーマ局所管理、身体・心理・社会的問題、がんとストーマ） | 講義・演習 | 石澤 |
| | 13 褥瘡、下腿潰瘍等の創傷管理、スキンケアー1（慢性創傷の管理、創傷治癒理論等） | 講義・演習 | 石澤 |
| | 14 褥瘡、下腿潰瘍等の創傷管理、スキンケアー2 講義（慢性創傷の管理、事例展開） | 講義・演習 | 石澤 |
| | 15 まとめ | 講義 | 石澤 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加状況20～30%、プレゼンテーション50～60%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート10～30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 講義の中で適宜紹介する。 | | |
| 参考図書 | 講義の中で適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 成人看護学の理論と実践を確実に習得してってください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 成人看護学領域の主に急性期で重要と考えられる理論や概念、モデルの分析を行うべき関連領域の研究論文をクリティックできる能力を養う。患者および家族を取り巻く身体的、心理的社会的問題、さらにそれらに影響を及ぼす排泄管理、創傷管理に関連する文献についての活用方法を知り、先行研究を理解し、新しい知見を得て課題を見出すことができる応用力を養う。 | | |
|------------------|---|------|-------|
| 目標 | 1) 系統的かつ効果な文献検索・検討を行う能力を養う。 2) 臨床で起こっている現象や看護実践を記述、分析し、新しい概念や理論の構築を試みることにより、理論化の能力を養う。また、理論化されたものを検証する研究方法論を検討する。 3) 事例をとおして患者および家族の問題点を抽出し、看護理論と統合させて プレゼンテーションと ディスカッション、サマライズ を行うことができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 オリエンテーション 学習の方法と演習の予定 | 演習 | 石澤美保子 |
| | 2-8 急性期、周手術期看護における看護理論、概念に関する文献検索、クリティック、サマライズ | 演習 | 石澤美保子 |
| | 9-19 急性期、周手術期における排泄管理（ストーマ、失禁）、創傷管理に関する文献検索、クリティック、サマライズ | 演習 | 石澤美保子 |
| | 20-30 各自のテーマ、関心のある課題に基づいた関連文献のプレゼンテーション、ディスカッション まとめ | 演習 | 石澤美保子 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加状況20～30%、プレゼンテーション50～60%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法および表現力）、レポート10～30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 演習の中で適宜紹介する。 | | |
| 参考図書 | 演習の中で適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 大学院生として、自ら調べ、理解し学習を進めていけるよう準備をしっかりと行って授業にのぞむようにして下さい。 | | |

英文科目名称：

| | | | |
|--------------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子／佐竹 陽子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | | | |
|------------------|--|------|---------------|
| 目的 | 各自が捉えたい成人看護学領域における課題について、フィールドワークから論文作成に必要なプロセスを踏み、研究実践能力を養うことができる。 | | |
| 目標 | 1) 各自の成人看護学領域において、フィールドワークから研究課題に相応しい研究方法を選択できる。 2) 資金、予算、時間、倫理等の側面から吟味し、実行可能な研究計画を立案できる。 3) 研究計画書を作成し、研究計画にそってデータ収集、分析ができる。 4) 研究ゼミをとおして研究内容をプレゼンテーションし、討議ができる。 5) 研究論文として作成、完成できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1. 研究課題に適切なフィールドを設定し、フィールドワークを実施する。 | 演習 | 石澤美保子 |
| | 2. 実行可能な研究計画の立案、作成、データ収集、分析方法の討議 | 演習 | 石澤美保子 |
| | 3. ゼミナールをとおして研究討議を行う。 | 演習 | 石澤美保子 佐竹陽子 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成までの進捗状況、論文提出とその完成度にて評価する。 | | |
| テキスト | 授業中に適宜紹介する。 | | |
| 参考図書 | 授業中に適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 大学院での研究プロセスを理解し、自分なりに計画遂行できるように日々進めて行ってください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | がん看護の基盤となる概念・理論を理解し、看護実践への適用について探求する。 | | |
|------|--|-------|------|
| 目標 | 1) がん看護の基盤となる概念・理論を理解する。 2) 学んだ概念や理論、研究結果のがん看護実践への適用について考究する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 授業展開のオリエンテーション がん患者を理解するための概念・理論(1) ストレス・コーピング ・ストレスの概念 ・コーピングプロセス ・ラザルスのストレス・コーピングモデル ・看護実践・研究への活用 | 講義・演習 | 田中登美 |
| | 3 がん患者を理解するための概念・理論(2) 喪失と悲嘆の概念 ・喪失の定義・種類 ・悲嘆の定義・関連する要因 ・正常な悲嘆と複雑性悲嘆 ・予期的悲嘆 ・看護実践・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| | 4~5 がん患者を理解するための概念・理論の理解(3) 危機と危機介入に関する理論 ・アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル ・フィンクの危機理論 ・看護実践・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| | 6 がん患者を理解するための概念・理論(4) 自己概念 ・自己概念とは ・ボディイメージの定義・影響する要因 ・看護実践・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| | 7 がん患者を理解するための概念・理論(5) ミッシェルの不確かさに関する概念 ・不確かさの定義・種類 ・看護実践・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| | 8 がん患者を理解するための概念・理論(6) レジリエンス ・レジリエンスの定義・構成要素、レジリエンスモデル ・看護実践・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| | 9~10 がん患者を理解するための概念・理論(7) オレムのセルフケア不足理論 ・セルフケアの概念 ・セルフケア不足理論 ・看護システム理論 ・看護実践・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| | 11 がん患者を理解するための概念・理論(8) 自己効力理論 ・自己効力の概念 ・自己効力を高める情報源 ・看護実践・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| | 12 がん患者を理解するための概念・理論(9) ソーシャル・サポート ・ソーシャル・サポートの概念・機能 ・看護実践・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| | 13 がん患者を理解するための概念・理論(10) エンパワメント ・エンパワメントの概念 | 演習 | 田中登美 |

| | | | |
|------------------|---|----|------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・エンパワメント・アプローチ ・看護実践・研究への活用 | | |
| | <p>14</p> <p>がん患者を理解するための概念・理論(11) がんサバイバーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんサバイバーの概念 ・がんサバイバーの抱える課題 ・がんサバイバーシップの支援 ・看護実践・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| | <p>15</p> <p>がん患者を理解するための概念・理論(12) がん予防に関する理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健信念モデル ・変化ステージモデル ・乳がん・子宮がんなどの啓発教育に関する研究 ・看護実践(がん教育を含む)・研究への活用 | 演習 | 田中登美 |
| 授業外学修(事前学修・事後学修) | | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>担当した授業の作成資料内容(40点:論理性・一貫性・適切性)、担当した授業のプレゼンテーション内容および方法(20点:論理性・一貫性・適切性)、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容(20点:論理性・一貫性・適切性・積極性)、最終課題レポート(20点:論理性・一貫性・適切性)により総合的に評価する。</p> <p>最終課題レポートは、概念・理論を1つ選択して(授業の中で取り組んだものでも、以外のものでもよい)、テーマ「概論・理論を用いたがん看護実践への適応」としてまとめる。</p> | | |
| テキスト | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | <p>学生の臨床経験を振り返りながら、講義ならびに文献学習、発表・討議をとおして、がん看護領域の研究や実践、教育に必要な概念や理論を理解する力や応用する力を身につけるため、文献学習や発表・討議は、学生の主体性を重視して進めます。</p> <p>担当した授業内容に対する事前学習として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。</p> <p>授業終了後は学修内容の復習することで学びを深めることを期待します。</p> | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | がん看護学特論で学んだ概念・理論を基盤として、がん患者およびその家族の抱えるさまざまな臨床上的問題および看護について実践的に探究する。また、これらの探求から具体的な支援方法を構築するための研究能力を養う。 | | |
|------------------|--|-------|------|
| 目標 | 1) がん看護学領域における研究課題について理解する。 2) がん患者の抱えるさまざまな臨床上的問題および看護について述べるができる。 3) 家族の抱えるさまざまな臨床上的問題および看護について述べるができる。 4) がん患者およびその家族への看護における課題を明確にし、解決方法について検討する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1・2 授業展開のオリエンテーション がん看護領域における研究の外観 | 講義・演習 | 田中登美 |
| | 3～10 がん患者が抱えるさまざまな臨床上的問題および看護に関する文献を検討する | 演習 | 田中登美 |
| | 11・12 がん患者が抱えるさまざまな臨床上的問題および看護のあり方について明らかにする | 演習 | 田中登美 |
| | 13～18 がん患者の家族の抱えるさまざまな臨床上的問題および看護に関する文献を検討する | 演習 | 田中登美 |
| | 19・20 がん患者の家族の抱えるさまざまな臨床上的問題および看護のあり方について明らかにする | 演習 | 田中登美 |
| | 21～23 がん患者を対象とした研究方法について検討する | 演習 | 田中登美 |
| | 24・25 がん患者の家族を対象とした研究方法について検討する | 演習 | 田中登美 |
| | 26～30 自分の関心のある課題の明確化と解決方法について検討する | 演習 | 田中登美 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業への貢献度20～30%、プレゼンテーション30～40%（資料の作成・発表内容と方法、妥当性）、レポート30～50%（論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 特に指定しない。 | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | がん看護学に関する研究論文を通して現象を理解してその解決方法を学んでいけるように、自分の感じている臨床疑問と真摯に向き合い主体的な姿勢で受講してくれることを期待します。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | がん看護学領域の自分の関心のある現象や援助に関して、がん看護領域の研究に必要な概念や理論、専門的知識を用いて、研究計画書を作成する力およびデータの収集力・解釈・分析力、結果を統合する力、論理的思考力を身につけるとともに、プレゼンテーション能力を習得する。一連の過程を通して、研究能力の基礎を養う。 | | |
|------------------|--|------|-------|
| 目標 | 1) がん看護領域の自分の関心領域における研究課題を見出すことができる。 2) 研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 3) 研究の倫理的配慮について学び、倫理申請書類を作成できる。 4) 研究に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 5) 研究のプロセスにそって研究を行い、成果を論文としてまとめることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1～8 自分の関心のある現象や援助から研究課題を明確にする。 | 演習 | 田中 登美 |
| | 9～12 研究課題をもとに文献研究を行い、研究課題を明確にする。 先行文献をクリティークする。 | 演習 | 田中 登美 |
| | 13～15 研究課題から研究方法を選択し、研究計画書を作成する。 倫理申請書を作成し、倫理審査を受ける。 | 演習 | 田中 登美 |
| | 16～30 研究環境を整備し、データを収集する。 | 演習 | 田中 登美 |
| | 31～40 収集したデータを分析する。 | 演習 | 田中 登美 |
| | 41～50 分析した結果をまとめる。 研究課題にそって分析結果を整理する。 研究結果から新たな知見を明らかにする。 | 演習 | 田中 登美 |
| | 51～60 修士論文を作成する。 | 演習 | 田中登美 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文の作成など総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 特に指定しない。 | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | がん看護学特論で学んだ概念・理論、がん看護学援助論を基盤として、主体的に研究プロセスをふむことにより、研究の意義を実感できることを期待します。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 澤見 一枝 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | | | |
|---|---|-------|-----|
| 目的 | エイジング（加齢）は年齢を重ねることを指すが、非常に幅広い研究分野であり、健康関連だけに限定されず、社会・心理・経済・ライフワーク・Quality of life など、裾野はさらに拡大しつつある。アンチエイジング（抗加齢）・ヘルシエイジング（健康的な加齢）・アクティブエイジング（活力ある高齢期）・プロダクティブエイジング（生産的・創造的な高齢期）など、その到達点多岐に及ぶ。このような幅広い見地から、多様な加齢研究を探求し、多様化する高齢者の生活に適した支援を考察する。 | | |
| 目標 | 1) エイジングに関する研究の概観をつかむ 2) エイジングに関する文献レビューをまとめて発表できる 3) 高齢期の健康および生活上の課題を考察することができる 4) 自己の研究において関心のあるエイジングの理論をまとめ、考察することができる | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 エイジングに関する研究の概観 | 講義 | 澤見 |
| | 3~5 エイジングに関する文献レビュー | 講義/演習 | 澤見 |
| | 6 エイジングに関する文献レビュー（プレゼン） | 演習 | 澤見 |
| | 7~9 サクセスフル・エイジング-幸福な高齢期について考察する | 講義/演習 | 澤見 |
| | 10 サクセスフル・エイジングのまとめ（プレゼン） | 演習 | 澤見 |
| | 11~13 エンド・オブ・ライフケアの文献レビュー | 講義/演習 | 澤見 |
| | 14 エンド・オブ・ライフケアのまとめ（プレゼン） | 演習 | 澤見 |
| 15 自己の研究において関心のあるエイジングの理論をまとめる（プレゼン） | 演習 | 澤見 | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 出席10%、プレゼンテーション40%（妥当性・適切性・資料作成・発表の内容と方法）、課題レポート50%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 適宜資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 澤見 一枝 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 高齢者看護学領域における自己の研究テーマに関する文献のクリティークから、研究課題を絞り込む。研究の方法と解析方法を習得する。 | | |
|-------------------|--|------|-----|
| 目標 | 1) 高齢者看護学領域の研究の文献クリティークから、自己の研究課題を明らかにする。 2) 研究計画を立案できる。 3) 研究の方法と解析方法を習得する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 高齢者看護学領域の研究の概要を知る 講義 澤見 研究課題の明確化：文献検討 | 講義 | 澤見 |
| | 3~4 研究課題の明確化：文献検討 | 演習 | 澤見 |
| | 5~6 研究計画の検討：研究の方法論 | 演習 | 澤見 |
| | 7~8 研究計画の検討：研究の方法論 | 演習 | 澤見 |
| | 9~10 質問表の設計 | 演習 | 澤見 |
| | 11~12 質問表の設計 | 演習 | 澤見 |
| | 13~14 研究計画書の作成 | 演習 | 澤見 |
| | 15~16 研究計画書の作成 | 演習 | 澤見 |
| | 17~19 データ集約の方法（エクセル） | 演習 | 澤見 |
| | 20~21 データ解析の方法（SPSS） | 演習 | 澤見 |
| | 22~23 データ解析の方法（SPSS） | 演習 | 澤見 |
| | 24~25 データ解析の方法（SPSS） | 演習 | 澤見 |
| | 26~27 研究論文の書き方 | 演習 | 澤見 |
| 28~29 研究論文の書き方 | 演習 | 澤見 | |
| 30 研究論文の書き方 | 演習 | 澤見 | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |

| | |
|------------|--|
| 評価方法・評価基準 | 出席10%、プレゼンテーション40%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法） レポート50%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 |
| テキスト | 演習の中で適宜紹介する。 |
| 参考図書 | 演習の中で適宜紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 澤見 一枝 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 老年看護学の領域でまだ明らかにされていない研究課題を選択する。その課題を解決するための研究計画書を作成し、データ収集・分析・考察を経て研究論文を完成する。一連の過程を通じて、研究能力の基礎を養う。 | | |
|------------------|--|------|-----|
| 目標 | 1) 高齢者看護学の領域の研究課題を決定することができる。 2) 抽出した研究課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3) 研究課題を解決するために最も適切な研究方法を選択し、研究計画書を作成できる。 4) 研究課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 5) 信頼性、妥当性のある分析ができる。 6) 分析結果を踏まえ、適切な考察ができる。 7) 研究成果を修士論文としてまとめることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~5 研究課題の明確化 | 演習 | 澤見 |
| | 6~10 先行研究のクリティーク | 演習 | 澤見 |
| | 11~15 研究方法の選択、研究計画書作成 | 演習 | 澤見 |
| | 16~20 倫理申請書作成、倫理審査を受ける | 演習 | 澤見 |
| | 21~25 データ収集 | 演習 | 澤見 |
| | 26~30 データ入力・分析 | 演習 | 澤見 |
| | 31~35 分析結果の考察 | 演習 | 澤見 |
| | 36~40 データ入力・分析 | 演習 | 澤見 |
| | 41~45 分析結果をまとめる | 演習 | 澤見 |
| | 46~50 分析結果の考察 | 演習 | 澤見 |
| | 51~55 修士論文の作成 | 演習 | 澤見 |
| 56~60 修士論文の作成 | 演習 | 澤見 | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、研究成果から総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 適宜資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 適宜提示する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川上 あずさ | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 小児期にある人（子ども）がもっている能力や環境との相互作用をふまえながら、理論や現象を理解し看護への活用を検討する。 | | |
|------|---|-------|-----|
| 目標 | 1) 小児期に特徴的な発達理論について理解し説明できる。 2) 小児看護の中心概念である、発達と健康と生活について理解し説明できる。 3) 小児期に特徴的な現象・課題について理解し説明できる。 4) 発達と健康と生活を統合し看護への活用について述べるができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 オリエンテーション 子どもとは | 講義 | 川上 |
| | 2 成長・発達とは 小児看護における倫理 | 講義 | 川上 |
| | 3 概念の成り立ちや背景、変遷について検討する 子どもの健康 | 講義・演習 | 川上 |
| | 4 概念の成り立ちや背景、変遷について検討する 子どもの生活 | 講義・演習 | 川上 |
| | 5 理論の成り立ちや背景を理解し看護への活用について検討する 1) エリクソンの自我発達理論と小児看護 | 講義・演習 | 川上 |
| | 6 理論の成り立ちや背景を理解し看護への活用について検討する 2) ピアジェの認知発達理論と小児看護 | 講義・演習 | 川上 |
| | 7 理論の成り立ちや背景を理解し看護への活用について検討する 3) ハヴィグアストの発達理論と小児看護 | 講義・演習 | 川上 |
| | 8 理論の成り立ちや背景を理解し看護への活用について検討する 4) ブロンフェンブレナーの生態学的視点と小児看護 | 講義・演習 | 川上 |
| | 9 小児期に特徴的な現象・課題を理解し看護への活用について検討する 1) 遊びの発達と看護への活用 | 講義・演習 | 川上 |
| | 10 小児期に特徴的な現象・課題を理解し看護への活用について検討する 2) 愛着の発達と看護への活用 | 講義・演習 | 川上 |
| | 11 小児期に特徴的な現象・課題を理解し看護への活用について検討する 3) 死の理解と看護への活用 | 講義・演習 | 川上 |
| | 12 小児期に特徴的な現象・課題を理解し看護への活用について検討する 4) ストレスに関する考え方と看護への活用 | 講義・演習 | 川上 |
| | 13 小児各期の健康課題と看護について文献や経験をもとに検討する | 講義・演習 | 川上 |
| | 14 地域で生活する子どもの健康課題と看護について文献や経験をもとに 検討する | 講義・演習 | 川上 |
| 15 | 講義・演習 | 川上 | |

| | | | |
|------------------|---|--|--|
| | 小児各期の健康課題と生活を統合し看護上の課題を迫及する | | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修については、授業内容に関連する文献を精読しておく。 事後学修については、授業時の資料をもとに内容を振り返り理解を深める。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業への貢献20～30%、プレゼンテーション（資料の作成・発表内容の方法、妥当性）30～40%、レポート（論理性・一貫性・適切性）30～50%により総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 特に指定なし | | |
| 参考図書 | 適宜紹介 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 積極的な授業への参加、有意義なディスカッションにより学びが深まることを期待します。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川上 あずさ | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 病気や障がいのある小児と家族及び特殊な状況下にある小児と家族に対する看護援助について実践的に探究する。また、これらの探究から具体的な支援方法を構築するための研究能力を養う。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1)病気や障がいのある小児とその家族の特徴について述べることができる。 2)特殊な状況下にある小児とその家族の特徴について述べるができる。 3)病気や障がいのある小児と家族への援助における課題を明確にし、解決方法について検討する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 オリエンテーション 小児にとっての病気とは、障がいとは | 講義 | 川上 |
| | 2~6 病気や障がいのある小児と家族の看護援助に関する文献を検討する | 演習 | 川上 |
| | 7・8 病気や障害のある小児と家族の援助のあり方について明らかにする | 演習 | 川上 |
| | 9~12 特殊な状況下にある小児と家族の看護援助に関する文献を検討する | 演習 | 川上 |
| | 13・14 特殊な状況下にある小児と家族の援助のあり方について明らかにする | 演習 | 川上 |
| | 15~20 小児を対象とした研究方法について検討する | 演習 | 川上 |
| | 21~25 小児の家族を対象とした研究方法について検討する | 演習 | 川上 |
| | 26~30 自己の関心ある課題の明確化と解決方法について検討する | 演習 | 川上 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修については、授業内容に関連する文献を精読しておく。 事後学修については、授業時の資料をもとに内容を振り返り理解を深める。 自主的に学習を深める。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業への貢献20~30%、プレゼンテーション30~40%（資料の作成・発表内容と方法、妥当性）、レポート30~50%（論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 特に指定なし | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 積極的に、真摯に、関心のある研究課題や研究方法を探求しましょう。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川上 あずさ | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 見出した研究課題に関して、研究のプロセスをふみ、小児看護実践に寄与することのできる知見や援助を明らかにする研究実践能力を習得する。 | | |
|------------------|--|------|-----|
| 目標 | 1) 自己の関心領域における研究課題を見出すことができる。 2) 研究課題を解明するための計画書作成できる。 3) 研究のプロセスにそって研究を行い論文にまとめることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~8 関心のある現象や援助から研究課題を明確にする | 演習 | 川上 |
| | 9~12 研究課題をもとに文献研究をおこない研究課題を明確にする | 演習 | 川上 |
| | 13~15 研究課題から研究方法を選択し、研究計画書を作成する | 演習 | 川上 |
| | 16~30 研究環境を整備し、データを収集する | 演習 | 川上 |
| | 31~40 収集したデータを分析する | 演習 | 川上 |
| | 41~50 分析した結果をまとめる 研究課題にそって分析結果を整理する 新たな知見を明らかにする | 演習 | 川上 |
| | 51~60 論文を作成する | 演習 | 川上 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文の作成など総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 特に指定しない | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する | | |
| 学生へのメッセージ等 | 看護における研究の意義を実感できることを期待します。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | ウィメンズヘルスの概念と歴史を理解し、性差医療やプレコンセプションケアを中心に女性の健康課題や最近の研究について学ぶ。 | | |
|---------|---|-------|-----|
| 目標 | 1) 女性の健康に関する国内外の歴史的背景と考え方を理解する。 2) 女性の健康に関する課題を明確化できる。 3) 女性の健康に関する研究のクリティークの技法を習得する。 4) 女性の健康に関する自らの研究課題を見出す。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 2021年4月12日（月） 授業オリエンテーション 性差医療とプレコンセプションケア | 講義 | 五十嵐 |
| | 2 2021年4月19日（月） 発表オリエンテーションと準備 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 3 2021年4月26日（月） 女性の健康・プレコンセプションケアから考える栄養・体重管理 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 4 2021年5月10日（月） 女性の健康・プレコンセプションケアから考える慢性疾患 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 5 2021年5月17日（月） 女性の健康・プレコンセプションケアから考える嗜好品（喫煙、アルコール）、DV | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 6 2021年5月24日（月） エビデンスに基づいた生殖計画と避妊 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 7 2021年5月31日（月） 女性の健康・プレコンセプションケアから考える予防接種、STI、薬 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 8 2021年6月7日（月） 論文クリティーク オリエンテーション・発表準備 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 9 2021年6月14日（月） 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク1 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 10 2021年6月21日（月） 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク2 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 11 2021年6月28日（月） 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク3 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 12 2021年7月5日（月） 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク4 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 13 2021年7月12日（月） 女性の健康に関する研究の動向 論文クリティーク5 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 14 総合演習 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| 15 総合演習 | 講義・演習 | 五十嵐 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学習：テーマに関する発表の準備 事後学習：発表後の学びをまとめる。 |
| 評価方法・評価基準 | 受講態度（30%）、プレゼンテーション（70%）で評価する |
| テキスト | 講義の都度、適宜提示する。 |
| 参考図書 | 講義の都度、適宜提示する。 |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子／乾 つぶら／上田 佳世／森兼 眞理／田中 優 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 女性健康学特論で学習した概念や理論を基盤として、女性とその家族が抱える問題や課題を明確化し、自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。 | | |
|------------------|--|-------|----------------------------|
| 目標 | 1) 女性の健康に関する研究で用いられる概念について説明できる。 2) 女性の健康に関する量的研究・質的研究を実践するための研究デザインが説明できる。 3) 量的研究・質的研究を理解し、データ収集および分析に必要な基本的技術を修得する。 4) 自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 講義のオリエンテーション | 講義 | 五十嵐 乾 上田 森兼 |
| | 2~7 女性の健康に関する研究の変遷と問題や課題を明確化する。 クリニカル・クエスチョンからリサーチクエスチョンへ 研究課題に適切な研究方法の選択 | 講義・演習 | 五十嵐 乾 上田 森兼 |
| | 8~13 女性の健康に関連した量的研究・質的研究のクリティークができる。量的研究・質的研究を理解し研究実施に必要な基本的技術を修得する ・調査用紙の作成方法 ・インタビュー・ガイドの作成・面接技術 ・データ入力と分析方法 ・系統的レビューの方法 | 講義・演習 | 五十嵐 乾 上田 森兼 田中 |
| | 14~28 自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。 ・研究計画書作成の技術を修得する。 ・研究の倫理的配慮について理解する。 | 講義・演習 | 五十嵐 乾 上田 森兼 |
| | 29~30 まとめ | 講義 | 五十嵐 乾 上田 森兼 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 受講態度（30%）、プレゼンテーション（70%）で評価する。 | | |
| テキスト | 講義の都度、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | 後期の講義は集中で行うことがある。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 女性健康学に関する課題に対して研究計画書を作成し倫理審査を得たうえで、研究に取り組む。その研究プロセスを経て、看護・助産の実践に役立つ新しい知見や支援方法を明らかにし、研究論文を完成する。一連の過程を通じて、研究実践能力の基礎を養う。 | | |
|------------------|---|----------|-----|
| 目標 | 1) 女性の健康に関する変遷や現状を分析し、課題を明確にできる。 2) 課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3) 研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 4) 研究の倫理的配慮について学び、倫理申請書類が作成できる。 5) 課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 6) 研究プロセスに沿って研究を実施し、研究成果を修士論文としてまとめることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~28 1) 研究課題の明確化 これまで女性健康学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、女性の健康に関する自己の研究課題を明確化する。 2) 研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。 先行研究をシステムティックに検索し、適切にクリティークする。そこから自己の研究課題を絞る。 3) 研究方法の選択・研究計画書作成 研究課題の解決に適した研究方法を選択し、実施可能な研究計画書を作成する。 4) 倫理申請書作成、倫理審査を受ける 倫理審査を受ける一連の過程を通して、研究者として必要な倫理感について理解を深める。 | 講義 演習 | 五十嵐 |
| | 29~60 5) データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 6) データ分析・論文作成 信頼性・妥当性のあるデータ分析を行う。 先行研究の結果も踏まえながら、自己の研究結果について考察を深め、研究成果を修士論文として作成する。 | 講義 演習 | 五十嵐 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究に取り組む姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成までの進捗状況、論文提出とその完成度にて評価する。 | | |
| テキスト | 適宜資料を提示、配布する。 | | |
| 参考図書 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 周産期看護や助産の実践に関する研究の動向を知り、根拠のある助産ケア実践について学ぶ。その過程から、自身の研究課題を考える。 | | |
|---------|--|-------------|-----|
| 目標 | 1) 周産期看護・助産実践に関する国内外の研究の動向を知る。 2) 周産期看護・助産実践の課題を明確化できる。 3) 周産期看護・助産実践に関する研究のクリティークの技法を習得する。 4) 周産期看護・助産実践に関する自らの研究課題を見出す。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 2021年4月12日（月） 授業オリエンテーション 根拠に基づく助産学・周産期看護学について | 講義 演習 | 五十嵐 |
| | 2 2021年4月19日（月） 発表オリエンテーションと準備 | 講義・演習 演習 | 五十嵐 |
| | 3 2021年4月26日（月） 周産期ケアに活かすエビデンス ～ケースコントロール・スタ ディ～ | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 4 2021年5月10日（月） 周産期ケアに活かすエビデンス ～質的研究～ | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 5 2021年5月17日（月） 周産期ケアに活かすエビデンス ～ランダム化比較試験～ | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 6 2021年5月24日（月） 周産期ケアに活かすエビデンス ～システムティック・レ ビュー～ | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 7 2021年5月31日（月） 周産期ケアに活かすエビデンス ～ガイドライン～ | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 8 2021年6月7日（月） 論文クリティーク オリエンテーション・発表準備 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 9 2021年6月14日（月） 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク1 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 10 2021年6月21日（月） 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク2 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 11 2021年6月28日（月） 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク3 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 12 2021年7月5日（月） 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク4 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 13 2021年7月12日（月） 周産期に関する研究の動向 論文クリティーク5 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 14 総合演習 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| 15 総合演習 | 講義・演習 | 五十嵐 | |

| | |
|------------------|---------------------------------------|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学習：テーマに関する発表の準備 事後学習：発表後の学びをまとめる |
| 評価方法・評価基準 | 受講態度（30%）、プレゼンテーション（70%）で評価する |
| テキスト | |
| 参考図書 | レズリー・ペジ 著、鈴木 江三子訳：新助産学、メディカ出版、2002 |
| 学生へのメッセージ等 | |

| | | | |
|-------------------------------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子／乾 つぶら／上田 佳世／森兼 眞理／田中 優 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | | | |
|------------------|--|-------|----------------------------|
| 目的 | 周産期看護特論で学習した概念や理論を基盤として、母と子およびその家族が抱える問題や疑問を明確化し、自己の研究テーマや課題を明らかにする。 | | |
| 目標 | 1) 周産期看護に関する研究で用いられる概念について説明できる。 2) 周産期看護に関する量的研究・質的研究を実践するための研究デザインが説明できる。 3) 量的研究・質的研究を理解し、データ収集および分析に必要な基本的技術を修得する。 4) 自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 講義のオリエンテーション | 講義 | 五十嵐 乾 上田 森兼 |
| | 2~7 周産期看護に関する研究の技法 クリニカル・クエスチョンからリサーチクエスチョンへ 研究課題に適切な研究方法の選択 | 講義・演習 | 五十嵐 乾 上田 森兼 |
| | 8~13 周産期看護に関連した量的研究・質的研究のクリティーク・レビューができる。量的研究・質的研究を理解し研究実施に必要な基本的技術を修得する 調査用紙の作成方法 系統的レビューの方法 インタビュー・ガイドの作成 | 講義・演習 | 五十嵐 乾 上田 森兼 田中 |
| | 14~28 自己の研究テーマの方向性を定め、研究に向けた取り組みができる。 ・研究計画書作成の技術を修得する。 ・研究の倫理的配慮について理解する。 | 講義・演習 | 五十嵐 乾 上田 森兼 |
| | 29~30 まとめ | 講義 | 五十嵐 乾 上田 森兼 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 受講態度（30%）、プレゼンテーション（70%）で評価する。 | | |
| テキスト | 講義の都度、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 講義の都度、適宜提示する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | *後期の講義は集中で行うことがある。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 周産期看護学領域で改善や新しい知見が必要とされている研究課題について、自己の関心のある研究課題を選択する。その課題を解決するための研究計画書を作成し、データ収集・分析・考察を経て研究論文を完成する。また一連の過程を通じて、研究能力の基礎を養う。 | | |
|------------------|--|-------|-----|
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 周産期看護に関する変遷や現状を分析し、課題が抽出できる。 2) 課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3) 研究課題解決のために最も適切で実施可能な研究方法を選択し、研究計画書を作成できる。 4) 研究の倫理的配慮について学び、倫理申請書類が作成できる。 5) 課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 6) 信頼性・妥当性のある分析ができる。 7) 分析結果を踏まえ、適切な考察ができる。 8) 研究成果を修士論文としてまとめることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~28 1) 研究課題の抽出 これまで周産期看護学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、周産期看護に関する自己の研究課題を明確化する。 2) 先行研究のクリティーク 先行研究をシステムティックに検索し、適切にクリティークする。そこから自己の研究課題を絞る。 3) 研究方法の選択・研究計画書作成 研究課題の解決に適した研究方法を選択し、実施可能な研究計画書を作成する。 4) 倫理申請書作成、倫理審査を受ける 倫理審査を受ける一連の過程を通して、研究者として必要な倫理感について理解を深める。 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| | 29~60 5) データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 6) データ分析 信頼性・妥当性のあるデータ分析を行う。 7) 結果の考察 先行研究の結果も踏まえながら、自己の研究結果について考察を深める。 8) 論文作成 研究成果を修士論文として作成する。 | 講義・演習 | 五十嵐 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成までの進捗状況、論文提出とその完成度にて評価する。 | | |
| テキスト | 適宜資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 適宜提示する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 風間 眞理 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 精神医療・看護の歴史や現状から今後の精神医療・看護および福祉の課題を探究する。また、社会の動向を踏まえた精神看護の新たな側面を考える。 | | |
|------------------|---|-------|-----|
| 目標 | 1) 精神医療・看護の変遷を知る。 2) 社会的な偏見や差別について考えることができる。 3) 精神医療の課題を考えることができる。 4) 精神看護の課題を考えることができる。 5) 今後、精神看護が果たしていく役割を考えることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 オリエンテーション | 講義 | 風間 |
| | 2 精神医療の変遷及び看護の歴史 | 講義 | 風間 |
| | 3~4 法律と倫理（偏見と差別） | 講義 | 風間 |
| | 5~6 長期入院患者、ホスピタリズム、退院促進 | 講義 | 風間 |
| | 7~8 スティグマ、セルフスティグマ | 講義 | 風間 |
| | 9~11 地域で生活している精神障害者 | 講義・演習 | 風間 |
| | 12 こころの健康、自殺 | 講義 | 風間 |
| | 13~14 アディクション | 講義・演習 | 風間 |
| | 15 まとめ（プレゼンテーション） | 講義・演習 | 風間 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修：基本的な知識の確認をしておく。できれば、学部生が使用するような教科書に目を通しておく 事後学修：講義を受けて感じたこと・考えたことを振り返り、必要ならば、記述すること | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法：講義に取り組む姿勢・態度（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%） 評価基準：積極的な質疑応答ができるか。レポート課題に対して自分で調べて考えを述べられているか。 | | |
| テキスト | 資料配付 | | |
| 参考図書 | 適宜提示する | | |
| 学生へのメッセージ等 | 積極的に取り組み知識を広げてください。 | | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 風間 眞理 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 看護研究の意味を理解し、研究を実施するための基礎的なスキルを修得する。また、あらゆる情報から必要な情報を取捨選択できる能力を修得する。 | | |
|------------------|---|-------|-----|
| 目標 | 1) 和文献の抄読ができる。 2) 英文献の抄読ができる。 3) 得られた知識を構造化できる。 4) 考えたことを文章や図で表現できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 オリエンテーション | 講義 | 風間 |
| | 2 近年の精神看護研究の動向 | 講義 | 風間 |
| | 3~5 精神看護関連の論文抄読 | 演習 | 風間 |
| | 6~8 こころの健康関連の論文抄読 | 演習 | 風間 |
| | 9~12 英論文抄読 | 演習 | 風間 |
| | 13~16 フィールドワーク | 講義・演習 | 風間 |
| | 17 フィールドワークにおける学びの発表 | 演習 | 風間 |
| | 18~21 精神看護に関連する本の輪読 | 演習 | 風間 |
| | 22~24 精神医療及び看護に関する概念作成 | 演習 | 風間 |
| | 25~27 研究方法に関する分類および考え方 | 演習 | 風間 |
| | 28~29 研究計画書の書き方 | 講義・演習 | 風間 |
| | 30 研究課題の明確化及び今後の予定 | 講義 | 風間 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修：授業のテーマに関する論文を検索し読んでおく 事後学修：新たな学びや考えたことを記述する | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法：授業に取り組む姿勢・態度（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%） 評価基準：積極的な質疑応答ができるか。わかりやすく知見にとんだプレゼンテーションができるか。資料や文献を用いて自分の考察が述べられているか。 | | |
| テキスト | 参考資料を配布する | | |
| 参考図書 | 適宜提示する | | |
| 学生へのメッセージ等 | 自己の興味・関心を見つけると共に研究テーマを絞り込んでください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 風間 眞理 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 研究テーマを具現化するための看護研究実践力を修得する。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1) 精神看護を取り巻く状況を分析して、精神看護が取り組むべき課題を抽出することができる。 2) 精神看護領域の研究論文をクリティークし、抽出した課題の研究状況を明らかにすることができる。 3) 研究課題に最も適切な研究方法を選択し、整合性のある研究計画書が作成できる。 4) 課題に適切なフィールドを開発することができる。 5) 的確なデータを収集することができる。 6) 信頼性、妥当性のある分析ができる。 7) 分析結果を踏まえ、文献検討により考察を深めることができる。 8) 一連の研究過程の成果をまとめ、論理的に記述し、学位（修士）論文が作成できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~30 1. 研究テーマの探求 先行研究の探索、論文読解、レビュー、クリティーク 2. 研究テーマに基づいた研究計画書作成 研究方法に関する検討及び決定 3. 研究実施に必要な資料作成 | 演習 | 風間 |
| | 31~60 1. 研究実施のための準備 フィールドの決定および依頼、倫理審査の承認 2. 研究実施 データ収集、分析、考察 3. 修士論文作成および完成 4. 修士論文発表 | 演習 | 風間 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修：自ら必要であると考えたことを行う 事後学修：新たな学びを研究に活かす | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法：研究の進め方（50%）、中間報告（20%）、研究成果（学位（修士）論文）の内容（30%） 評価基準：計画的に研究を進めることができているか。わかりやすいプレゼンテーションが行えているか。研究として体をなし、意義のある研究となっているか。 | | |
| テキスト | 資料配付 | | |
| 参考図書 | 授業中に適宜提示する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 看護研究の考え方及び進め方を実際を通して学んでください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 小竹 久実子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 在宅看護における対象の理解を深め、在宅の視点を探究する。 | | |
|------------------|---|-------|-------|
| 目標 | 1) 在宅療養生活に関連する社会保障制度が理解できる。 2) 対象をライフステージで捉え理解できる。 3) 対象をライフストーリーで捉え理解できる。 4) 在宅療養をとりまく人々の支援とつながりが理解できる。 5) 対象者に合わせた在宅療養移行支援が理解できる。 6) 在宅における倫理的配慮について理解できる。 7) 対象者に合わせた意思決定支援について理解できる。 8) 在宅の視点について具体的に説明できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 オリエンテーション | 講義・演習 | 小竹 |
| | 2 対象者に応じた社会保障制度の現状と課題 | 講義・演習 | 小竹 |
| | 3 小児期、成人終末等ライフステージに応じた在宅看護の現状と課題 | 講義・演習 | 小竹 |
| | 4 在宅療養をとりまく人々の支援のつながりの現状と課題 | 講義・演習 | 小竹 |
| | 5 在宅における倫理的配慮の現状と課題 | 講義・演習 | 小竹 |
| | 6~11 ライフステージの異なる療養者の看護過程展開 ・小児期：重症心身障害等 ・成人期：就労中の療養者等 ・終末期：がんおよび非のターミナル療養者等 (訪問看護ステーション、地域医療連携室でのおよび支援体験) | | 小竹 |
| | 12 意思決定支援、在宅療養移行支援とは | 講義・演習 | 小竹、栗田 |
| | 13 在宅看護における対象理解とは | 講義・演習 | 小竹 |
| | 14 在宅看護の視点とは | 講義・演習 | 小竹 |
| | 15 まとめ | 講義・演習 | 小竹 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業毎に以下をパワーポイントでまとめてきて授業で発表できるように準備すること、また授業後、修正点を修正しまとめなおすこと 1) 在宅療養生活に関連する社会保障制度について調べて現状と課題、地域包括ケアとは？ 2) 在宅看護とは？在宅看護の対象、在宅看護のそれぞれの部門の役割について、在宅療養を可能にする条件 3) 入退院支援、退院調整について、今まで経験した事例の紹介 4) 今まで経験した事例から看護の対象がどのようなライフステージにあり、振り返ってどうすべきであったか考察する 5) 今まで経験した事例からその患者の人生ストーリーをとらえ、どの時期にケアが必要であったか考察する 6) 倫理的配慮について調べて、在宅看護へ適用をするために実際の事例からとらえまとめること 7) 今まで経験した事例から意思決定支援について考察すること 8) 在宅の視点とは何か、奈良の在宅看護の歴史 9) 訪問看護ステーションを立ち上げる方法を具体的にまとめること | | |
| 評価方法・評価基準 | プレゼンテーション力30%、発表資料10%、ディスカッション力20%、体験学習20%、レポート20% | | |

| | |
|------------|--|
| テキスト | 特に指定しない |
| 参考図書 | 前田樹海他訳：APA論文作成マニュアル第2版, 医学書院, 2014. Lorraine Olszewski Walker & Kay Coalson Avant: Strategies Theory Construction in Nursing, Fourth Edition, Pearson Education, 2005. 中木高夫, 川崎修一訳：看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008. 園城寺康子, 田代順子他訳：看護論文を英語で書く, 医学書院, 2011. |
| 学生へのメッセージ等 | 在宅看護における対象の理解を深めていき、在宅の視点とは何かを探究しましょう。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 小竹 久実子 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 在宅療養者とその家族の意思決定を支援する意義や在宅看護力を高めるための方策を探究する。 在宅看護学における研究課題を見出し、研究を行うための知識を養う。 | | |
|------------------|---|-------|-----|
| 目標 | 1) 文献検索方法を習得できる。 2) リサーチクエスチョンを明確化できる。 3) 自身の研究テーマの文献の構造化抄録を作成できる。 4) 文献レビューの論文を作成できる。 5) 概念分析方法の知識を習得できる。 6) 在宅看護におけるキーワードを選定し、その概念を、概念分析を用いて明確化できる。 7) 在宅看護における意思決定支援の意義や在宅看護力とは何かを文献から考察できる。 8) APAに基づいた論文作成方法を習得できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 文献検索方法（医中誌、PubMed, CINAHL, MeSH検索方法） | 講義・演習 | 小竹 |
| | 3~9 クリティーク（構造化抄録の作成・発表） | 講義・演習 | 小竹 |
| | 10~15 文献レビューの作成 | 演習 | 小竹 |
| | 16~21 在宅看護におけるキーワードの概念分析 | 講義・演習 | 小竹 |
| | 22~27 APAに基づく論文作成方法 | 演習 | 小竹 |
| | 28~29 在宅看護における意思決定支援・在宅看護力に関する検討 | 演習 | 小竹 |
| | 30 概念分析の論文発表会 | 演習 | 小竹 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 1) 文献検索を行うためのシステムティックレビューについて学習したことをまとめること 2) システムティックレビューの論文作成のための、キーワードを決めて文献検索を行う（検索方法は最初の授業でレクチャーあり） 3) 文献結果のフロー図を作成すること 4) 論文を精読するために構造化抄録を作成し、パワーポイントでまとめ授業時に発表できる準備をすること 5) 概念分析について調べてまとめてくること（文献を参考にして） 6) システムティックレビューから本研究につなげてテーマを定めること 7) 本研究計画を作成すること | | |
| 評価方法・評価基準 | プレゼンテーション力30%、発表資料10%、ディスカッション力20%、論文作成40% | | |
| テキスト | 特に指定しない | | |
| 参考図書 | 前田樹海他訳：APA論文作成マニュアル第2版, 医学書院, 2014. Lorraine Olszewski Walker & Kay Coalson Avant: Strategies Theory Construction in Nursing, Fourth Edition, Pearson Education, 2005. Beth L. Rodgers and Katherine A. Knaf: Concept Development in Nursing -Foundations, Techniques, and Applications- Second Edition, Saunders, 2000. 中木高夫, 川崎修一訳：看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008. 園城寺康子, 田代順子他訳：看護論文を英語で書く, 医学書院, 2011. | | |
| 学生へのメッセージ等 | 在宅看護における探究を積極的に主体的に一生懸命に楽しみながら学びましょう。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 小竹 久実子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 在宅看護学を創造していく研究能力を養う。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1)在宅看護における研究課題を明確化し、計画立案できる。 2)倫理的配慮をふまえて研究を遂行できる。 3)収集したデータを解析できる。 4)解析した結果から考察できる。 5)研究の限界と課題を明確化できる。 6)今回の研究をもとに、段階を踏んで在宅看護学に関する研究を継続して探究するきっかけづくりができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~10 研究課題から研究計画立案(概念枠組み・仮説) | 演習 | 小竹 |
| | 11~25 計画立案(研究方法:内容・分析方法・サンプルサイズ設計) | 演習 | 小竹 |
| | 26~30 計画立案(倫理的配慮) | 演習 | 小竹 |
| | 31~40 データ収集 | 演習 | 小竹 |
| | 41~50 分析・結果まとめ | 演習 | 小竹 |
| | 51~58 考察・結論 | 演習 | 小竹 |
| | 59~60 論文発表会 | 演習 | 小竹 |
| 授業外学修(事前学修・事後学修) | 構造化抄録を作成しながら文献をまとめ、論文を読んだ見解を記載してまとめること。 作成した構造化抄録は授業後に修正をかけること。 文献を読むごとに本研究にどのように反映できそうかまとめること。 リサーチクエスチョンを明確にすること。 緒言を先行研究を踏まえて論理的に作成すること。 予備研究からテーマを導き出すこと。 研究計画を熟考し、妥当性のある分析方法で研究を実施できるように準備すること。 研究を進めるスケジュールを作成し、そのプランにのっとって進めていく準備をすること。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、進捗状況、プレゼンテーション、研究成果から総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 特に指定しない | | |
| 参考図書 | 前田樹海他訳：APA論文作成マニュアル第2版, 医学書院, 2014. Lorraine Olszewski Walker & Kay Coalson Avant: Strategies Theory Construction in Nursing, Fourth Edition, Pearson Education, 2005. 中木高夫, 川崎修一訳：看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008. 園城寺康子, 田代順子他訳：看護論文を英語で書く, 医学書院, 2011. | | |
| 学生へのメッセージ等 | 研究に近道はありません。じっくりと確実に進めていくことが大切です。研究能力を養うには、地道な努力と苦労が必要です。研究者としての倫理を習得し、看護の質の向上のために貢献できる研究を積み重ねていく基礎を創っていきましょう。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 城島 哲子／坂東 春美 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 公衆衛生看護を实践、展開していくための基礎理論・概念を学ぶとともに、公衆衛生看護領域の研究手法について理解を深める。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1)公衆衛生看護学の基礎となる理論・モデルを理解する。 2)公衆衛生看護学で用いる研究方法を理解する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 公衆衛生看護学の基本理論 ①ヘルスプロモーションとMIDORIモデル | 講義 | 城島 |
| | 3~4 公衆衛生看護学の基本理論 ②コミュニティアズパートナーモデルとシステムモデル | 講義 | 城島 |
| | 5~6 公衆衛生看護の研究方法を理解する ①乳幼児健診データを用いた量的研究 | 講義 | 城島 |
| | 7~8 公衆衛生看護の研究方法を理解する ②ハイリスク児の地域ネットワークを目指した質的研究 | 講義 | 城島 |
| | 9~10 公衆衛生看護の研究方法を理解する ③母子を対象としたタバコ研究 | 講義 | 坂東 |
| | 11~12 公衆衛生看護の研究方法を理解する ④健康教育を用いた研究 | 講義 | 坂東 |
| | 13~14 公衆衛生看護の研究方法を理解する ⑤疫学的手法を用いた研究 | 講義 | 小松 |
| | 15 公衆衛生看護の研究方法を理解する ⑥環境と健康をテーマとした実験研究 | 講義 | 城島 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 出席・参加50%、レポート50%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 必要に応じて資料を配布する | | |
| 参考図書 | 授業のなかで紹介する | | |
| 学生へのメッセージ等 | 公衆衛生看護の实践に役立て、向上させるための基本的な知識を習得し、自己の研究課題と研究方法を見出し、見つけてください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 城島 哲子/坂東 春美 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 公衆衛生看護領域における研究課題の特性と、研究課題に適した研究方法を明らかにする。さらに研究遂行に必要な技術を体験・習得し、自己の研究課題を焦点化することができる。 | | |
|------------------|---|------|----------|
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検討により研究課題の焦点化ができる 2. 研究課題に適した研究方法が選択できる 3. データ収集の方法の理解と、データ収集のスキルが習得できる 4. 研究方法に適した分析方法の理解と、データ分析のスキルが習得できる 5. 計画策定のプロセスが理解できる | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 演習の進め方 | 講義 | 城島/坂東/小松 |
| | 2~10 公衆衛生看護領域に関する研究課題を明らかにできる。 文献検索とクリティーク 文献のレビュー | 講義 | 城島/坂東/小松 |
| | 11~15 研究課題の焦点化と研究方法の選択が理解できる 質的探索的研究 量的帰納的研究 | 演習 | 城島/坂東/小松 |
| | 16~19 調査方法の検討 対象選定 調査方法 分析方法 | 演習 | 城島/坂東/小松 |
| | 20~25 研究遂行のための技術の習得 量的研究法：エクセル統計・SPSS等 質的研究：インタビュー法・観察法と分析の枠組みの検討 統計処理：スーパーバイズの求め方 | 演習 | 城島/坂東/小松 |
| | 26~28 研究計画書の検討 倫理的配慮 倫理審査の手順 | 演習 | 城島/坂東/小松 |
| | 29~30 まとめ | 演習 | 城島/坂東/小松 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 出席・参加20~30%、プレゼンテーション50%（妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法）、レポート20~30%（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 授業のなかで紹介する | | |
| 参考図書 | 進捗のなかで適宜提示する | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | |
|------------------|--|---------|--------------|--|
| 通年 | 2年 | 8 | 選択 | |
| 担当教員 | | | | |
| 城島 哲子／坂東 春美 | | | | |
| 添付ファイル | | | | |
| | | | | |
| 目的 | 公衆衛生看護領域の研究課題を見出し研究計画が立案できる。課題を解明するための適切な研究方法を用いて研究を遂行し報告書（学位論文）を作成する。また、その一連の過程を通して研究者としての能力を養う。 | | | |
| 目標 | 1) 公衆衛生看護領域における研究課題を抽出することができる 2) 研究課題に関連した先行研究論文を収集しクリティークすることができる 3) 研究課題を明らかにするための研究方法を決定し、研究を遂行するために必要な技術・技法を習得できる 4) データ収集のためのフィールドを開発することができる 5) 分析に耐えうるデータ収集ができる 6) 信頼性、妥当性のある分析ができる 7) 分析結果を踏まえ、文献検討により考察を深めることができる 8) 研究課程をまとめ、研究報告書を完成させることができる | | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 | |
| | 1~60 1. 研究テーマの決定 2. 文献検討 3. 研究計画書の作成 4. 研究計画書の審査を受ける 5. 研究の実施 データ収集 データ分析 文献検討 考察 6. 研究報告書の作成・提出 | 演習・個別指導 | 城島哲子 坂東春美 | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取組姿勢、研究計画書の作成、中間報告、修士論文作成までの進捗状況、論文提出とその完成度にて評価する。 | | | |
| テキスト | 適宜、資料を提示する | | | |
| 参考図書 | | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／井上 聡己／中川 一郎／甲谷 太一／恵川 淳二／内藤 祐介／位田 みつる／園部 奨太／田中 優 ／中川 雅史 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 急性、重症患者の代謝病態生理とアセスメント、管理について学修する。 | | |
|------|---|------|------|
| 目標 | 1) 急性・重症患者の疾患における集中治療の概論を理解する。 2) 危機的状況にある脳疾患の病態、主な治療・管理、検査について理解する。 3) 呼吸不全の病態、主な治療・管理、検査について理解する。 4) 循環不全の病態、主な治療・管理、検査について理解する。 5) 循環、水分・電解質を中心とする代謝異常の病態、主な治療・管理、検査について理解する。 6) 腎不全、肝不全、多臓器不全の病態、主な治療・管理、検査について理解する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 呼吸、循環、水分・電解質に関する代謝病態生理、身体侵襲に対する生体反応、およびそれらのアセスメント、治療管理について学修する。 講義ならびに文献学習と個別指導をとおして、急性看護学領域の実践や研究に必要な医学及び看護学の専門知識を統合する力を駆使して学修を進める。 | | |
| | 1 急性、重症患者の集中治療管理概論 | 講義 | 井上 |
| | 2 急性期、重症脳障害患者の病態 | 講義 | 中川一郎 |
| | 3 脳疾患患者の全身管理 脳循環代謝、頭蓋内圧の調節法 | 講義 | 川口 |
| | 4 鎮静・鎮痛管理とせん妄対策 | 講義 | 甲谷 |
| | 5 呼吸管理 呼吸器疾患の病態、低酸素血症、高炭素ガス血症の機序、人工呼吸での安全管理 | 講義 | 恵川 |
| | 6 呼吸不全の病態と治療 | 講義 | 恵川 |
| | 7 循環 心機能、循環血液量、自律神経系の影響などを学ぶ | 講義 | 内藤 |
| | 8 輸血と止血凝固 | 講義 | 位田 |
| | 9 急性・重症患者における栄養管理 | 講義 | 園部 |
| | 10 多臓器不全の病態と治療 | 講義 | 井上 |
| | 11 腎不全・肝不全の病態と治療 | 講義 | 園部 |
| | 12 心臓および小児の外科での管理 | 講義 | 井上 |
| | 13 アウトカムの評価法 | 講義 | 田中 |

| | | | |
|------------------|---------------------------------|-------------------------|------------|
| | | | |
| | 14 | ショックと救急処置法 | 講義 中川雅史 |
| | 15 | 多職種による周術期管理とその役割 まとめ | 講義 川口 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加度（30%）、課題レポート（70%）の割合で評価する。 | | |
| テキスト | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 1年前期の「病態生理学」と関連させて本授業の知識を深める。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 危機理論および関連する概念から、危機状態にある人間の反応の変化と過程について理解する。クリティカル状況にある患者と家族に用いられる危機理論および関連する概念・理論、ならびにそれらを活用した看護援助について探求する。 | | |
|------|---|-------|-------|
| 目標 | 1) クリティカル状況にある患者と家族の衝撃的な体験に際しての人間の反応や危機から回復・立ち向かう過程を理解するための危機理論および関連する概念・理論を理解する。 2) 危機理論および関連する概念・理論を活用した看護判断・評価方法および看護援助を文献と合わせて理解する。 3) クリティカル状況にある患者・家族への看護介入モデルの作成および実践・研究への適用について考察する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | <p>・危機理論を中心に関連する概念・理論の変遷、特徴・構造などについて、文献学習をもとに資料を作成し、発表・討議する。さらに、急性看護領域の実践・研究・教育の動向や今後の課題について追及する。次に、理論を活用した看護実践あるいは研究論文を取り上げ、患者の状況・苦痛の理解、看護判断・評価および援助について資料を作成し、発表・討議する。</p> <p>・共通科目の看護研究の学びをもとに文献選択、資料作成をおこなう。また、発表、質疑など、すべてのプロセスで学習が効果的に進むように教員からの指導を受ける。</p> <p>・文献は英文（少なくとも5年以内に報告されたもの：必要性の高い場合はこの限りではない、用いられている研究方法に注意する）を中心に選択する。</p> | | |
| | 1 危機理論の概観と歴史的変遷 | 講義 | 石澤美保子 |
| | 2 危機理論の実際・研究の変遷と動向 | 講義 | 石澤美保子 |
| | 3 危機理論と危機モデル(1) 危機モデルの概観、特徴・構造 | 講義 | 石澤美保子 |
| | 4 危機理論と危機モデル(2) 危機モデルの概観、特徴・構造 | 講義 | 石澤美保子 |
| | 5 危機理論と事例分析(1) 危機理論を用いた看護実践事例をとりあげ事例分析 | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 6 危機理論と事例分析(2) 危機理論を用いた看護実践事例の分析と看護介入評価 | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 7 危機理論と事例分析(3) 危機理論を用いた看護実践事例の分析と看護介入評価 | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 8 Stress・coping(1) ストレス理論の概観と歴史的変遷 | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 9 Stress・coping(2) ストレス・コーピング理論を用いた看護実践事例をとりあげ分析する。 | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 10 Social support Social Supportの歴史的概観、特徴・構造 Social Supportの理論を活用した実践あるいは看護研究を分析をする。 | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 11 Body image | 講義・演習 | 石澤美保子 |

| | | | |
|------------------|---|-------|-------|
| | Body Imageの歴史的概観、特徴・構造 Body Imageの理論を活用した実践あるいは看護研究を分析をする。 | | |
| | 12 危機的な状況にある患者・家族の看護介入モデル(1) | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 13 危機的な状況にある患者・家族の看護介入モデル(2) | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 14 危機的な状況にある患者・家族の看護介入モデルを用いた看護実践事例の分析(1) | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 15 危機的な状況にある患者・家族の看護介入モデルを用いた看護実践事例の分析(2) | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(20%)の割合で評価する。 | | |
| テキスト | クラスの中で適宜紹介する。 | | |
| 参考図書 | クラスの中で適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 本科目はクリティカルケア領域において基本となる理論であるので、自身のこれまでの実践経験をふまえて学びを深めてほしい。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | クリティカル状況にある患者の回復に向けたケアとキュアが融合した看護介入の方法を学修するとともに、患者および家族の苦悩を理解し、援助的な関わりを発展させるための理論をもとにした介入方法を学修する。 | | |
|------|---|-------|-------|
| 目標 | 1) クリティカル状況にある患者の回復に向けたケアとキュアが融合した看護介入のための方法を理解する 2) クリティカル状況にある患者および家族に対して援助的な関わりを発展させるための理論を理解し介入方法を学ぶ。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | ・文献学習および臨床における看護実践の経験、個別指導をと おして、急性看護学領域の研究や実践に必要な概念や理論、専 門的知識・技術を統合する力を駆使して学修を進める。・看護 介入の事例の作成と分析：学生のこれまでの経験事例、もしく はこれまでの経験事例、文献から作成した事例などを提示し分 析する。分析結果を発表し討議する。教員は学生の主体的な学 習を支援するために、助言・資料提供などを行う。 | | |
| | 1 クリティカルケアにおける援助関係論 | 講義・演習 | 石澤美保子 |
| | 2 クリティカル状況にある患者の家族とのパートナーシップ形 成、苦痛の緩和 | 講義・演習 | 村上空織 |
| | 3 家族アセスメントおよび家族看護介入モデル | 講義・演習 | 村上空織 |
| | 4 クリティカルケアにおける援助関係論 (1) 家族への看護介入困難事例について、モデル・理論を活用して 事例の分析・検討 | 講義・演習 | 村上空織 |
| | 5 クリティカルケアにおける援助関係論 (2) 家族への看護介入困難事例について、モデル・理論を活用して 事例の分析・検討 | 講義・演習 | 村上空織 |
| | 6 チーム医療 キュアとケアを融合した看護援助、家族への看護援助のための チーム医療 | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| | 7 クリティカルケアにおける専門看護師の役割 (1) クリティカルケアにおける教育的活動 | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| | 8 クリティカルケアにおける専門看護師の役割 (2) クリティカルケアにおけるコーディネーション、コンサルテー ション | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| | 9 急性呼吸器障害のある患者とその家族を対象としたケアとキュ アを融合した看護介入(1) | 講義・演習 | 村上空織 |
| | 10 急性呼吸器障害のある患者とその家族を対象としたケアとキュ アを融合した看護介入(2) | 講義・演習 | 村上空織 |
| | 11 急性中枢障害のある患者とその家族を対象としたケアとキュ アを融合した看護介入(1) | 講義・演習 | 長嶋智美 |
| | 12 | 講義・演習 | 長嶋智美 |

| | | | |
|------------------|---|-------|------|
| | 急性中枢障害のある患者とその家族を対象としたケアとキヤアを融合した看護介入(2) | | |
| | 13 多臓器不全患者とその家族を対象としたケアとキヤアを融合した看護介入 | 講義・演習 | 長嶋智美 |
| | 14 急性循環障害のある患者とその家族を対象としたケアとキヤアを融合した看護介入(1) | 講義・演習 | 森脇裕美 |
| | 15 急性循環障害のある患者とその家族を対象としたケアとキヤアを融合した看護介入(2) | 講義・演習 | 森脇裕美 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(20%)の割合で評価する。 | | |
| テキスト | 適宜紹介する。 | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 学生のこれまでの事例をとおり経験と理論を組み合わせることで単元ごとに深めていってください。 | | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子／川口 昌彦 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 急性・重症患者に必要なとされる治療・処置を理解し、患者中心の医学・看護学の視点から治療・療養過程全般における管理に必要な知識、援助方法を学修する。 | | |
|------------|---|-------|-------|
| 目標 | 1) 急性・重症患者に必要な治療・処置を理解し、治療・療養過程全般を管理するための知識、方法を理解する。 2) 急性・重症患者に必要な治療・処置を理解し、治療とケアを統合させた実践をおこなうための知識、援助方法を理解する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 急性看護学領域における医学の知識と実践、看護学の専門知識を單元ごとに整理しながら文献的知識、個別指導を通じて学修する。 | | |
| | 1 気管切開と胸腔ドレナージ | 講義 | 井上聡己 |
| | 2 アナフィラキシーの病態と治療 | 講義 | 井上聡己 |
| | 3 大量出血時の対応 | 講義 | 井上聡己 |
| | 4 術後モニタリングと安全管理 | 講義 | 恵川淳二 |
| | 5 急性・重症患者の補助循環について | 講義 | 井上聡己 |
| | 6 術後疼痛と患者調節鎮痛法 | 講義 | 川口昌彦 |
| | 7 急性・重症患者における口腔内管理とケア | 講義 | 青木久美子 |
| | 8 クリティカルな治療環境にある患者・家族のアセスメント(1) | 講義・演習 | 阿部美佐子 |
| | 9 クリティカルな治療環境にある患者・家族のアセスメント(2) | 講義・演習 | 阿部美佐子 |
| | 10 拘束・不動状況にある患者とその家族のアセスメント | 講義・演習 | 阿部美佐子 |
| | 11 クリティカル状況にある患者・家族の看護支援(1) | 講義・演習 | 阿部美佐子 |
| | 12 感染管理(1) 重症・集中治療を要する状態にある患者の感染管理 | 講義 | 土田敏恵 |
| | 13 感染管理(2) 重症・集中治療を要する状態にある患者の感染管理 | 講義 | 土田敏恵 |
| | 14 創傷管理(1) 創傷の種類とその治癒過程 | 講義 | 石澤美保子 |
| 15 創傷管理(2) | 講義 | 石澤美保子 | |

| | MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）の発生機序とその管理 | | |
|------------------|---|--|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(20%)の割合で評価する。 | | |
| テキスト | クラスの中で適宜紹介する。 | | |
| 参考図書 | クラスの中で適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 1年前期の「病態生理学」、「急性病態治療学」と関連させて本科目の知識を深める。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 急性・重症患者が直面している個人の意思の選択と自由の問題を扱い、倫理的問題を解決するための理論的基礎と分析力を養う。さらに、クリティカルケアにおける倫理的問題を解決するための高度実践看護師の役割を考究する。 | | |
|---------------------|--|-------|-------|
| 目標 | (1) クリティカルケアを受ける患者の個人の選択と自由の問題についてアセスメントできる知識・技術・態度を学修する。 (2) クリティカルケアにおける倫理的問題を解決するための高度実践看護師の役割を考察する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | ・文献学習および臨床における看護実践、カンファレンス、個別指導をとおして、重症・集中治療を受ける患者の権利、意思決定などの問題を取りあげ、倫理的問題を解決するための理論的基礎を学修する。生命の危機状態にあり、拘束状態にある患者・家族に生じやすい問題を取り上げ、倫理的問題分析モデルを活用して分析する。 ・分析結果をもとに倫理的調整および問題解決のための看護介入について検討する。 | | |
| | 1 生命倫理の理論的基礎 | 講義 | 石澤美保子 |
| | 2 家族看護と倫理問題(1) | 講義・演習 | 升田茂章 |
| | 3 家族看護と倫理問題(2) | 講義・演習 | 升田茂章 |
| | 4 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(1) | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| | 5 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(2) | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| | 6 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(3) | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| | 7 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(4) | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| | 8 急性期医療における緩和ケアと家族への介入(1) | 講義 | 四宮敏章 |
| | 9 急性期医療における緩和ケアと家族への介入(2) | 講義 | 四宮敏章 |
| | 10 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(1) | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| | 11 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(2) | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| | 12 クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と看護支援(3) | 講義・演習 | 辻本雄大 |
| 13 ME機器に関連する配慮と安全対策 | 講義 | 川西秀明 | |

| | | | |
|------------------|---|-------|---------------|
| | 14 | 講義・演習 | 亀井有子 |
| | 15 | 講義・演習 | 亀井有子 |
| | 16~30 フィールド演習 本科目で学修した援助方法を活かして、患者とその家族への倫理的課題を抽出し、解決に向けた看護介入を計画・実践し、評価する。 実践期間は5日間とする。実践場所：奈良県立医科大学附属病院 実践における指導は担当教員と急性・重症患者看護専門看護師とが緊密な連携をとり、協力して教育を行う。実践した内容をケースレポート・実践報告にまとめる。フィールドでの指導担当者：急性・重症患者看護専門看護師、集中治療医あるいは麻酔科医（詳細は演習要項を参照） | 演習 | 石澤美保子 辻本雄大 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(20%)の割合で評価する。 | | |
| テキスト | 特に指定しない。 | | |
| 参考図書 | クラスの中で適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | この演習では、これまでの実践と講義の内容をつなげながら、基盤となる急性期看護学の理論を学んでいってください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子／佐竹 陽子／長田 艶子／升田 茂章 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | クリティカル状況にある患者とその家族が有する全人的苦痛を緩和・軽減するための知識・技術を学修する。 | | |
|------|---|------|-------|
| 目標 | 1) 患者が有する心身の苦痛、社会的苦痛を緩和・軽減するためのケア理論、原理、方法、効果判定について理解する。 2) クリティカル状況にあり苦痛を抱える患者とその家族への苦痛緩和のための援助技術を修得する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | ・文献学習および臨床における看護実践、カンファレンス、個別指導をとおして、急性看護学領域の研究や実践に必要な概念や理論、専門的知識・技術を統合する力を駆使して学修を進める。 ・文献学習・プレゼンテーション、討議をとおして学ぶ。 ・関連文献の検索とクリティーク：学生が主体的に行い、教員の助言・指導を受ける。 ・看護介入の事例の作成と分析：学生のこれまでの経験事例、もしくは演習の体験事例、文献から作成した事例などを提示し分析する。分析結果を発表し討議する。 | | |
| | 1 トータルペインとは | 演習 | 石澤美保子 |
| | 2 トータルペインと看護援助 経験事例の分析を通して看護援助法を探究 | 演習 | 佐竹陽子 |
| | 3 トータルペインを考慮した患者とその家族への援助 | 演習 | 佐竹陽子 |
| | 4 鎮痛と鎮静(1) クリティカルケアにおける鎮痛・鎮静の意義 クリティカルケアにおける鎮痛・鎮静の薬理作用 | 演習 | 石澤美保子 |
| | 5 鎮痛と鎮静(2) クリティカルケアにおける鎮静の評価法 | 演習 | 石澤美保子 |
| | 6 鎮痛と鎮静(3) クリティカルケアにおけるペインコントロールの方法と効果判定 | 演習 | 石澤美保子 |
| | 7 鎮痛と鎮静(4) 重症呼吸不全患者の鎮静、神経系障害患者の鎮静と鎮痛などの看護実践の経験事例についての事例分析 | 演習 | 石澤美保子 |
| | 8 クリティカル状況にある患者の創部、瘻孔管理 | 講義 | 石澤美保子 |
| | 9 ストーマ管理 クリティカルな状況における周術期ストーマ管理、SSIとストーマ管理 | 講義 | 石澤美保子 |
| | 10 術後疼痛対策 人工呼吸を要する術後患者の疼痛対策と効果判定 | 演習 | 辻本雄大 |
| | 11 症状マネジメント(1) 呼吸器系、循環器系症状のマネジメント | 演習 | 辻本雄大 |
| | 12 症状マネジメント(2) 消化器系症状のマネジメント | 演習 | 長田艶子 |
| | 13 | 演習 | 長田艶子 |

| | | | |
|------------------|--|----|---------------|
| | せん妄と看護援助 クリティカルな状況にある患者のせん妄とそのアセスメント | | |
| 14 | クリティカルケアにおける苦痛緩和に関する研究 クリティカルケアにおける苦痛緩和に関する研究についての文献検討 (現状と今後の動向と課題の明確化) | 演習 | 佐竹陽子 |
| 15 | 終末期ケア クリティカル状況にある患者・家族の終末期ケア (文献および経験事例を通して学ぶ) | 演習 | 升田茂章 |
| 16~30 | フィールド演習 患者の心身の苦痛からの解放とその家族への看護を実践し、評価することで学修を深める。 実践期間は5日間とする。 実践場所：近畿大学医学部附属病院 実践における指導は担当教員と急性・重症患者看護専門看護師とが緊密な連携をとり、協力して教育を行う。 実践した内容をケースレポート・実践報告にまとめる。(詳細は演習要項を参照) | 演習 | 石澤美保子 村上香織 |
| 授業外学修(事前学修・事後学修) | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(10%)、フィールド演習状況(10%)の割合で評価する。 | | |
| テキスト | 適宜紹介する | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する | | |
| 学生へのメッセージ等 | 実践場所での演習と繋げられるように理論を確実に学んでください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 2年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 救命・救急患者・家族の看護ケアに必要な看護判断、評価方法および看護援助を学修するとともにそれぞれの看護ケアの専門性を理解し探求する。 | | |
|------|--|------|---------------|
| 目標 | 1)救命救急看護を受ける患者・家族に必要な看護判断、評価方法および看護援助について理解する。 2)文献・事例検討をとおして救命・救急看護の専門性を考察する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | <p>・文献学習、カンファレンス、個別指導をとおして、急性看護学領域の研究や実践に必要な概念や理論、専門的知識・技術を統合する力を駆使して学修を進める。 ・文献学習・プレゼンテーション、討議をとおして学ぶ。 ・関連文献の検索と詳読：学生が主体的に行い、教員の助言・指導を受ける。 ・看護介入の事例の作成と分析：学生のこれまでの経験事例、もしくは演習の体験事例、文献から作成した事例などを提示し分析する。分析結果を発表し討議する。教員は学生の主体的な学習を支援するために、助言・資料提供などを行う。</p> | | |
| | 1~2 救命・救急における看護の特徴 救命・救急における看護体制と役割、看護の場、法律と倫理 | 演習 | 岡崎理絵 石澤美保子 |
| | 3~4 救命・救急における初期対応 救命・救急治療を受ける患者・家族の特徴と初期対応 | 演習 | 岡崎理絵 |
| | 5~6 外傷患者(1) 救命・救急治療を受ける外傷患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 岡崎理絵 |
| | 7~8 外傷患者(2) 救命・救急治療を受ける外傷患者・家族の看護援助 <事例分析> | 演習 | 岡崎理絵 |
| | 9~10 急性腹症 救命・救急治療を受ける急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 亀井有子 |
| | 11~12 熱傷患者(1) 救命・救急治療を受ける熱傷患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 亀井有子 |
| | 13~14 熱傷患者(2) 救命・救急治療を受ける熱傷患者・家族の看護援助 <事例分析> | 演習 | 亀井有子 |
| | 15~16 中毒患者 救命・救急治療を受ける中毒患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 亀井有子 |
| | 17~18 ショック患者 集中治療を受けるショック患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 長嶋智美 |
| | 19~20 SIRS・CARS患者 集中治療を受けるSIRS・CARS患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 長嶋智美 |
| | 21~22 敗血症 (Sepsis)、多臓器不全症候群 (MODS) 患者 集中治療を受けるSepsis, MODS患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 長嶋智美 |

| | | | |
|------------------|---|----|------|
| | 23~24 中枢神経系救急疾患（脳血管障害、中枢神経系感染症、痙攣）患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 岡崎理絵 |
| | 25~26 熱中症、溺水、高山病、酸欠症、窒息患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 佐竹陽子 |
| | 27~28 その他各科救急(1)（腎泌尿器系疾患、婦人科系救急疾患、産科系救急疾患、小児科系救急疾患）患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 岡崎理絵 |
| | 29~30 その他各科救急(2)（代謝内分泌系救急疾患、精神科救急疾患）患者・家族のアセスメントと看護援助 | 演習 | 岡崎理絵 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 課題レポート(60%)、発表・討議における発表内容(20%)と討議への参加状況(20%)の割合で評価する。 | | |
| テキスト | 適宜紹介する | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する | | |
| 学生へのメッセージ等 | 救命救急看護分野に特徴的な内容をしっかり捉えていってください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子／佐竹 陽子／長田 艶子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------------------|--|
| 目的 | クリティカルケア領域におけるコンサルテーション機能、調整、スタッフや他職種への教育的・指導的役割、研究的姿勢などの高度実践看護師としての役割を果たすために必要な基礎的能力を養う。 |
| 目標 | 1)クリティカル状況にある患者・家族の尊厳を守り、倫理的問題に対処のため基礎的な活動ができる。 2)クリティカルケアの提供者に対するコンサルテーションの基礎的な活動ができる。 3)クリティカルケアにおいて、必要なケアが円滑に提供されるために他の専門職者間の調整方法を学ぶ。 4)実践の評価、システムの改善、倫理的問題への対処のための研究的態度を養う。 |
| 授業計画 | <p>急性・重症患者看護専門看護師が果たす役割（卓越した実践・スタッフや他職種への教育的・指導的役割、相談、連携調整、研究、倫理的問題への対処など）の実際の活動を体験するとともにその役割を担う基礎的な力を養うための基礎的な力を養う。</p> <p>授業内容</p> <p>臨床における看護実践やカンファレンス、文献学習、個別指導をとおして急性看護学領域の実践に必要な概念や理論、専門的知識を統合する力および熟練した看護技術を適切に用いる力を駆使して学修を進める。</p> <p>方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門看護師として必要なリーダーシップと卓越した実践・教育・相談・連携調整・倫理調整・研究について、急性・重症患者専門看護師の指導のもと実際の体験を通して役割を学ぶ。 2. 複雑で困難な実践状況において、看護職者やケア提供者に対し、クリティカルケア看護の専門的な立場での相談、意見の提示を行い、問題の対処にあたる機会をもち、コンサルテーション機能の本質について考える機会を持つ。 3. 複雑な背景や困難な問題を有する対象を受け持ち、継続看護のための他部門・関係職種との連絡・調整を図る機会を持つ。その実践から他部門や関係職種と意見調整を図り協働するための方法を学ぶ。 4. クリティカルケア看護における倫理的問題に積極的に取り組み、問題解決や対処のために情報収集・面接、アセスメント、介入計画を立案し、患者をおりまく関係者間の調整を図るなどの具体的な方法を学ぶ。 <p>実習期間：1年次後期</p> <p>実習施設：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立医科大学附属病院 ・近畿大学医学部附属病院 ・大阪市立大学附属病院 <p>実習体制：実習指導は教員と専門看護師または専門看護師担当のものと協力して教育を行う。</p> <p>実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立医科大学附属病院 辻本雄大 ・近畿大学医学部附属病院 村上香織 ・大阪市立大学附属病院 阿部美佐子 <p>記録：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日ごとに、①実践、②指導・教育、③調整、④相談、⑤倫理的問題への対処のうち、主に実習した内容を記録し、その内容をもとに実習目標の達成度をはかり、目標達成に向けた実習計画を修正・実行する。 ・①実践、②指導・教育、③調整、④相談、⑤倫理的問題への対処に関し、対応した事例をもとにレポートを作成し提出する。 <p>（詳細は実習要項参照）</p> |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 |
| 評価方法・評価基準 | 実習への取り組み・態度(30%)、カンファレンス・事例検討会などの取り組み(20%)、高度実践看護師の役割などの課題レポート(50%)の内容の割合で評価する。 |
| テキスト | 適宜紹介する。 |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 本実習で達成すべき課題をしっかりと捉えて実習に臨んでください。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子／佐竹 陽子／長田 艶子 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|------------------|--|
| 目的 | クリティカルケア領域におけるコンサルテーション機能、調整、スタッフや他職種への教育的・指導的役割、研究的姿勢などの高度実践看護師としての役割を果たすために必要な能力を養う。 |
| 目標 | 1)クリティカル状況にある患者・家族の尊厳を守り、倫理的問題に対処することができる。 2)クリティカルケアの提供者に対するコンサルテーションができる。 3)クリティカルケアにおいて、必要なケアが円滑に提供されるために他の専門職者間の調整を行うことができる。 4)実践の評価、システムの改善、倫理的問題への対処のための研究的態度を養う。 5)重症・集中治療環境の総合的な管理ができ、クリティカルケアの質向上に向けた貢献を考えることができる。 |
| 授業計画 | <p>急性・重症患者看護専門看護師が果たす役割（卓越した実践・スタッフや他職種への教育的・指導的役割、相談、連携調整、研究、倫理的問題への対処など）の実際の活動を体験するとともにその役割を担う能力を養う。</p> <p>授業内容</p> <p>臨床における看護実践やカンファレンス、文献学習、個別指導をととして急性看護学領域の実践に必要な概念や理論、専門的知識を統合する力および熟練した看護技術を適切に用いる力を駆使して学修を進める。</p> <p>方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門看護師として必要なリーダーシップと卓越した実践・教育・相談・連携調整・倫理調整・研究について、急性・重症患者専門看護師の指導のもと実際の体験を通して役割を学ぶ。 2. 複雑で困難な実践状況において、看護職者やケア提供者に対し、クリティカルケア看護の専門的な立場での相談、意見の提示を行い、問題の対処にあたる機会をもち、コンサルテーション機能の本質について考える機会を持つ。 3. 複雑な背景や困難な問題を有する対象を受け持ち、継続看護のための他部門・関係職種との連絡・調整を図る機会を持つ。その実践から他部門や関係職種と意見調整を図り協働するための方法を学修する。 4. クリティカルケア看護における倫理的問題に積極的に取り組み、問題解決や対処のために情報収集・面接、アセスメント、討議を行い、介入計画を立案し、患者をとりまく関係者間の調整を図る。急性看護学援助論Ⅱで学修した理論・モデルを活用してアセスメントを実施する。 <p>実習期間：2年次</p> <p>実習施設：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立医科大学附属病院 ・近畿大学医学部附属病院 ・大阪市立大学附属病院 <p>実習体制：実習指導は教員と専門看護師または専門看護師担当のものと協力して教育を行う。</p> <p>実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・奈良県立医科大学附属病院 辻本雄大 ・近畿大学医学部附属病院 村上香織 ・大阪市立大学附属病院 阿部美佐子 <p>記録：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日ごとに、①実践、②指導・教育、③調整、④倫理的問題への対処のうち、主に実習した内容を記録し、その内容をもとに実習目標の達成度をはかり、目標達成に向けた実習計画を修正・実行する。 ・①実践、②指導・教育、③調整、④相談、⑤倫理的問題への対処に関し、対応した事例をもとにレポートを作成し提出する。（詳細は実習要項参照） |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 |
| 評価方法・評価基準 | 実習への取り組み・態度(30%)、カンファレンス・事例検討会などの取り組み(20%)、高度実践看護師の役割などの課題レポート(50%)の内容の割合で評価する。 |
| テキスト | 適宜紹介する |
| 参考図書 | 適宜紹介する |
| 学生へのメッセージ等 | 本実習で達成すべき課題をしっかりと捉えて実習に臨んでください。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子／佐竹 陽子／長田 艶子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------------------|--|
| 目的 | 救命・救急看護を提供する場で、クリティカル状況にある患者とその家族に対し、高度実践看護師として高度な知識と的確な看護判断・熟練した看護技術を用いた卓越した看護実践、倫理的な態度に基づいた看護実践ができる能力を養う。 |
| 目標 | 1)クリティカル状況にある患者・家族に対し、高度な知識に基づいて看護判断ができる。 2)クリティカル状況にある患者・家族に対し、看護判断に基づいて計画的な実践と評価ができる。 3)クリティカル状況にある患者・家族の全人的な苦痛を緩和するために熟練した看護技術を用いた卓越した看護実践ができる。 4)クリティカル状況にある患者・家族に対し、倫理的感受性を高め、倫理的態度をとることができる。 5)選択した看護の専門性を考察する。 |
| 授業計画 | <p>クリティカル状況にある患者とその家族に対し、専門看護師として高度な知識と的確な看護判断・熟練した看護技術を用いた卓越した看護実践と倫理的な態度に基づいた看護実践ができる能力を養う。</p> <p>授業内容</p> <p>臨床における看護実践やカンファレンス、事例検討会、討論セミナー、文献学習、個別指導をとって急性看護学領域の実践に必要な概念や理論、専門的知識を統合する力および熟練した看護技術を適切に用いる力を駆使して学修を進める。</p> <p>方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑で困難な問題を有する対象を受け持ち、急性・重症患者看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、アセスメントを行い、ケアプランの計画立案、質の高い看護実践・評価を行い、看護実践能力を高める。 2. 全身管理を受ける患者・家族中心の治療がすすめられるよう、治療環境を総合的に管理するための実践を行う。 3. 対象の状況に応じて、教育、相談、他部門・関係職種との連携・調整、ケアチームによる協働などの実践を行う。 <p>実習期間：2年次</p> <p>実習施設：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立医科大学附属病院 ・近畿大学医学部附属病院 ・大阪市立大学附属病院 <p>実習体制：実習指導は教員と専門看護師または専門看護師担当のものと協力して教育を行う。</p> <p>実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・奈良県立医科大学附属病院 辻本雄大 ・近畿大学医学部附属病院 村上香織 ・大阪市立大学附属病院 阿部美佐子 <p>記録：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践した内容を実習記録に記入する。 ・情報、アセスメント、計画、実践、評価などを含んだケースレポートをまとめる。 ・救命・救急看護、重症・集中治療看護、周術期看護の専門性についてレポートにまとめる。 <p>（詳細は実習要項参照）</p> |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 |
| 評価方法・評価基準 | 実習への取り組み・態度(30%)、カンファレンス・事例検討会などの取り組み(20%)、課題レポート・ケースレポート(50%)の内容の割合で評価する。 |
| テキスト | 適宜紹介する。 |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 本実習で達成すべき課題をしっかりと捉えて実習に臨んでください。 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子／佐竹 陽子／長田 艶子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------------------|---|
| 目的 | 全身管理が必要な患者とその家族に対し、高度実践看護師として高度な知識と的確な看護判断・熟練した看護技術を用いた卓越した実践、倫理的な態度に基づいた看護実践ができる能力を養う。 |
| 目標 | 1) 全身管理が必要な患者・家族に対し、的確な知識と方法で、患者のアセスメントができる。 2) クリティカル状況にある患者・家族の全人的な苦痛を緩和するために熟練した看護技術を用いた卓越した看護実践ができる。 3) クリティカル状況にある患者・家族の尊厳を守り、倫理的問題に対処することができる。 4) クリティカルケアにおいて、必要なケアが円滑に提供されるために他の専門職者間の調整を行うことができる。 5) 実践の評価、システムの改善、倫理的問題への対処のための研究的態度を養う。 6) 重症・集中治療環境の総合的な管理ができ、クリティカルケアの質向上に向けた貢献ができる。 |
| 授業計画 | <p>全身管理が必要な患者とその家族に対し、専門看護師として高度な知識と的確な看護判断・熟練した看護技術を用いた卓越した実践、倫理的な態度に基づいた看護実践ができる能力を養う。</p> <p>授業内容</p> <p>臨床における看護実践やカンファレンス、事例検討会、討論セミナー、文献学習、個別指導をとおして急性看護学領域の実践に必要な概念や理論、専門的知識を統合する力および熟練した看護技術を適切に用いる力を駆使して学修を進める。</p> <p>方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 複雑で困難な問題を有する対象を受け持ち、急性・重症患者看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、アセスメントを行い、ケアプランの計画立案、質の高い看護実践・評価を行い、看護実践能力を高める。その際は、専門看護師として、ケアの質の向上を図るために、提供システムやチーム医療の視点で看護スタッフの役割モデルになることをめざす。また、実習の中で、異なるクリティカル状況の対象に対する実践例を分析・評価することで、専門性が意味する本質を考察する。 全身管理を受ける患者・家族中心の治療がすすめられるよう、治療環境を総合的に管理するための実践を行う。 対象の状況に応じて、教育、相談、他部門・関係職種との連携・調整、ケアチームによる協働などの実践を行う。ケースカンファレンスをチームメンバーとともに開催し、ケースの看護ケアについて討議する。 クリティカルケア看護領域のスタッフに継続ケアを視野に入れた教育を企画、実施、評価する。企画案を作成し、必要な教材・資料を作成する。 目標を達成するために、実習はクリティカル期として救命・救急センター、ICU・CCU病棟、ポストクリティカル期として外科病棟、継続ケアとして関連した看護外来などで実習を行う。 <p>実習期間：2年次</p> <p>実習施設：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立医科大学附属病院 ・近畿大学医学部附属病院 ・大阪市立大学附属病院 <p>実習体制：実習指導は教員と専門看護師または専門看護師担当のものと協力して教育を行う。</p> <p>実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者（急性・重症患者看護専門看護師）： ・奈良県立医科大学附属病院 辻本雄大 ・近畿大学医学部附属病院 村上香織 ・大阪市立大学附属病院 阿部美佐子 <p>記録：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践した内容を実習記録に記入する。 ・情報、アセスメント、計画、実践、評価などを含んだケースレポートをまとめる。 ・実習日ごとに、実践内容を記録し、その内容をもとに実習目標の達成度をはかり、目標達成に向けた実習計画を修正、実行する。 ・対応した事例をもとに実践報告書を作成する。 ・ケース検討会などの ・教育計画の計画書、教材を提出する。 ・ケースカンファレンスのカンファレンス記録を提出する。 <p>（詳細は実習要項参照）</p> |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 |
| 評価方法・評価基準 | 実習への取り組み・態度(30%)、カンファレンス・事例検討会などの取り組み(20%)、専門看護師の役割などの課題レポート・ケースレポート(50%)の内容の割合で評価する。 |

| | |
|------------|---------------------------------|
| テキスト | 適宜紹介する。 |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 本実習で達成すべき課題をしっかりと捉えて実習に臨んでください。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|------------------|---|------|--------|
| 通年 | 2年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 石澤 美保子／佐竹 陽子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |
| 目的 | 周術期またはクリティカルな状況にある患者および家族の看護および看護援助に関する研究課題、特に看護実践に関するものを選定し、系統的な文献検索を行った上で適切な研究手法を用いて研究を行い、課題研究成果物を作成する。 | | |
| 目標 | 1) 学生各自が関心のある周術期またはクリティカルな状況にある患者および家族の看護に関する研究課題を見出すことができる。 2) 研究課題を見出すための系統的な文献検索を自ら行うことができ、適切な研究手法を選択することができる。 3) 課題研究成果物作成までの必要なプロセスを構築できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~20 クリティカルな状況の患者および家族の看護に関するテーマを選定し、研究計画書を作成できる。 | 演習 | 石澤美保子 |
| | 21~30 作成した研究計画書に基づき、適切な研究手法を用いてデータを収集する。収集したデータを適切な方法で分析し結果・考察を行い、成果物を作成する。 | 演習 | 石澤美保子 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業開始前に該当単元の授業内容に関するテキストページおよび参考文献の精読をおこない授業にのぞむこと。事後学修として授業内容の復習と課題に取り組むこと。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 課題研究に取り組む姿勢・課題研究過程・提出された課題研究成果物(100%)を総合して評価する。 | | |
| テキスト | 適宜紹介する | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する | | |
| 学生へのメッセージ等 | 講義、演習、実習を通じて学修した内容をふまえ取り組んでください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 長谷川正俊／大林千穂／神野正敏／本津茂人／小山文一／北東大督／池田直也／天野逸人／田中宣道／四宮敏章／小川朝生 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | | | |
|------|---|------|-----------------------------|
| 目的 | がん医療の動向、がんの病態生理および診断、検査、最新治療について学び、がん看護学における高度な臨床判断と看護実践に必要な医学的専門知識を深める。 | | |
| 目標 | 1) がん医療の動向とがんの対策について理解する。 2) がんの病態と診断、治療の基本的考え方について理解を深める。 3) 代表的な悪性腫瘍の診療ガイドラインに基づいた標準治療および最新の治療戦略について理解を深める。 4) がん・がん治療に伴う症状の臨床判断および専門的介入について理解を深める。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 2021年4月7日（水） 4限目 授業展開のオリエンテーション がん医療の動向と対策 1) がんの疫学 2) 日本におけるがん対策（がん対策基本法、がん対策推進基本計画） 3) がん予防・がん検診 4) がん医療における臨床試験の役割 5) がん診療における診断から治療までの流れ | 講義 | 放射線腫瘍医学教授 長谷川 正俊 |
| | 2 2021年4月20日（火） 5限目 がんの病理学 1) がんの発生 2) がん遺伝子、がん抑制遺伝子 3) がん細胞の増殖・分化異常、浸潤・転移の病態 4) がんの病理学的診断 5) 腫瘍マーカーの臨床的意義 6) ゲノム医療 | 講義 | 病理診断学教授 大林千穂 |
| | 3 2021年4月27日（火） 5限目 がん の 治療（1）がん 薬物療法-1 1) 薬物療法 に関する概念と治療戦略 （殺細胞性 抗がん剤、分子標的 治療 薬、免疫治療 薬、遺伝子治療薬） 2) 薬物療法に関連する 有害事象の 病態および マネジメント 3) 個別化治療、ゲノム医療 | 講義 | がんゲノム・腫瘍内科学 病院教授 神野正敏 |
| | 4 2021年5月11日（火） 5限目 がん の 治療（1）がん 薬物療法-2 1) 薬物療法 に関する概念と治療戦略 （殺細胞性 抗がん剤、分子標的 治療 薬、免疫治療 薬、遺伝子治療薬） 2) 薬物療法に関連する 有害事象の 病態および マネジメント 3) 個別化治療、ゲノム医療 | 講義 | がんゲノム・腫瘍内科学 病院教授 神野正敏 |
| | 5 2021年5月19日（水） 4限目 がん の 治療（2）がん 放射線療法-1 1) 放射線療法の原理と治療戦略 （根治照射・緩和照射、外部照射・小線源治療・内用療法） 2) 放射線療法に関連する 有害事象の病態およびマネジメント オンコロジック・エマーゼンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 1) がんの骨転移による脊髄圧迫症候群 | 講義 | 放射線腫瘍医学教授 長谷川正俊 |
| | 6 2021年5月26日（水） 4限目 がん の 治療（2）がん 放射線療法-2 1) 放射線療法の原理と治療戦略 （根治照射・緩和照射、外部照射・小線源治療・内用療法） 2) 放射線療法に関連する 有害事象の病態およびマネジメント オンコロジック・エマーゼンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 1) がんの骨転移による脊髄圧迫症候群 | 講義 | 放射線腫瘍医学教授 長谷川正俊 |
| | 7 2021年5月20日（木） 3限目 代表的な悪性腫瘍と治療（1） 1) 肺がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療 オンコロジック・エマーゼンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 | 講義 | 呼吸器内科学 講師 本津茂人 |

| | | | |
|------------------|--|----|---|
| | 2) 心タンポナーデ 3) 上大静脈症候群 | | |
| 8 | 2021年6月1日(火) 5限目 代表的な悪性腫瘍と治療(2) 1) 胃がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療 2) 大腸がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療 | 講義 | 中央内視鏡部 病院教授 小山文一 |
| 9 | 2021年6月8日(火) 5限目 代表的な悪性腫瘍と治療(3) 1) 肝臓がんの疫学、病態、診断プロセス、標準治療 2) 転移性肝臓がんの疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 オンコロジック・エマージェンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 4) 肺血栓塞栓症 | 講義 | 消化器・ 総合外科学 助教 北東大督 |
| 10 | 2021年6月15日(火) 5限目 代表的な悪性腫瘍と治療(4) 1) 乳がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療 2) 遺伝性乳がん卵巣がん症候群の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 | 講義 | 消化器・ 総合外科学 准教授 池田直也 |
| 11 | 2021年6月9日(水) 4限目 代表的な悪性腫瘍と治療(5)-1 1) 白血病の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 2) 造血幹細胞移植、GVHD への対応 3) 悪性リンパ腫の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 オンコロジック・エマージェンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 5) 腫瘍崩壊症候群 6) 敗血症 | 講義 | 呼吸器内科学 講師 天野逸人 |
| 12 | 2021年6月16日(水) 4限目 代表的な悪性腫瘍と治療(5)-2 1) 白血病の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 2) 造血幹細胞移植、GVHD への対応 3) 悪性リンパ腫の疫学、病態、診断プロセス、治療戦略 オンコロジック・エマージェンシーの病態、診断プロセスと治療戦略 5) 腫瘍崩壊症候群 6) 敗血症 | 講義 | 呼吸器内科学 講師 天野逸人 |
| 13 | 2021年6月22日(火) 5限目 代表的な悪性腫瘍と治療(6) 1) 前立腺がんの疫学、病態、診断プロセス、集学的治療 2) ホルモン治療による有害事象の病態およびマネジメント | 講義 | 泌尿器科学 准教授 田中宣道 |
| 14 | 2021年6月29日(火) 5限目 がん・がん治療に伴う症状の臨床判断および専門的介入(1) 身体的症状に対する緩和医療 1) がん性疼痛 がん性疼痛の薬物療法における診療ガイドラインに沿った臨床判断プロセスと治療戦略、その効果判定 2) がん・がん治療に伴う身体的症状(呼吸困難、倦怠感など) 診療ガイドラインに沿った臨床判断プロセスと治療戦略、その効果判定 | 講義 | 緩和ケアセンター センター長/ 病院教授 四宮敏章 |
| 15 | 2021年7月2日(金) 4限目 がん・がん治療に伴う症状の臨床判断および専門的介入(2) サイコオンコロジー・アプローチ 1) サイコオンコロジーの概念 2) がんによってもたらされる患者や家族の一般的な反応 3) 不安・適応障害・抑うつのアセスメントと治療的介入 4) せん妄のアセスメントと治療的介入 | 講義 | 国立研究開発法人 国立がん研究センター/ 先端医療開発センター 精神腫瘍学開発 分野 分野長 小川朝生 |
| 授業外学修(事前学修・事後学修) | | | |
| 評価方法・評価基準 | 各授業終了後の学修内容のレポート(7点×12回=84点:妥当性・適切性)と最終課題レポート(16点:論理性・一貫性・適切性)を総合的に評価する。 最終課題レポート:がん看護学の高度な臨床判断と看護実践における自己の課題 | | |
| テキスト | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | がん病態治療学は、1年前期の「病態生理学」と関連させて本授業の知識を深め、かつ、がんの専門医師からの高度な臨床判断と医学的専門知識をオムニバス形式で学びます。学びを深めて自分の看護アセスメント・実践などに生かせるように、学修内容を各授業終了後に振り返りながらレポートしていきましょう。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美/升田 茂章/石橋 千夏/梅岡 京子 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | がんの臨床経過および療養の場における複雑ながん患者と家族の特徴を理解し、がん患者および家族への効果的かつ包括的な看護介入について探求する。 | | |
|------|---|-------|--------------|
| 目標 | 1) 診断期、治療期、再発・進行期、ターミナル期におけるがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメントを理解する。 2) がん治療（手術療法・放射線療法）を受ける患者の特徴とアセスメント、看護を理解する。 3) がん患者の家族の特徴とアセスメント、支援について理解する。 4) 症状マネジメントの概念の理解と効果的・包括的な援助方法について理解する。 5) 看護介入モデルの概念の理解と効果的・包括的な援助方法について探求する。 6) がん患者への療養支援における看護実践について探求する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 授業展開のオリエンテーション 臨床経過におけるがん患者の抱えるTotal painと包括的アセスメント 1. Total painの概念 2. 診断期にあるがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメント 3. 治療にあるがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメント 4. 再発・進行期にあるがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメント 5. ターミナル期のがん患者の抱えるTotal painおよび包括的アセスメント | 講義・演習 | 田中登美 |
| | 3~4 がん患者の家族の特徴とアセスメント、支援 1. がん患者の家族の特徴、おかれている状況と看護問題 2. がん患者の家族のアセスメント 3. 家族に対する支援 | 演習 | 升田茂章 |
| | 5~6 がん治療を受ける患者の特徴とアセスメント、看護 (1) 最新のがん手術療法と看護 1. 手術療法を受けるがん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 2. 術前のアセスメント、看護目標・実践および評価 3. 術後のアセスメント、看護目標・実践および評価 | 演習 | 田中登美 |
| | 7~8 がん治療を受ける患者の特徴とアセスメント、看護 (2) 最新のがん放射線療法と看護 1. 放射線療法を受けるがん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 2. 治療前・中・後のアセスメント 3. 放射線療法を受けるがん患者の看護目標 4. 有害事象へのセルフケア教育および看護実践の評価 | 演習 | 梅岡京子 |
| | 9 がん患者の 症状マネジメント 1. 症状マネジメント (Symptom Management) の概念 2. がん患者の抱える症状に対する IASM an integrated approach to symptom management を用いた 効果的・包括的な援助方法 | 講義 | 石橋千夏 |
| | 10 がん看護における看護介入モデル 1. Intervention Modelの概念 2. Intervention Modelを用いた分析 3. がん患者を対象とした看護介入研究を1つ選択し、Intervention Modelを用いて分析・吟味する。 | 演習 | 田中登美 |
| | 11~12 がん患者への療養支援 (1) がん患者への教育アプローチ 1. 患者教育の概念 2. 大人の学習理論 (andragogy) 3. がん患者への教育的アプローチ | 演習 | 石橋千夏 田中登美 |
| | 13 がん患者への療養支援 (2) がん看護領域における倫理的課題 | 演習 | 梅岡京子 |

| | | | |
|-------------------|---|----|------|
| | <p>への看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護実践における倫理的課題 2. がん患者が抱える倫理的課題への看護 3. 倫理的課題 に対する 医療者への教育的アプローチ | | |
| | <p>14~15</p> <p>がん患者への療養支援(3))がん患者の意思決定への支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思決定の概念 2. Advance Care Planning (ACP) 3. がん患者の意思決定への支援 | 演習 | 田中登美 |
| 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>担当した授業の作成資料内容 (40点: 論理性・一貫性・適切性) 、担当した授業のプレゼンテーション内容および方法 (20点: 論理性・一貫性・適切性)、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容 (20点: 論理性・一貫性・適切性・積極性)、最終課題レポート (20点: 論理性・一貫性・適切性) により総合的に評価する。</p> <p>最終課題レポートは、授業での学びを通してテーマ「がん患者と家族の特徴および効果的かつ包括的な看護介入」としてまとめる。</p> | | |
| テキスト | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | <p>学生の臨床経験をいかし、かつ、がんの臨床経過および療養の場における複雑ながん患者と家族の特徴を理解する力や効果的かつ包括的な看護介入の応用する力を身につけるため、文献学習や発表・討議は、学生の主体性を重視して進めます。</p> <p>担当した授業内容に対する事前学習として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。</p> <p>授業終了後は学修内容の復習することで学びを深めることを期待します。</p> | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美／升田 茂章／中村 由美 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 代表的ながん種のがん薬物療法看護、がん薬物療法に伴う有害事象に対する看護、がん薬物療法中のセルフケア能力を高める方略について探究する。 | | |
|------|--|-------|------|
| 目標 | 1)がん薬物療法を受けるがん患者の状況、アセスメントおよび看護について理解する。 2) 代表的ながん種（肺がん、大腸がん、乳がん、急性白血病、前立腺がん）によるがん薬物療法を受ける患者への看護について理解する。 3) がん薬物療法に伴う主な有害事象を抱える患者に対する臨床判断、予防、早期発見・早期対処に関する看護について理解する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 授業展開のオリエンテーション がん薬物療法を受ける患者の看護概論 (1) がん薬物療法を受ける患者への看護 1. がん薬物療法を受ける患者の特徴、おかれている状況と看護問題 2. 治療前・中・後のアセスメント 3. がん薬物療法を受ける患者の看護目標 4. 有害事象へのセルフケア教育および看護実践の評価 | 講義・演習 | 田中登美 |
| | 3 がん薬物療法を受ける患者の看護概論 (2) 抗がん剤の薬物管理 1. 抗がん剤（殺細胞性抗がん剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤、遺伝子治療薬、ホルモン治療薬）の特徴 2. 抗がん剤の曝露 および対策 3. 安全な抗がん剤の取り扱い および患者への教育 | 演習 | 田中登美 |
| | 4 代表的ながんのがん薬物療法における看護 (1) がん薬物療法を受ける肺がん患者への看護 1. がん薬物療法を受ける肺がん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 2. がん薬物療法を受ける肺がん患者のアセスメント 3. がん薬物療法を受ける肺がん患者の看護目標、看護および評価 | 演習 | 田中登美 |
| | 5 代表的ながんのがん薬物療法における看護 (2) がん薬物療法を受ける大腸がん患者への看護 1. がん薬物療法を受ける大腸がん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 2. がん薬物療法を受ける大腸がん患者のアセスメント 3. がん薬物療法を受ける乳がん患者の看護目標、看護および評価 | 演習 | 田中登美 |
| | 6 代表的ながんのがん薬物療法における看護 (3) がん薬物療法を受ける乳がん患者への看護 1. がん薬物療法を受ける乳がん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 2. がん薬物療法を受ける乳がん患者のアセスメント 3. がん薬物療法を受ける乳がん患者の看護目標、看護および評価 | 演習 | 田中登美 |
| | 7 代表的ながんのがん薬物療法における看護 (4) 急性白血病患者の治療と看護 1. 急性白血病患者の特徴、おかれている状況と看護問題 2. 造血幹細胞移植を受ける急性白血病患者のアセスメント 3. 造血幹細胞移植を受ける急性白血病患者の看護目標、看護および評価 | 演習 | 田中登美 |
| | 8 代表的ながんのがん薬物療法における看護 (5) がん薬物療法を受ける前立腺がん患者への看護 1. がん薬物療法を受ける前立腺がん患者の特徴、おかれている状況と看護問題 2. がん薬物療法を受ける前立腺がん患者のアセスメント 3. がん薬物療法を受ける前立腺がん患者の看護目標、看護お | 演習 | 田中登美 |

| | | | |
|-------------------|--|-------|------|
| | よび評価 | | |
| | 9~10 がん薬物療法に伴う有害事象への看護 (1) 消化器症状 (悪心・嘔吐、下痢、便秘など) を抱える患者への看護 1. がん薬物療法に伴う消化器症状 (悪心・嘔吐、下痢、便秘など) の発生機序 2. 消化器症状を抱える患者のTotal pain 3. 消化器症状に関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 4. 消化器症状の予防、緩和のための看護および評価 | 講義・演習 | 中村由美 |
| | 11~12 がん薬物療法に伴う有害事象への看護 (2) 骨髄抑制 (易感染、出血傾向、貧血) を抱える患者への看護 1. がん薬物療法に伴う骨髄抑制 (易感染、出血傾向、貧血) の発生機序 2. 易感染状態にある患者のアセスメントと援助 1) 感染リスクを抱える患者のTotal pain 2) 感染リスクに関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 3) 感染リスクの予防、緩和のための看護および評価 3. 出血傾向にある患者のアセスメントと援助 1) 出血リスクを抱える患者のTotal pain 2) 出血リスクに関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 3) 出血リスクの予防、緩和のための看護および評価 4. 貧血状態にある患者のアセスメントと援助 1) 貧血を抱える患者のTotal pain 2) 貧血に関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 3) 貧血の予防、緩和のための看護および評価 | 講義・演習 | 中村由美 |
| | 13 がん薬物療法に伴う有害事象 への看護 3 末梢神経障害 を抱える患者への看護 1. がん薬物療法に伴う末梢神経障害の発生機序 2. 末梢神経障害を抱える患者のTotal pain 3. 末梢神経障害に関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 4. 末梢神経障害の予防、緩和のための看護および評価 | 講義 | 升田茂章 |
| | 14 がん薬物療法に伴う有害事象 への看護 4 皮膚障害を抱える患者への看護 1. がん薬物療法に伴う皮膚障害の発生機序 2. 皮膚障害を抱える患者のTotal pain 3. 皮膚障害に関するアセスメントおよび薬剤使用の臨床判断 4. 末梢神経障害の予防、緩和のための看護および評価 | 講義 | 升田茂章 |
| | 15 がん薬物療法に伴う有害事象への看護 (5) 性機能障害を抱える患者への看護 1. がん薬物療法に伴う性機能障害の発生機序 2. セクシュアリティを含む性機能障害を抱える患者のTotal pain 3. セクシュアリティを含む性機能障害に関するアセスメント 4. 性機能障害・セクシュアリティに対する看護および 評価 | 講義・演習 | 升田茂章 |
| 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | | |
| 評価方法・評価基準 | 担当した授業の作成資料内容 (40点: 論理性・一貫性・適切性)、担当した授業のプレゼンテーション内容および方法 (20点: 論理性・一貫性・適切性)、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容 (20点: 論理性・一貫性・適切性・積極性)、最終課題レポート (20点: 論理性・一貫性・適切性) により総合的に評価する。 最終課題レポートは、テーマ「がん薬物療法看護におけるがん看護専門看護師の役割」としてまとめる。 | | |
| テキスト | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | がん薬物療法看護について専門的知識および効果的かつ包括的な看護介入の応用する力を身につけるため、文献学習や発表・討議は、学生の主体性を重視して進めます。 担当した授業内容に対する事前学習として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容の復習することで学びを深めることを期待します。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美／梅岡 京子 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | がん患者が抱える身体的・心理社会的・spiritualなpain、がん患者および家族の苦悩への包括的な看護介入およびEnd-of-Life Careについて探求する。 | | |
|------|--|-------|------|
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者および家族への 緩和ケアについて理解する。 2) がん患者に対する補完代替療法について理解する。 3) がん患者に生じやすい身体的苦痛症状の定義・頻度・原因・発生機序、アセスメントおよび看護について理解する。 4) がん患者が抱える心理社会的苦痛・spiritual painのアセスメントおよび看護について理解する。 5) がん患者のEnd-of-Life Careおよび家族のGrief Careについて理解する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 授業展開のオリエンテーション がん患者および家族への緩和ケア <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアの概念と歴史の変遷 2. Total painと緩和ケア 3. チームアプローチ 4. がんサバイバーに対する支援 がん患者サポートプログラム (I Can Cope Program) がんサロンなど 5. 緩和ケアに関する医療者への教育の概要 End-of-Life Nursing Education Consortium Japan ; ELNEC-J Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education ; PEACE | 講義・演習 | 田中登美 |
| | 3 がん患者に対する補完代替療法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 補完代替療法の定義、種類、目的 2. がん患者に適用できる補完代替療法 3. がん患者へ 補完代替療法を利用する際の留意点、方法および評価 | 演習 | 田中登美 |
| | 4~5 がん患者の抱える 身体的苦痛症状のアセスメント および看護 (1) <ol style="list-style-type: none"> 1. がん性疼痛の定義、頻度、原因、発生機序 2. がん性疼痛が患者に与える影響 3. がん性疼痛を抱える患者のアセスメント 初期アセスメント、継続アセスメント 4. がん性疼痛に対する治療および薬剤使用の臨床判断 5. がん性疼痛を抱える患者への看護および評価 | 演習 | 梅岡京子 |
| | 6 がん患者の抱える身体的苦痛症状のアセスメントおよび看護 (2) <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸困難の定義、頻度、原因、発生機序 2. 呼吸困難が患者に与える影響 3. 呼吸困難を抱える患者のアセスメント 4. 呼吸困難に対する治療および薬剤使用の臨床判断 5. 呼吸困難を抱える患者への看護および評価 | 演習 | 梅岡京子 |
| | 7 がん患者の抱える身体的苦痛症状のアセスメントおよび看護 (3) <ol style="list-style-type: none"> 1. 倦怠感の定義、頻度、原因、発生機序 2. 倦怠感が患者に与える影響 3. 倦怠感を抱える患者のアセスメント 4. 倦怠感に対する治療および薬剤使用の臨床判断 5. 倦怠感を抱える患者への看護および評価 | 演習 | 田中登美 |
| | 8 がん患者の抱える身体的苦痛症状のアセスメントおよび看護 (4) <ol style="list-style-type: none"> 1. せん妄の定義、頻度、原因、発生機序 2. せん妄が患者に与える影響 3. せん妄患者のアセスメント 4. せん妄に対する治療および薬剤使用の臨床判断 5. せん妄ハイリスク患者への予防ケア 6. せん妄患者への看護および評価 | 演習 | 田中登美 |

| | | | |
|------------------|---|----|------|
| | 9~10 がん患者に特有な心理社会的苦痛のアセスメントおよび看護 1. 不安・抑うつ・適応障害の定義、頻度、原因、発生機序 2. 不安・抑うつ・適応障害が患者に与える影響 3. 不安・抑うつ・適応障害を抱える患者のアセスメント 4. 不安・抑うつ・適応障害に対する治療および薬剤使用の臨床判断 5. 不安・抑うつ・適応障害を抱える患者への看護および評価 | 演習 | 田中登美 |
| | 11 がん患者の抱えるspiritual painとspiritual care 1. がん患者の抱えるspiritual pain 2. spiritual painを抱える患者のアセスメント 3. spiritual careとその評価 | 演習 | 田中登美 |
| | 12 苦痛緩和のための鎮静に関する看護 1. 苦痛緩和のための鎮静のガイドライン作成の経緯と目的 2. ガイドラインの適応の注意 3. 鎮静の定義と分類 4. 鎮静の倫理的妥当性 5. 鎮静の医学的適応および治療の実際および看護 | 演習 | 田中登美 |
| | 13 End-of-Life Care 1. End-of-Life Careの概念 2. 日本における死を取り巻く状況とEnd-of-Life Careにおける課題 3. 老いの過程にある高齢がん患者のEnd-of-Life Care 4. 死への準備教育 | 演習 | 田中登美 |
| | 14~15 終末期がん患者の家族への看護 1. 終末期がん患者の家族の特徴および家族が抱える苦悩 2. 終末期がん患者の家族へのGrief Care 3. 臨死期にあるがん患者の看取り 4. 遺族ケア | 演習 | 田中登美 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 担当した授業の作成資料内容（40点：論理性・一貫性・適切性）、担当した授業のプレゼンテーション内容および方法（20点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（20点：論理性・一貫性・適切性・積極性）、最終課題レポート（20点：論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。 最終課題レポートは、テーマ「緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割」としてまとめる。 | | |
| テキスト | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | がん患者およびその家族への緩和ケアについての専門的知識および効果的かつ包括的な看護介入の応用する力を身につけるため、文献学習や発表・討議は、学生の主体性を重視して進めます。 担当した授業内容に対する事前学習として、学修内容を参考に、それぞれの課題に対して文献をもとに資料を作成し、発表・討議に臨んでください。また、授業に参加する際は、事前に配布された資料、学習課題に関する文献・レポートなどの課題を行い授業に参加してください。 授業終了後は学修内容の復習することで学びを深めることを期待します。 | | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美/升田 茂章/中村 由美/梅岡 京子/中濱 絢/小木曾 照子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | がん看護学特論で学んだ概念・理論を基盤として、がん薬物療法看護・緩和ケアを中心に、がん患者およびその家族の抱えるさまざまな臨床上の問題および看護について検討し、がん患者およびその家族の状態・状況に対応した質の高い看護を探求する。 | | |
|------|--|-------|----------------------|
| 目標 | <p>1) がん看護領域における課題について研究を中心に理解する。</p> <p>2) 医療・看護の場で、看護職を含むケア提供者が職務上出会う実践的な問題を自ら解決していけるように、看護におけるコンサルテーションの概念と理論、コンサルタントの役割、実践モデルを活用したCNSが行うコンサルテーションについて理解する。</p> <p>3) がん診断期において、喪失を体験している患者1名を受けもち、悲嘆および喪失に対する質の高い看護を考究する。</p> <p>4) がん薬物療法によりボディイメージが変容して苦悩している患者1名を受け持ち、ボディイメージの変容に対する質の高い看護について考究する。</p> <p>5) 再発期もしくはターミナル期にTotal painを抱える患者1名を受け持ち、Total painに対する質の高い看護について考究する。</p> | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 授業展開のオリエンテーション 【がん薬物療法看護】 【緩和ケア】 がん看護領域における課題について がん看護領域における課題について研究を中心に理解する 1. がん薬物療法を受ける患者の看護 2. 緩和ケアを受ける患者の看護 | 講義・演習 | 田中登美 |
| | 3~4 【がん薬物療法看護】 【緩和ケア】 がん患者および家族が抱える課題とその対応 (1) がん看護コンサルテーション 1. 看護におけるコンサルテーションの概念と理論 2. コンサルタントの役割 3. 実践モデルを活用したCNSが行うがん看護コンサルテーション | 講義 | 田中登美 |
| | 5~6 【がん薬物療法看護】 【緩和ケア】 がん患者および家族が抱える課題とその対応 (2) がん相談 1. がん対策基本法におけるがん診療連携拠点病院の役割、がん相談支援センターの位置づけと役割 2. がん相談を受けるうえで必要な知識・スキル、がん相談支援のプロセス 3. がん看護専門看護師が行うがん相談の実際 ・発達段階・発達課題に応じた意思決定の支援の実際 ・がんの病期に応じた意思決定支援の実際 など | 講義 | 小木曾照子 |
| | 7~12 【がん薬物療法看護】 診断期・治療期の患者の看護 (1) がん診断期において、喪失を体験している患者1名を受けもち、悲嘆および喪失に対する質の高い看護を考究する。 がん医療施設のがん患者の入院病棟・外来における臨床演習 1. がんの診断期において、喪失を体験している患者1名を受け持ち、悲嘆および喪失を分析、看護計画を立案して、質の高い看護を提供する。 2. 実践した看護を評価して、悲嘆および喪失に対する質の高い看護について考究する。 3. 受け持ち患者の状況に応じて、危機回避もしくは危機の速やかな回復に向けて、概念・モデルを活用して、質の高い看護を提供する。 | 臨床演習 | 田中登美 升田茂章 中村由美 |
| | 13~18 【がん薬物療法看護】 診断期・治療期の患者の看護 (2) がん薬物療法によりボディイメージが変容して苦悩している患者1名を受け持ち、ボディイメージの変容に対する質の高い看護について考究する。 がん医療施設のがん患者の入院病棟・外来における臨床演習 1. がん薬物療法によりボディイメージが変容して苦悩している患者1名を受け持ち、ボディイメージの変容を分析、看護計画を立案して、質の高い看護を提供する。 2. 実践した看護を評価して、ボディイメージの変容に対する質の高い看護について考究する。 | 臨床演習 | 田中登美 升田茂章 梅岡京子 |
| | 19~20 【緩和ケア】 再発期もしくはターミナル期にTotal Painを抱え | 講義 | 中濱絢 |

| | | | |
|------------------|---|------|----------------------|
| | <p>る患者およびその家族に対する緩和ケアチームのかかわり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアをサブスペシャリティとしているがん看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）および役割開発 2. がん患者とその家族にかかわる他職種、専門看護師、認定看護師との協働の実際 3. 再発期もしくはターミナル期にTotal Painを抱える患者およびその家族へのがん看護コンサルテーションの実際 <ul style="list-style-type: none"> ・療養の場の選択と退院支援の実際 ・退院調整と社会資源の活用の実例 ・地域包括ケアにおけるがん看護専門看護師の役割および看護など | | |
| | <p>21~30</p> <p>【緩和ケア】 再発期もしくはターミナル期の患者への看護</p> <p>再発期もしくはターミナル期にTotal painを抱える患者1名を受け持ち、Total painに対する質の高い看護について考究する。</p> <p>がん医療施設のがん患者の入院病棟・外来における臨床演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 再発期もしくはターミナル期にTotal painを抱える患者1名を受け持ち、Total painを分析、看護計画を立案して、質の高い看護を提供する。 2. 実践した看護を評価して、Total painに対する質の高い看護について考究する。 | 臨床演習 | 田中登美 升田茂章 梅岡京子 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | がん医療施設での演習（7~12・13~18・21~30）への積極性・課題内容（60点：論理性・一貫性・適切性）、演習成果の資料内容・プレゼンテーション内容および方法（30点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（10点：論理性・一貫性・適切性・積極性）により総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | がん看護学特論で学んだ概念・理論を基盤として、がん薬物療法看護・緩和ケアを中心に、がん患者およびその家族の抱えるさまざまな臨床上の問題および看護について検討し、がん医療施設における臨床演習ではがん患者およびその家族の状態・状況に対応した質の高い看護を提供して学びを深めます。臨床演習は、学生の主体性・創造性を重視して進めていきます。授業への取組みとして、学修内容を参考に学びが深まるよう、主体的な姿勢で受講してくれることを期待します。 | | |

| | | | |
|--|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美/升田 茂章/中濱 絢/中村 由美/宮城 恵/菊谷 光代/四宮 敏章/藤野 崇 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | | | |
|------|---|--------------|------|
| 目的 | がん薬物療法や緩和ケアを受けるがん患者およびその家族が抱える課題に対する効果的な看護介入技法の基礎知識を学び、高度な看護技術を習得するとともに、がん看護専門看護師の役割と展望について探求する。 | | |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) がん看護専門看護師の役割および機能を理解し、自己の課題を見出すことができる。 2) がんの臨床試験を受ける患者を対象とした文献を用いて、患者の特徴、看護上の課題、看護の基礎知識を基盤として、CNS としての役割を考究する。 3) AYA Adolescent and Young Adult) 世代の患者、遺伝カウンセリングを受ける 患者 およびその 家族が抱える課題と その 看護 を理解する。 4) がん薬物療法を受ける患者のセルフケア教育の重要性を認識したうえで、患者教育を実践し評価できる。 5) がん薬物療法を受ける患者が抱える課題と治療の継続を支える看護（就業・就労支援、グループアプローチ）を理解する。 6) Total Pain を抱えるがん患者へのケア（家族ケア、ポジショニング、アロマセラピー、リラクゼーション、リンパ浮腫に対する複合的理学療法）を理解する。 7) がんチーム医療の中でのがん看護専門看護師のかかわりの分析を通して、がんチーム医療の中でのがん看護専門看護師の独自の役割および調整の役割における今後の展望について洞察する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~2 授業展開のオリエンテーション 【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がん看護専門看護師の役割および機能、展望 <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門看護師制度の歴史的変遷 2. 専門看護師制度の目的 3. がん看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）および機能 4. がん看護専門看護師教育の変遷および展望 5. がんチーム医療におけるがん看護専門看護師の役割および機能 | 講義・演習 | 田中登美 |
| | 3 【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がんの臨床試験を受ける患者への看護 がんの臨床試験を受ける患者を対象とした文献を用いて、患者の特徴、看護上の課題、看護の基礎知識を基盤として、CNS としての役割を考究する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. がんの臨床試験を受ける患者の特徴、看護上の課題 2. 治験ナースの役割および実践内容 3. がんの臨床試験を受ける患者に対する看護 4. がんの臨床試験を受ける患者にかかわる医療者間連携について | 演習 | 田中登美 |
| | 4~5 【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がん患者および家族が抱える課題とその対応（1） AYA (Adolescent and Young Adult) 世代の患者に対する看護 <ol style="list-style-type: none"> 1. AYA世代の患者が抱える課題および看護 2. 妊孕性の温存に関するAYA世代の患者への意思決定支援の実際 3. 妊孕性の温存を希望する AYA 世代の患者への 生殖 へのサポート の実際 | 講義 | 中濱絢 |
| | 6 【がん薬物療法看護】【緩和ケア】 がん患者および家族が抱える課題とその対応（2） 遺伝カウンセリング を受ける患者および家族への 看護の役割と実際 <ol style="list-style-type: none"> 1. がん医療におけるゲノム医療の位置づけ 2. 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群 (Hereditary Breast and Ovarian Cancer Syndrome: HBOC) の 遺伝カウンセリングにおける看護の役割 と実際 | 講義 | 宮城恵 |
| | 7~8 【がん薬物療法看護】 がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力向上のための患者教育（1） <ol style="list-style-type: none"> 1. がん薬物療法における患者教育の重要性 2. 学習ニーズのアセスメント 3. 学習計画の立案・実施・評価 | 講義 | 升田茂章 |
| 9~14 | 臨床演習 | 中村由美 升田茂章 | |

| | | | |
|------------------|---|---------|-----------------------------|
| | <p>【がん薬物療法看護】 がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力向上のための患者教育（2）</p> <p>【がん医療施設での演習：外来化学療法センター】 がん薬物療法を受ける患者を1名受け持ち、以下の課題に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習ニーズをアセスメントする。 2. 学習ニーズに基づき、学習計画を立案する。 ・一般目標、行動目標の設定 ・学習内容の立案 ・教材の選択 3. 学習計画に基づいて患者教育を行う。 4. 患者教育のプロセスを評価する。 5. 実施した患者教育プロセスについての分析・評価をレポートにまとめる。 | | 田中登美 |
| 15~16 | <p>【がん薬物療法看護】 がん薬物療法を受ける患者が抱える課題と治療の継続を支える看護（1） がん薬物療法を受ける患者への就業・就労支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 働く世代のがん患者の抱える問題と施策 2. がん薬物療法を受ける患者への就業・就労支援 | 講義 | 田中登美 |
| 17~18 | <p>【がん薬物療法看護】 がん薬物療法を受ける患者が抱える課題と治療の継続を支える看護（2） がん薬物療法 の継続を支えるグループアプローチ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 治療の継続を支えるグループ介入の種類と特徴 2. サポートグループおよびセルフヘルプグループの概念、介入の具体的な技法、介入の実際、有用性 | 演習 | 田中登美 |
| 19~20 | <p>【緩和ケア】 Total Painを抱えるがん患者へのケア（1）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がんチーム医療における家族支援専門看護師の専門性を生かした家族への看護の実際 2. がん看護専門看護師との協働の実際 | 講義 | 藤野崇 |
| 21~22 | <p>【緩和ケア】 Total Painを抱えるがん患者へのケア（2）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ポジショニングの原理と適応 2. 具体的なポジショニング方法 3. ポジショニング法の演習 | 講義・演習 | 升田茂章 |
| 23 | <p>【緩和ケア】 Total Painを抱えるがん患者へのケア（3）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アロマセラピー原理 2. アロマセラピーの禁忌 3. アロマセラピーの看護への適応 <p>Total Painを抱えるがん患者へのケア（4）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リラクゼーションの原理 2. リラクゼーションの看護への適応 | 演習 | 田中登美 |
| 24~26 | <p>【緩和ケア】 Total Painを抱えるがん患者へのケア（5）</p> <p>リンパ浮腫をもつ患者へのケア①</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リンパ浮腫の発生機序、診断・検査、臨床分類 2. リンパ浮腫の治療法 3. 複合的理学療法 <p>リンパ浮腫を持つ患者へのケア② 複合的理学療法の実際</p> <p>【がん医療施設での臨床演習：リンパ浮腫外来 2コマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スキンケア 2. リンパドレナージ 3. 圧迫療法 4. 圧迫下上での運動療法 | 講義・臨床演習 | 菊谷光代 |
| 27~30 | <p>【緩和ケア】 がんチーム医療の中でのがん看護専門看護師の独自の役割および調整の役割</p> <p>【がん医療施設での臨床演習：がんサロン・緩和ケア外来・緩和ケアチーム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がんサロン・緩和ケア外来・緩和ケアチームにおいて、がんサバイバーとがん看護専門看護師のやりとりを見学し、ケアの意図および効果を分析する。 2. がんサロン・緩和ケア外来・緩和ケアチーム などのがんチーム医療の中でのがん看護専門看護師と他職種とのやりとりを見学し、チーム医療の中でのがん看護専門看護師の調整の役割を分析する。 3. チームの中でのがん看護専門看護師のかかわりの分析を通して、がんチーム医療の中でのがん看護専門看護師の独自の役割および調整の役割における今後の展望について洞察する。 | 臨床演習 | 中濱絢 田中登美 升田茂章 四宮敏章 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |

| | |
|------------|---|
| 評価方法・評価基準 | 担当した授業（1・2・3・17・18・23）の作成資料内容・プレゼンテーション内容および方法（20点：論理性・一貫性・適切性）、授業内での質問内容およびディスカッションでの発言内容（20点：論理性・一貫性・適切性・積極性）、がん医療施設での演習（9～14、25・26、27～30）への積極性・課題内容（40点：論理性・一貫性・適切性）、最終課題レポート（20点：論理性・一貫性・適切性）により総合的に評価する。最終課題レポートは、テーマ「がん看護専門看護師の役割および機能、自己の課題」としてまとめる。 |
| テキスト | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 参考図書 | 講義の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 学生へのメッセージ等 | がんチーム医療のさまざまな場面において専門性を活かしてがん看護を提供している看護職からの講義、臨床演習があり、実践能力を深めます。主体的な姿勢で受講してくれることを期待します。 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美／升田 茂章 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------|---|
| 目的 | がんの診断プロセス、がんの治療を受ける患者の臨床検査・治療・身体症状管理・評価における臨床判断とそのプロセスに必要な知識・技術を習得し、看護への適用について考究する。 |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) がんの診断、がん薬物療法を受ける患者の臨床検査・治療・身体症状の管理・評価における身体管理の知識・技術および臨床判断を理解し、指導のもと患者の身体管理の技術を実践する。 2) がん放射線療法を受ける患者の臨床検査・がん放射線療法の適応・身体症状の管理・評価における身体管理の知識・技術および臨床判断を理解し、指導のもと患者の身体管理の技術を実践する。 3) 複雑な問題を抱えるがん患者に対して、学んだ臨床判断および身体管理の方法をもとに、看護師の視点での包括的アセスメント、看護実践への適用について考究する。 |
| 授業計画 | <p>外来および病棟において、がんの診断や苦痛症状の診断プロセス、治療計画、身体管理および治療評価における臨床判断について、実習指導者（医師、がん看護専門看護師）の指導のもと、以下の体験学習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がんの診断・治療戦略における臨床判断、がん薬物療法を受ける患者の身体管理および治療評価の臨床判断 <ol style="list-style-type: none"> 1) がんの診断プロセス（病歴聴取、フィジカルアセスメント、画像診断、血液データの解釈、病理診断等）における臨床判断 2) がんの集学的治療における治療戦略の臨床判断 3) がん薬物療法中の患者の有害事象を含めた身体症状の管理および治療評価プロセスにおける臨床判断 <p><実習方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来の診察場面に同席し、医師の指導のもと、患者の病歴聴取およびフィジカルアセスメントを実施する。 2) 医師の指導のもと、がんの存在診断（画像の読影、血液データの解釈）・確定診断（病理組織の解釈）・病期診断（画像の読影）の臨床判断プロセスを学ぶ。 3) 医師のカンファレンス、複数科・多職種で構成されているがんセンターボードに参加し、がんの確定診断プロセス、および集学的治療を踏まえた治療戦略の判断プロセスなどの臨床判断を学ぶ。 4) 外来の診察場面に同席し、医師の指導のもと、がん薬物療法を受ける患者の有害事象を含めた身体症状の管理および治療の評価プロセスにおける臨床判断を学ぶ。 <p>実習場所：奈良県立医科大学附属病院 腫瘍センターおよび該当病棟</p> <p>実習指導者：奈良県立医科大学附属病院 腫瘍センター センター長／病院教授 神野正敏（日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医） がん看護専門看護師 梅岡京子 がん看護専門看護師 中濱絢 がん看護専門看護師 中村由美</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. がん放射線療法を受ける患者の身体管理および治療評価の臨床判断 <ol style="list-style-type: none"> 1) がんの集学的治療における治療戦略の臨床判断 2) がん放射線療法中の患者の有害事象を含めた身体症状の管理および治療評価プロセスにおける臨床判断 <p><実習方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線治療科 外来の診察場面に同席し、医師の指導のもと、患者の病歴聴取およびフィジカルアセスメントを実施する。 2) 医師の指導のもと、治療計画（画像の読影）、マーキングなどの臨床判断プロセスを学ぶ。 3) 医師のカンファレンス、複数科・多職種で構成されているがんセンターボードに参加し、集学的治療を踏まえた治療戦略の判断プロセスなどの臨床判断を学ぶ。 4) 放射線療法外来の診察場面に同席し、医師の指導のもと、がん放射線療法を受ける患者の有害事象を含めた身体症状の管理および治療の評価プロセスにおける臨床判断を学ぶ。 <p>実習場所：奈良県立医科大学附属病院放射線治療科</p> <p>実習指導者：奈良県立医科大学附属病院 放射線腫瘍医学 教授 長谷川正俊（放射線治療専門医） がん看護専門看護師 梅岡京子 がん看護専門看護師 中濱絢 がん看護専門看護師 中村由美</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 実習の総括 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病歴聴取およびフィジカルアセスメントを実践した事例については、結果をもとに臨床判断を行い、ケースレポートとしてまとめる。 2) 本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行う。 |

| | |
|------------------|---|
| | 3)カンファレンスでの助言も含めて、複雑な問題を抱えるがん患者に対して、学んだ臨床判断および身体管理の方法をもとに、看護師の視点での包括的アセスメント、看護実践への適用について考究する。 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修として、「がん病態生理学」、その他学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を考察してください。 |
| 評価方法・評価基準 | 実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40%：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30%：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30%：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価する。 |
| テキスト | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 参考図書 | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 1年前期の「がん病態生理学」と関連させて本実習においては専門的知識・実践・評価を統合するために、主体的に取り組むことを期待します。実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。 実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を明確にできることを期待します。 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美／升田 茂章 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|------|---|
| 目的 | 都道府県がん診療連携拠点病院におけるがん看護専門看護師が果たす実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究の役割・機能について探求することを通して、自分のサブスペシャリティを見据えた今後の展望、役割開発をする能力について考究する。 |
| 目標 | 1) がん看護専門看護師の役割（実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究）・機能、役割開発について理解できる。 2) 都道府県がん診療連携拠点病院において活動しているがん看護専門看護師の役割（実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究）・機能、役割開発について理解できる。 3) がん薬物療法看護・緩和ケアをサブスペシャリティにもつがん看護専門看護師の役割と機能、役割開発を考察することを通して、自分のサブスペシャリティを見据えた今後の展望、役割開発をする能力について洞察を深める。 |
| 授業計画 | <p>1. がん看護専門看護師が果たす実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究の実際：</p> <p>がん看護専門看護師が行う実践、教育、相談、調整、倫理的調整、研究の役割の実際の場面に参加し、その判断過程を分析することを通して、がん看護専門看護師の役割・機能について学ぶ。</p> <p>1) がん看護専門看護師が行う実践： 病棟や外来において複雑な問題を抱えているがん患者・家族に対する、専門的知識を用いた包括的アセスメント・看護介入技術、評価 などの問題解決思考過程について分析する。</p> <p>2) がん看護専門看護師が行う教育： 看護実践場面でのがん看護専門看護師が行うロールモデルの見学、自施設のがん看護教育に関するがん看護専門看護師の教育計画のインタビューを行い、教育に関する役割・機能を分析する。</p> <p>3) がん看護専門看護師の行う相談： 病棟や外来においてがん看護専門看護師が行っている相談場面に参加し、相談のタイプ、目標設定、予測される成果、用いる技術・戦略 などのアセスメントについて分析する。</p> <p>4) がん看護専門看護師の行う調整： 病棟や外来においてがん看護専門看護師が行っている調整場面に参加し、対応を必要とした問題、調整の方向性、予測される成果、用いる技術・戦略などのアセスメントについて分析する。</p> <p>5) がん看護専門看護師の行う倫理的調整： 病棟や外来においてがん看護専門看護師が行っている倫理的調整場面に参加し、対応を必要とした問題、目標設定、予測される成果、用いる技術・戦略などのアセスメントについて分析する。</p> <p>6) がん看護専門看護師の行う研究： がん看護専門看護師が行っている研究役割、研究の看護実践への活用などのインタビューを行い、研究に関する役割・機能を分析する。</p> <p>2. がん看護専門看護師の役割開発</p> <p>1) 都道府県がん診療連携拠点病院における、がん看護専門看護師の組織における位置づけ、がん看護の質の向上のための方略、体制づくりなどをインタビューし、組織におけるがん看護専門看護師の役割開発とその方法について学ぶ。</p> <p>3. 実習の総括</p> <p>1) がん看護専門看護師の各々の役割について見学・インタビューした結果の分析は、各々の記録用紙にまとめる。</p> <p>2) 本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>3) カンファレンスでの助言も含め実習のまとめとして、「自分のサブスペシャリティを見据えた今後の展望、役割開発をする能力についての課題」についてのレポートを作成し、洞察する。</p> <p><実習方法></p> <p>実習期間：約2週間</p> <p>実習場所・実習指導者：奈良県立医科大学附属病院 がん看護専門看護師 梅岡京子 がん看護専門看護師 中濱絢 がん看護専門看護師 中村由美</p> <p>具体的な実習時期・内容・方法については、実習要項を参照する。</p> |

| | |
|------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修として、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を考察してください。 |
| 評価方法・評価基準 | 実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40%：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30%：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30%：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価する。 |
| テキスト | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 参考図書 | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。 実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を明確にできることを期待します。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|------------------|---|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美／升田 茂章 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| 目的 | 治療期・再発期にあり、複雑な問題を抱えがん薬物療法を受ける患者・家族に対して、高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いて、専門看護師としての倫理観に基づいて、質の高いケアを提供する実践能力を養う。さらに、がん薬物療法看護領域における教育、相談、調整、倫理的調整が自立して行える能力を養う。 | | |
| 目標 | 1) 治療期・再発期にあり、複雑な問題を抱えがん薬物療法を受ける患者・家族に対して、高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いて、質の高いケアを提供できる。 2) 治療期・再発期にあり、がん薬物療法看護による苦痛症状を有しているがん患者・家族に関わる看護師を対象に、教育、相談、調整、倫理的調整を実践し、がん薬物療法を受けるがん患者・家族の苦痛の緩和に関するがん看護専門看護師の役割・機能について洞察を深める。 | | |
| 授業計画 | <p>1. 高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いた質の高いケア</p> <p>1) 都道府県がん診療連携拠点病院の病棟あるいは外来において、治療期・再発期にあり、複雑な問題を抱えがん薬物療法を受ける患者1名以上を受け持ち、実習指導者および教員の指導のもと、最新の知識や概念・理論に基づいて、包括的、個別的な視点からアセスメントし、エビデンスに基づいた高度な看護実践を提供する。</p> <p>2) 包括的・個別的アセスメント、立案した看護計画、看護実践内容と結果、評価については、看護スタッフのカンファレンスなどに積極的に提示し、看護スタッフと連携して行う。</p> <p>2. 看護師を対象にした教育、相談、調整、倫理的調整</p> <p>1) 看護師の教育ニーズを把握し、学習目標、学習計画を立案し、講義を実施・評価する。</p> <p>2) 受け持ち患者の看護実践を通して、看護師に対しての相談、調整、倫理的調整を実施する。</p> <p>3. 実習の総括</p> <p>1) 受け持った患者の看護実践については、ケースレポートを作成する。</p> <p>2) 実施した教育、相談、調整、倫理的調整に関しては、各々適した記録用紙を用いて、簡潔にまとめる。</p> <p>3) 本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行い、事例の学びを深める。</p> <p>4) カンファレンスでの助言も含め実習のまとめとして、「がん薬物療法を受けるがん患者・家族の苦痛の緩和に関するがん看護専門看護師の役割・機能」についてのレポートを作成し、自己の実践能力や看護観・倫理観を洞察する。</p> <p><実習方法> 実習期間： 約3週間 実習場所・実習指導者： 奈良県立医科大学附属病院 がん看護専門看護師 梅岡京子 がん看護専門看護師 中濱絢 がん看護専門看護師 中村由美</p> <p>具体的な実習時期・内容・方法については、実習要項を参照する。</p> | | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修として、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で 自己の課題を考察してください。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40%：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30%：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30%：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価する。 | | |
| テキスト | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。 実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で 自己の課題を明確にできることを期待します。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美／升田 茂章 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------------------|---|
| 目的 | 再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有しているがん患者・家族に対して、高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いて、専門看護師としての倫理観に基づいて、質の高いケアを提供する実践能力を養う。さらに、緩和ケア領域における教育、相談、調整、倫理的調整が自立して行える能力を養う。 |
| 目標 | 再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有しているがん患者・家族に対して、高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いて、専門看護師としての倫理観に基づいて、質の高いケアを提供する実践能力を養う。さらに、緩和ケア領域における教育、相談、調整、倫理的調整が自立して行える能力を養う。 |
| 授業計画 | <p>1. 高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いた質の高いケア</p> <p>1) 緩和ケア病棟、都道府県がん診療連携拠点病院の一般病棟あるいは外来において、再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有しているがん患者1名以上を受け持ち、実習指導者および教員の指導のもと、最新の知識や概念・理論に基づいて、包括的、個別的な視点からアセスメントし、エビデンスに基づいた高度な看護実践を提供する。</p> <p>2) 包括的・個別的アセスメント、立案した看護計画、看護実践内容と結果、評価については、看護スタッフのカンファレンスなどに積極的に提示し、看護スタッフと連携して行う。</p> <p>2. 看護師を対象にした教育、相談、調整、倫理的調整</p> <p>1) 看護師の教育ニーズを把握し、学習目標、学習計画を立案し、講義を実施・評価する。</p> <p>2) 受け持ち患者の看護実践を通して、看護師に対しての相談、調整、倫理的調整を実施する。</p> <p>3. 実習の総括</p> <p>1) 受け持った患者の看護実践については、ケースレポートを作成する。</p> <p>2) 実施した教育、相談、調整、倫理的調整に関しては、各々適した記録用紙を用いて、簡潔にまとめる。</p> <p>3) 本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行い、事例の学びを深める。</p> <p>4) カンファレンスでの助言も含め実習のまとめとして、「緩和ケア領域におけるがん患者・家族の苦痛の緩和に関するがん看護専門看護師の役割・機能」についてのレポートを作成し、自己の実践能力や看護観・倫理観を洞察する。</p> <p><実習方法> 実習期間： 約3週間 実習場所・実習指導者： 社会医療法人松本快生会西奈良中央病院 がん看護専門看護師 中森由香 緩和ケア認定看護師 吉川真代 奈良県立医科大学附属病院 がん看護専門看護師 梅岡京子 がん看護専門看護師 中濱絢 がん看護専門看護師 中村由美</p> <p>具体的な実習時期・内容・方法については、実習要項を参照する。</p> |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修として、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で 自己の課題を考察してください。 |
| 評価方法・評価基準 | 実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40%：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30%：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30%：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価する。 |
| テキスト | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 参考図書 | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。 実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で 自己の課題を明確にできることを期待します。 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美／升田 茂章 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|------------------|--|
| 目的 | がん患者が住み慣れた自宅に、住み慣れた地域に最期まで過ごせるための多職種連携、がん患者の在宅療養支援に関するがん看護専門看護師の実践を行い、その役割・機能を考究する。 |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者に活用できる社会資源および多職種との医療連携について理解する。 2) 複雑な問題を抱えて在宅療養を希望するがん患者の在宅支援に関する高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いた質の高いケアを実践する。 3) がん患者が住み慣れた自宅に、住み慣れた地域に最期まで過ごせるための多職種連携、がん患者の在宅療養支援に関するがん看護専門看護師の役割・機能について洞察を深める。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者に活用できる社会資源および多職種との医療連携の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者に活用できる社会資源の内容、利用する際の具体的方法について学ぶ。 2) がん患者の退院支援・退院調整の場、退院合同カンファレンスに同席し、医療介護の多施設のスタッフが連携・協働するために行う方略、調整、連携の実際を学ぶ。 3) がん患者の訪問に同行し、訪問看護・在宅療養支援における調整・連携の実際を学ぶ。 4) 複雑な問題を抱えて在宅療養をしているがん患者の訪問に同行し、専門的知識を用いた包括的アセスメント、看護介入技術、評価などの問題解決思考過程について分析する。 5) がん患者の訪問診療場面に同席し、医師の指導のもと、患者の身体症状の管理および療養上の問題についての評価プロセスにおける臨床判断を学ぶ。 6) がん患者の訪問診療場面に同席し、医師の指導のもと、患者のフィジカルアセスメントを実施する。 2. 高度な知識と的確な臨床判断、熟練した看護技術を用いた質の高いケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 複雑な問題を抱えて在宅で暮らすがん患者1名以上を受け持ち、実習指導者および教員の指導のもと、最新の知識や概念・理論に基づいて、包括的、個別的な視点からアセスメントし、エビデンスに基づいた高度な看護実践を提供する。 2) 地域包括ケアシステムの視点をもって対象者（患者および家族）を理解したうえで包括的・個別的アセスメント、立案した看護計画、看護実践内容と結果、評価については、看護スタッフのカンファレンスなどに積極的に提示し、看護スタッフと連携して行う。 3. 実習の総括 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者の退院支援・退院調整の場、退院合同カンファレンスで見学した結果をもとに臨床判断を行い、ケースレポートとしてまとめる。 2) 本実習のまとめとして、実習指導者および教員を交えた学生主体のカンファレンスを計画し、プレゼンテーションを行う。 3) カンファレンスでの助言も含めて、「がん患者が住み慣れた自宅に、住み慣れた地域に最期まで過ごせるための多職種連携、がん患者の在宅療養支援」についてレポートを作成し、自己の課題を考察する。 <p><実習方法> 実習期間：約3週間</p> <p>実習場所・実習指導者：公益社団法人奈良県看護協会橿原訪問看護ステーション リンクハート株式会社ゆい訪問看護ステーション 訪問看護CN：伊藤絹枝 訪問看護CN：森本広子</p> <p>【訪問看護ステーションと主に連携しているクリニック・病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちゅうわ往診クリニック（橿原市：院長 河田安浩医師） ・社会医療法人健全会大福診療所（桜井市：所長 朝倉健太郎医師） ・公益社団法人地域医療振興協会明日香村国民健康保険診療所（高市郡明日香村：所長 武田以知郎医師） ・きむクリニック（大和高田市：院長 金東実医師） ・医療法人坂根医院（磯城群田原本町：院長 坂根俊輔医師） ・大和高田市立病院（大和高田市 がん診療連携支援病院） ・社会医療法人健全会土庫病院（大和高田市 在宅療養支援病院、退院調整加算届出病院） ・奈良県立医科大学附属病院（橿原市 がん診療連携拠点病院） など <p>具体的な実習時期・内容・方法については、実習要項を参照する。</p> |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修として、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。 事後学修として、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を考察してください。 |
| 評価方法・評価基準 | 実習目標に基づいて、自己評価および他者評価（40%：積極性・適切性）を行う。また、カンファレンスの内容（30%：積極性・適切性）、ケースレポートの内容（30%：論理性・一貫性・適切性）を総合して評価す |

| | |
|------------|---|
| | る。 |
| テキスト | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 参考図書 | 実習の中で適宜紹介し、資料を配布する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 実習前にあらかじめ、学習課題に関する文献・レポート・看護技術などの準備および自己の課題・実習目標を明確にしてください。実習中は、主体的に実習場所の実習指導者やスタッフ、教員に相談をして、自己の実習目標が達成できるよう努力してください。実習終了後は、学修内容を総括して、今後がん看護専門看護師としてどのように活動を広げていくのかという視点で自己の課題を明確にできることを期待する。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田中 登美 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | がん看護学領域の自分の関心のある現象や援助に関して、がん看護領域の研究に必要な概念や理論、専門的知識を用いて、研究計画書を作成する力およびデータの収集力・解釈・分析力、結果を統合する力、論理的思考力を身につけるとともに、プレゼンテーション能力を習得する。一連の過程を通して、研究能力の基礎を養う。 | | |
|------------------|--|------|------|
| 目標 | 1) がん看護領域の自分の関心領域における研究課題を見出すことができる。 2) 研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 3) 研究の倫理的配慮について学び、倫理申請書類を作成できる。 4) 研究に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 5) 研究のプロセスにそって研究を行い、成果を論文としてまとめることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1～4 自分の関心のある現象や援助から研究課題を明確にする。 | 演習 | 田中登美 |
| | 5～8 研究課題をもとに文献研究を行い、研究課題を明確にする。 先行文献をクリティークする。 | 演習 | 田中登美 |
| | 9～12 研究課題から研究方法を選択し、研究計画書を作成する。 倫理申請書を作成し、倫理審査を受ける。 | 演習 | 田中登美 |
| | 13～16 研究環境を整備し、データを収集する。 | 演習 | 田中登美 |
| | 17～20 収集したデータを分析する。 | 演習 | 田中登美 |
| | 21～25 分析した結果をまとめる。 研究課題にそって分析結果を整理する。 研究結果から新たな知見を明らかにする。 | 演習 | 田中登美 |
| | 26～30 成果物を論文としてまとめる。 | | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修として、がん看護学に関する興味のあるテーマ、現象などについて、自分のことばでまとめておいてください。 事後学修として、修了後の研究計画を立てましょう。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、課題研究論文の作成など総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 特に指定しない。 | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | がん看護学特論で学んだ概念・理論、がん看護学援助論を基盤として、主体的に研究プロセスをふむことにより、研究の意義を実感できることを期待します。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／中川 雅史／阿部 龍一／位田 みつる／内藤 祐介／奥田 千愛／小川 裕貴／西和田 忠／岡本 直子／佐藤 眞理子／川西 秀明／石澤 美保子 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 周麻酔期看護を取り巻く現状について理解する。また、必要となる看護ケアを実践するために、周麻酔期の管理について必要な基礎知識を習得する。 | | |
|------------------|--|------|-----|
| 目標 | 周麻酔期の管理についての基本知識を知る。 全身麻酔、局所麻酔に伴う生体反応と術前・術後の周麻酔期看護を取り巻く現状について理解する。また、必要となる看護ケアを実践するために、周麻酔期の管理について必要な基礎知識を習得する。 全身管理について学ぶ。医療安全管理に必要な知識について学ぶ。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 オリエンテーション 周麻酔期とは、周術期看護師の役割・業務 | 講義 | 川口 |
| | 2 全身麻酔 | 講義 | 阿部 |
| | 3 区域麻酔 一脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔 | 講義 | 阿部 |
| | 4 麻酔を受ける患者の術前評価と看護、術前の薬剤とその管理、 注意すべき患者とその評価 | 講義 | 位田 |
| | 5 麻酔とモニタリング | 講義 | 阿部 |
| | 6 人工呼吸、気管チューブによる呼吸管理 | 講義 | 内藤 |
| | 7 人工呼吸器のメカニズム、種類、構造と管理 | 講義 | 川西 |
| | 8 動脈血液ガス分析と橈骨動脈確保 | 講義 | 奥田 |
| | 9 中心静脈カテーテルの安全管理 | 講義 | 中川 |
| | 10 周術期肺塞栓予防策 | 講義 | 小川 |
| | 11 輸液管理 | 講義 | 恵川 |
| | 12 輸血と止血凝固 | 講義 | 内藤 |
| | 13 術後疼痛管理 一疼痛評価と管理の実際 | 講義 | 岡本 |
| | 14 術後早期合併症 一術後嘔気嘔吐、嘔声とその対策 | 講義 | 佐藤 |
| | 15 周術期の創傷管理 | 講義 | 石澤 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |

| | |
|------------|---|
| 評価方法・評価基準 | 授業参加度20～30%、プレゼンテーション50～60%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート10～30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 |
| テキスト | 適宜資料を配布、提示する |
| 参考図書 | 社団法人日本麻酔科学会編：周術期管理チームテキスト、川口昌彦、チーム医療による周術期管理まるわかり、羊土社 |
| 学生へのメッセージ等 | 基本的な周麻酔期管理の知識を身につけてもらいます。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／内藤 祐介／紀之本 茜 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 医師国家試験の麻酔科に関する問題を臨床問題形式で解くことによって得た医師の視点からの診断・治療方法をもとに、周術期での実践的な周麻酔期の看護の方法を考える。 | | |
|------------------|--|------|--------|
| 目標 | 医師国家試験の麻酔科の問題を解くために必要な基礎知識を学習する（力の300題 麻酔科統合講義 真興交易（株）医書出版部） 医師の視点からの診断・治療判断方法（ガイドラインなど）を確認する。 周麻酔期に臨床的に必要な看護内容を考える力を養成する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 麻酔の安全 安全な麻酔のための機器やガイドラインについて理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 2 気道確保法 声門上器具、気管挿管、外科的気道確保について理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 3 局所麻酔、区域麻酔 局所麻酔薬の作用と使用法、合併症について理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 4 麻酔薬の薬理 全身麻酔薬の薬理作用について理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 5 薬物投与 中心静脈路確保法と投与薬物の計算法について理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 6 呼吸不全と血液ガス 動脈血ガス分析について活用法を理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 7 小児、妊婦、高齢者の麻酔 小児、妊婦、高齢者の麻酔について特徴を理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 8 合併症患者の麻酔 呼吸器、循環器、他疾患の麻酔について理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 9 術後管理と合併症 術後早期の管理と合併症について理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 10 バイタルサイン バイタルサイン、各種急性期スコアの評価を理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 11 ショック 各種ショックの原因、鑑別、治療について理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 12 周術期合併症 肺塞栓や循環器合併症について理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 13 輸血 各種輸血製剤と疾患・手術ごとの使用法を理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 14 医の倫理 医の倫理、医療安全、終末期倫理、緩和医療を理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| | 15 心肺蘇生 AHA-ACLSについて理解する | 講義 | 紀之本/内藤 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加度20～30%、プレゼンテーション50～60%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート10～30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。全講義終了後に試験を実施する。筆記試験 | | |

| | |
|------------|-----------------------------|
| | 70%以上をもって合格とする。 |
| テキスト | 力の300題 麻酔科総合講義 真興交易（株）医書出版部 |
| 参考図書 | 力の300題 麻酔科総合講義 真興交易（株）医書出版部 |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／阿部 龍一／位田 みつる／恵川 淳二／植村 景子／吉谷 健司／小川 裕貴／木本 勝大／園部 奨太／内藤 祐介／井上 聡己／西和田 忠／紀之本 茜 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 周麻酔期看護に必要な看護ケアを実践するために、特殊な麻酔管理に必要な基礎知識を習得する。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 周麻酔期看護に必要な、各手術における特殊性を理解し、その管理に必要な知識を習得する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 術中神経モニタリングと麻酔 | 講義 | 川口 |
| | 2 困難気道患者と緊急気道確保 | 講義 | 阿部 |
| | 3 頸動脈疾患の麻酔 | 講義 | 位田 |
| | 4 帝王切開の麻酔 | 講義 | 位田 |
| | 5 術後呼吸モニタリング | 講義 | 恵川 |
| | 6 Awake craniotomyの麻酔 | 講義 | 植村 |
| | 7 心臓血管手術の麻酔 | 講義 | 吉谷 |
| | 8 小児麻酔のポイント | 講義 | 小川 |
| | 9 局所麻酔中毒とその対応 | 講義 | 木本 |
| | 10 胸腹部大動脈瘤手術の麻酔 | 講義 | 阿部 |
| | 11 超音波ガイド下血管確保 | 講義 | 園部 |
| | 12 小児心臓手術の基礎 | 講義 | 内藤 |
| | 13 アナフィラキシーとその対応 | 講義 | 井上 |
| | 14 無痛分娩 | 講義 | 紀之本 |
| | 15 持続血液濾過透析 | 講義 | 西和田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加度20～30%、プレゼンテーション50～60%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート10～30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 適宜資料を配布、提示する | | |

| | |
|------------|---|
| 参考図書 | 社団法人日本麻酔科学会編：周術期管理チームテキスト。 川口昌彦. チーム医療による周術期管理まるわかり. 羊土社 その他、適宜紹介 |
| 学生へのメッセージ等 | 周麻酔期管理における各特殊管理についてしっかり学習してください。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|------------------------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／田中 優／内藤 祐介／位田 みつる／吉田 奏 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 周麻酔期看護に必要な統計学と研究デザインについて理解する | | |
|------------------|--|------|-------|
| 目標 | 周麻酔期看護に必要な、統計学と研究デザインについて習得する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 なぜ統計学を学ぶと良いか？ 臨床研究と統計学 | 講義 | 田中 |
| | 2 統計学の基礎 データのタイプ、平均、分布 | 講義 | 田中 |
| | 3 統計学の基礎 2 統計手法の選び方、仮説検定 | 講義 | 田中 |
| | 4 相関係数と相関の検定 2つの変数の関係、二群間の検定 | 講義 | 田中 |
| | 5 3群以上の差の検定 一元配置分散分析、多重比較法 | 講義 | 田中 |
| | 6 回帰分析・重回帰分析 疫学 1 変数間の関係を知りたい | 講義 | 田中 |
| | 7 多重ロジスティック回帰分析 疫学 2 2値のアウトカムに与える変数の影響をみる | 講義 | 田中 |
| | 8 診断や検査に必要な統計指標 感度 特異度 ROC曲線 | | 田中 |
| | 9 研究デザイン 1 Clinical Questionから研究課題を作成する | | 位田・内藤 |
| | 10 研究デザイン 2 文献検索を通して、過去の類似研究を把握する | | 位田・内藤 |
| | 11 研究デザイン 3 前向き（コホート、RCT、クロスオーバーなど）、後向き研究を理解する | | 位田・内藤 |
| | 12 研究デザイン 4 臨床研究法や遵守すべき研究倫理について理解する | | 位田・内藤 |
| | 13 研究デザイン 5 サンプルサイズ計算方法について理解する | | 位田・内藤 |
| | 14 研究デザイン 6 研究プロトコルの作成方法について理解する | | 位田・内藤 |
| | 15 周術期看護師の活動と患者アウトカム | | 吉田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加度20～30%、プレゼンテーション50～60%（妥当性・適切性・資料作成・発表内容と方法）、課題レポート10～30%（理論性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。周麻酔期看護学特論IV修了後に、奈良県立医科大学付属病院高度医療技術者認定に必要な筆記試験を実施する。試験は周麻酔期看護特論の内容を中心に、周術期管理に必要な知識を幅広く問う（別途試験出題範囲については公示する）。筆記試験は70%以上 | | |

| | |
|------------|---|
| | の正答をもって合格判定を行う。 |
| テキスト | 適宜資料を配布、提示する |
| 参考図書 | 社団法人日本麻酔科学会編：周術期管理チームテキスト。 川口昌彦．チーム医療による周術期管理まるわかり．羊土社 |
| 学生へのメッセージ等 | 麻酔科関連領域の実践における知識や管理法を身につけてもらいます。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／阿部 龍一／内藤 祐介／位田 みつる | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------------------|---|
| 目的 | 周麻酔期看護師として基本とされる知識ならびに技術についてシミュレーションを通し獲得する。 |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・下記に掲げた手技における技能の取得 ・下記に掲げた手技実施時に周麻酔看護師として遵守する必要がある手順書の理解 ・下記に掲げた手技に必要な知識（解剖生理、適応、禁忌、発生しうる合併症とその対策方法）の獲得。 ・手技を実施するにあたり、必要となる患者の心身ケアの取得 |
| 授業計画 | <p>以下の周麻酔期看護師に必要な技能および必要な知識（解剖生理、発生しうる合併症とその対策法）についてシミュレーション教育をもとに習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 気管挿管（困難気道への対応含む） 2) 声門上器具 3) 末梢静脈確保 4) 橈骨動脈直接穿刺法による動脈血採血 5) 橈骨動脈ライン確保 6) 中心静脈カテーテル挿入 <p>また、麻酔関連の検討会に参加することにより実際の症例の管理方法などについて学ぶ。</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当者：阿部、内藤、位田、恵川、西和田、井上、川口、石澤</p> |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | |
| 評価方法・評価基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加度・実習への取り組み度・修得度で総合的に評価 ・手技の習得度については、シミュレーターを用いて評価を行う。全ての手技において合格水準に達したのちに周麻酔器看護学実習 I を開始する。 |
| テキスト | 適宜紹介 |
| 参考図書 | 適宜紹介 |
| 学生へのメッセージ等 | 周麻酔期に実施する頻度の高い基本的手技をシミュレーションを通じて獲得してもらいます。その際、必要となる守るべき手順や理解しておくべき法令や根拠についてもしっかり理解しましょう。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／内藤 祐介／位田 みつる／紀之本 茜／岡本 直子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------------------|---|
| 目的 | 周麻酔期看護師として必要とされる知識ならびに技術についてシミュレーションを通し獲得する。また、術前データを取集、麻酔計画の立案、症例検討などにより問題解決能力を身につける。 |
| 目標 | 安全な看護ケアの提供に必要な知識ならびに技術を習得する。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 術前患者評価と麻酔説明シミュレーション 2) 術後患者の評価と合併症への対応 3) 疼痛評価方法 4) 手術室外での麻酔シミュレーション 5) 無痛分娩施行中の妊婦の評価方法 6) MRI、内視鏡などにおける鎮静 <p>授業形態：演習</p> <p>担当者：内藤、位田、岡本、紀之本、恵川、西和田、川口</p> |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | |
| 評価方法・評価基準 | 参加度・実習への取り組み度・修得度で評価 ペーパーペイシエントを用いて、上記課題に対して複数のシナリオを用意し演習を実施する。 |
| テキスト | 適宜紹介 |
| 参考図書 | 適宜紹介 |
| 学生へのメッセージ等 | 演習で実施するいくつかのシミュレーションは実際に周麻酔看護師は実施が認められていないものも含まれますが、これらの手技をシミュレーションを通じて経験しておくことで、多職種間でのコミュニケーションが図やすくなります。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／内藤 祐介 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|------------------|--|
| 目的 | 早期実践につなげる為、合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般について実習を通して学ぶ。その中から周麻酔期看護師の役割や必要性について考える。 |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般を麻酔科指導医の指導のもとで実施し、周麻酔期看護を科的、安全な看護方法で実施する。 ・周麻酔期看護学演習 I で合格水準に達した手技について安全に実践する。 <p>【手技必要経験数】（全て周麻酔器看護学実習 I ーⅢでの合計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ASA-PS 1-2の患者の全身麻酔管理 50例 ・侵襲的陽圧換気の設定の変更 50例 ・人工呼吸期からの離脱 50例 ・脱水症状に対する輸液による補正 50例 ・持続点滴中の糖質輸液または電解質輸液の投与量の調整 50例 ・末梢静脈確保 30例 ・用手マスク換気 50例 ・気管内挿管 30例 ・声門上器具挿入 30例 ・橈骨動脈直接穿刺法による採血 5例 ・橈骨動脈ライン確保 15例 ・硬膜外カテーテルからの薬剤投与 15例 ・気管支ファイバー検査補助 5例 ・経食道心エコー検査補助 5例 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔科指導医のもとで、術中の麻酔管理の実際を学ぶ 2) 麻酔科指導医のもとで、麻酔導入の実際とその注意点について学ぶ 3) 麻酔科指導医のもとで、麻酔終了と抜管の実際について学ぶ 4) 麻酔科指導医とともに、術前評価をもとに個々の患者に応じた麻酔プランを作成し実践する。 5) 麻酔科指導医の指導のもとで周麻酔看護学演習 I で合格水準に達した手技の実習を行う。 <p>授業形態：実習</p> <p>担当者：内藤、恵川、西和田、渡邊、井上、川口、石澤</p> |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | |
| 評価方法・評価基準 | 参加度・実習への取り組み度・修得度で評価 |
| テキスト | 適宜紹介 |
| 参考図書 | 適宜紹介 |
| 学生へのメッセージ等 | 周麻酔期管理としてその核となる手術室での麻酔・手術の実際について担当教官のもとで学習してもらいます。 |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|------------------|--|-----|--------|
| 前期 | 2 | 6 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／内藤 祐介 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| 目的 | 周麻酔期看護学実習Ⅰで修得した内容を踏まえ、合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般について実習を通して学ぶ。その中から周麻酔期看護師の役割や必要性について考え、重症患者管理へ向けての基礎作りを行う。 | | |
| 目標 | 合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般を麻酔科指導医の指導のもとで実施し、周麻酔期看護を科学的、安全性な看護方法で実施する。 【必要経験数】（全て周麻酔器看護学実習Ⅰ―Ⅲでの合計） ・術前患者訪問 50例 ・術後患者診察 50例 ・ASA-PS 3以上の患者の麻酔管理の見学 10例 | | |
| 授業計画 | 1) 麻酔科指導医の指導のもと、術前の患者評価について学ぶ 2) 麻酔科指導医の指導のもと、術後患者の合併症評価とその対応について学ぶ 3) 麻酔科指導医の指導のもと、術中麻酔管理について実践する 4) 緊急手術などハイリスク患者の麻酔管理の実際を学ぶ 5) 麻酔科指導医のもとで痛みの治療の実際について学ぶ 授業形態：実習 担当者：内藤、恵川、西和田、渡邊、井上、園部、川口 | | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 参加度・実習への取り組み度・修得度で評価 | | |
| テキスト | 適宜紹介 | | |
| 参考図書 | 適宜紹介 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 周麻酔期看護実習Ⅱは実習Ⅰの内容を踏まえて、より広範囲に周術期患者について学ぶことを目的としています。具体的には麻酔中のみならず、入院から退院まで周術期管理について麻酔科医の個別指導を中心に学修していただきますので事前学習を十分にしてください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|------------------|---|-----|--------|
| 前期 | 2年 | 6 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／内藤 祐介 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| 目的 | 産科・小児・心臓など特殊な麻酔事例の周麻酔期管理、緊急手術などハイリスク麻酔管理、集中治療における重症患者の管理の実際について実習を通し学ぶ。その中から周麻酔期看護の役割について考えることができる。 | | |
| 目標 | 産科・小児・心臓手術など特殊な麻酔事例、緊急手術などハイリスク症例の麻酔管理、集中治療における重症患者の管理について麻酔科指導医の下で実践する。 【必要経験数】（全て周麻酔器看護学実習Ⅰ～Ⅲでの合計） ・小児麻酔の見学 10例 ・産科麻酔の見学 10例 ・呼吸器外科麻酔の見学 10例 ・心臓血管外科麻酔の見学 10例 | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔科指導医のもとで妊婦の術前～術後の麻酔管理の実際を学ぶ 2) 麻酔科指導医のもとで小児患者の術前～術後の麻酔管理の実際を学ぶ 3) 麻酔科指導医のもとで心臓手術患者の術前～術後の麻酔管理の実際を学ぶ 4) 麻酔科指導医のもとで呼吸器外科手術患者の術前～術後の麻酔管理の実際を学ぶ 5) 麻酔科指導医のもとで集中治療における重症患者の管理の実際について学ぶ <p>授業形態：実習</p> <p>担当者：内藤、恵川、西和田、位田、井上、川口</p> | | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 参加度・実習への取り組み度・修得度で評価 | | |
| テキスト | 適宜紹介 | | |
| 参考図書 | 適宜紹介 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 周麻酔期管理における特殊症例や緊急症例などを学習することで、より深い知識と対応能力を修得するようにしてください。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---------------------------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 川口 昌彦／内藤 祐介／位田 みつる／石澤 美保子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 周麻酔期の全身管理、麻酔管理に必要な知識・技術に関する研究課題を見出し、研究計画書を作成したうえで研究に取り組み、論文形式でまとめる。 | | |
|------------------|---|-------|---|
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 周麻酔期に関する変遷や現状を分析し、課題を明確にできる。 2) 課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3) 研究課題を解決するために最も適切で実施可能な研究方法を選択し、研究計画書を作成できる。 4) 研究の倫理指針について学び、倫理申請書類が作成できる。 5) 課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 6) 信頼性・妥当性のある分析ができる。 7) 分析結果を踏まえ、適切な考察ができる。 8) 研究成果を修士論文としてまとめることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1~30 <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究課題の明確化 これまで周麻酔期看護学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、周麻酔期医療を取り巻く現状を分析し、取り組むべき課題を検索する。 2) 研究論文のクリティーク 明らかになった課題について、国内外の研究論文のクリティークを行い、研究状況を把握する。 3) 研究方法の選択 課題の解明あるいは探求に適したデータの収集および分析の方法について学習する。 4) 研究計画書の作成 研究計画書を作成する方法を学習し、研究計画書を作成する。また、研究者として必要な倫理観について理解を深める。 | 講義・演習 | 川口 井上 田中 恵川 西和田 内藤 位田 石澤 |
| | 31~60 <ol style="list-style-type: none"> 5) データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 6) データ分析・論文作成 データに適した信頼性・妥当性のある手法を用いて、分析を進める。 先行研究の検討を踏まえ、分析結果を多角的に検討し考察を深め、修士論文としてまとめる。 | 講義・演習 | 川口 井上 田中 恵川 西和田 内藤 位田 石澤 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み態度、研究計画書の作成、中間報告、研究成果（修士論文）から総合的に評価する | | |
| テキスト | 適宜資料を掲示、配布する | | |
| 参考図書 | 適宜掲示する | | |
| 学生へのメッセージ等 | 研究課題を通じて、研究の実施法を学習するとともに科学的な視点で診療ができるような姿勢を身につけてもらいます。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 女性健康学に関する課題に対して研究計画書を作成したうえで、研究に取り組む。その研究プロセスを経て、看護・助産の実践に役立つ知見や支援方法を明らかにし、課題研究を完成する。 | | |
|------------------|---|------|-----|
| 目標 | 1) 女性の健康に関する変遷や現状を分析し、課題を明確にできる。 2) 課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3) 研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 4) 課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 5) 研究プロセスに沿って研究を実施し、研究成果を課題研究としてまとめることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1～14 1) 研究課題の明確化 これまで女性健康学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、女性の健康に関する自己の研究課題を明確化する。 2) 研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。 先行研究をシステムティックに検索し、適切にクリティークする。そこから自己の研究課題を絞る。 3) 研究方法の選択・研究計画書作成 研究課題の解決に適した研究方法を選択し、実施可能な研究計画書を作成する。 | 演習 | 五十嵐 |
| | 15～30 4) データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 5) データ分析・論文作成 信頼性・妥当性のあるデータ分析を行う。 先行研究の結果も踏まえながら、自己の研究結果について考察を深め、研究成果を課題研究として作成する。 | 演習 | 五十嵐 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究に取り組む姿勢、研究計画書の作成、課題研究作成までの進捗状況、論文提出とその完成度にて評価する。 | | |
| テキスト | 適宜資料を提示、配布する。 | | |
| 参考図書 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 通年 | 2年 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 周産期看護学に関する課題に対して研究計画書を作成したうえで、研究に取り組む。その研究プロセスを経て、看護・助産の実践に役立つ知見や支援方法を明らかにし、課題研究を完成する。 | | |
|------------------|--|------|-----|
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 周産期看護に関する変遷や現状を分析し、課題を明確にできる。 2) 課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。 3) 研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。 4) 課題に必要なフィールドを開拓し、適切なデータを収集することができる。 5) 研究プロセスに沿って研究を実施し、研究成果を課題研究としてまとめることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1～14 1) 研究課題の明確化 これまで周産期看護学特論・演習を通して学んだことを踏まえ、周産期看護に関する自己の研究課題を明確化する。 2) 研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。 先行研究をシステムティックに検索し、適切にクリティークする。そこから自己の研究課題を絞る。 3) 研究方法の選択・研究計画書作成 研究課題の解決に適した研究方法を選択し、実施可能な研究計画書を作成する。 | 演習 | 五十嵐 |
| | 15～30 4) データ収集 適切なデータを得るためのフィールドを開拓し、データを収集する。 5) データ分析・論文作成 信頼性・妥当性のあるデータ分析を行う。 先行研究の結果も踏まえながら、自己の研究結果について考察を深め、研究成果を課題研究として作成する。 | 演習 | 五十嵐 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |
| 評価方法・評価基準 | 研究への取り組み姿勢、研究計画書の作成、中間報告、課題研究作成までの進捗状況、論文提出とその完成度にて評価する。 | | |
| テキスト | 適宜資料を配布する。 | | |
| 参考図書 | 適宜提示する。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子／飯田 順三／小笹 由香／高橋 律子／羽竹 勝彦 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 助産の基本概念と理論、母子保健および助産の変遷と課題、助産学教育の動向など、現代の助産を取り巻く状況を把握し、あるべき助産および助産学の方向性について理解を深める。 | | |
|------|--|-------|--------------|
| 目標 | 1) 助産の概念について理解できる。 2) 助産の歴史や母子保健の動向について説明できる。 3) 助産および助産学の将来展望について理解できる。 4) 助産活動に必要な母性心理・社会について理解できる。 5) 安心して子どもを産み育てるために他職種との連携と調整および必要な社会資源の活用について説明できる。 6) 助産師としての役割・責務を自覚し、専門職として自律する能力について理解できる。 7) 女性と子どもおよびその家族の尊厳と権利を尊重する倫理観を養う。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 2021年4月12日(月) 3限目 助産の起源と変遷 助産の定義・責務と裁量権 | 講義 | 五十嵐 |
| | 2 2021年4月19日(月) 3限目 助産活動を支える理論・概念 | 講義 | 五十嵐 |
| | 3 2021年5月26日(水) 3限目 母子の健康に影響を及ぼす要因 | 講義 | 五十嵐 |
| | 4 2021年5月7日(金) 3限目 遺伝看護における助産師の役割1 | 講義 | 小笹 |
| | 5 2021年5月7日(金) 4限目 遺伝看護における助産師の役割2 | 講義 | 飯田 |
| | 6 2021年5月13日(木) 3限目 発達障害の子どもと、その子どもを育てる母親の理解 | 講義 | 飯田 |
| | 7 2021年5月17日(月) 4限目 周産期における母親のメンタルヘルス | 講義 | 飯田 |
| | 8 2021年5月24日(月) 3限目 児童虐待の現状と支援 | 講義 | 吉岡(ゲストスピーカー) |
| | 9 2021年5月24日(月) 3限目 性と性行動 | 講義 | 五十嵐 |
| | 10 2021年6月7日(月) 3限目 周産期における法律と法医学 | 講義 | 羽竹 |
| | 11 2021年6月7日(月) 4限目 法医学における助産師の役割 | 講義 | 羽竹 |
| | 12 2021年6月9日(水) 2限目 地域における助産師の様々な活動 | 講義 | 高橋 |
| | 13 2021年6月14日(月) 3限目 助産師の教育 | 講義 | 脇田(ゲストスピーカー) |
| | 14 2021年6月14日(月) 4限目 助産師の倫理 | 講義 | 脇田(ゲストスピーカー) |
| | 15 2021年6月21日(月) 女性中心の助産ケアと共同意思決定 継続支援 | 講義・演習 | 五十嵐 |

| | |
|------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学習：授業内容について教科書の該当範囲を読んでおく 事後学習：授業内容をまとめる |
| 評価方法・評価基準 | 授業参加度（30%）、定期試験（70%） |
| テキスト | 助産学講座 基礎助産学[1]助産学概論 医学書院 助産学講座 基礎助産学[2]母子の基礎科学 医学書院 助産学講座 基礎助産学[3]母子の健康科学 医学書院 助産学講座 基礎助産学[4]母子の心理・社会学 医学書院 助産師業務要覧〈1〉基礎編 日本看護協会出版会 助産師業務要覧〈2〉実践編 日本看護協会出版会 |
| 参考図書 | 「少子化社会対策白書」 内閣府 院内助産・助産師外来ガイドライン 日本看護協会 |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 乾 つぶら／産婦人科医師 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 周産期における母子の正常な経過と健康逸脱の予防、異常予測のヘルスアセスメント、及び、ケアに必要な知識・技術を理解する。 さらに、周産期における母子とその家族への助産師としての支援のあり方について考察する。 | | |
|------------------|---|------|--------|
| 目標 | 1) 周産期における母子の正常な経過と健康逸脱の予防、異常予測のヘルスアセスメントとケアに必要な知識・技術を理解できる。 2) 周産期における母子とその家族の個性に応じた援助とは何か、助産師としての支援のあり方を考えることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 女性性周期、妊娠の成立、出生前診断 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 2 妊娠期の経過と診断（母体の健康・胎児の発育・胎児付属物の状態） | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 3 妊娠期の経過と診断（診察・臨床検査・超音波検査） | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 4 助産活動の基礎となる知識・技術1 | 講義 | 乾 |
| | 5 助産活動の基礎となる知識・技術2 | 講義 | 乾 |
| | 6 助産診断とは | 講義 | 乾 |
| | 7 分娩第1期の特性と分娩開始に関する診断・技術 | 講義 | 乾 |
| | 8 分娩経過と分娩予測の助産診断 | 講義 | 乾 |
| | 9 分娩機転と産痛のメカニズム | 講義 | 乾 |
| | 10 分娩第2期の特性とフィジカルアセスメント技術 | 講義 | 乾 |
| | 11 分娩第3期の特性とフィジカルアセスメント技術 | 講義 | 乾 |
| | 12 妊娠分娩の評価と産褥期・新生児期の経過予測 | 講義 | 乾 |
| | 13 産後/生後の健康診査 | 講義 | 乾 |
| | 14 周産期における助産過程1 | 講義 | 乾 |
| | 15 周産期における助産過程2 | 講義 | 乾 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | ガイダンスで提示する。 | | |

| | |
|------------|---|
| 評価方法・評価基準 | <p>評価方法：講義演習への参加40%、提出課題40%、筆記試験20%</p> <p>評価基準：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義演習への参加は、プレゼンテーション、発表、討論内容、運営全体への貢献度で評価する。 ・提出課題はレポートと助産過程に関する課題で、レポートはテーマに沿って論理的に論述し、焦点を明確にしたサブタイトルをつけ、簡潔明瞭に深めることができているか。 ・筆記試験は助産学に必要な医学的知識を選択式・記述式で評価する。 |
| テキスト | <p>最新産科学正常編：荒木勤 文光堂 改訂第22版 最新産科学異常編：荒木勤 文光堂 改訂第22版 助産学講座2：母子の基礎科学 医学書院 助産学講座3：母子の健康科学 医学書院 助産学講座4：母子の心理・社会学 医学書院 助産学講座5：助産診断・技術学Ⅰ 医学書院 助産学講座6：助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 医学書院 助産学講座7：助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院 実践マタニティ診断：日本助産診断・実践研究会編 医学書院 産婦人科診療ガイドライン 産科編2020 日本産婦人科学会 助産業務ガイドライン 2019</p> |
| 参考図書 | <p>今日の助産第3版 北川真理子・内山和美編 南江堂 助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア、新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第7巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 他、講義の際に紹介予定</p> |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 西久保 敏也／上田 佳世 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 胎児、新生児の発育・発達や生理的特徴について理解を深め、ヘルスアセスメント及びケアに必要な知識と評価方法について学習する。また、新生児医療の背景と胎児新生児学における倫理を学ぶ。 | | |
|------------------|--|-------|-----|
| 目標 | 1) 胎児期の身体的発育および機能の発達について説明できる。 2) 新生児の生理的特徴や胎外生活適応過程について理解を深め、必要なケアについて説明できる。 3) ハイリスク新生児やNICU入院児の管理とその家族への支援について説明できる。 4) 新生児医療における生命倫理について説明できる。 5) 胎児・新生児期に発症しやすい異常とその病態・検査・治療について説明できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 2021年4月16日（金） NICU入院児の管理 | 講義・演習 | 西久保 |
| | 2 2021年4月23日（金） 発育・発達とその評価 胎児・新生児の発育、成熟度の判定法 | 講義・演習 | 西久保 |
| | 3 2021年5月14日（金） 新生児診断学 新生児の診察法、新生児に特徴的な所見 | 講義・演習 | 西久保 |
| | 4 2021年5月21日（金） 新生児診断学 母体・胎児情報の読み方、異常所見及び検査結果の読み方 | 講義・演習 | 西久保 |
| | 5 2021年5月28日（金） 新生児の養護と管理 正常新生児の管理・ハイリスク新生児の管理 | 講義・演習 | 西久保 |
| | 6 2021年6月25日（金） 新生児の特徴と臨床 内分泌、代謝、呼吸器、循環器、黄疸、血液、免疫 | 講義・演習 | 西久保 |
| | 7 2021年7月2日（金） NICU/GCUでのケア | 講義・演習 | 上田 |
| | 8 2021年7月9日（金） 新生児医療の現状と生命倫理 | 講義・演習 | 西久保 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 各講義で提示する課題を指定した期日までに取り組んでおいてください。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 授業に対する態度と姿勢（20%）、筆記試験（80%）から総合して評価します。 | | |
| テキスト | 日本新生児成育医学会（編）：新生児学テキスト（メディカ出版） 細野茂春監修：新生児蘇生法テキスト第3版 日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく（メジカルビュー社） 仁志田博司編：新生児学入門 第5版（医学書院） | | |
| 参考図書 | Neonatal Network-The Journal of Neonatal Nursing-Spring Publishing Company：大学図書からダウンロード可能 助産診断・技術学Ⅱ【3】新生児期・乳幼児期（医学書院） 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア、新生児期・乳幼児期のケア（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア（日本看護協会出版会） | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 上田 佳世 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 周産期にある女性とその家族が生涯を通してより健康な生活できるよう最善の支援を提供するための理論や技術を学ぶ。対象者の価値観や思考に応じた健康教育の方法に対する理解を深め、それに必要な助産実践の技術を学修する。 | | |
|------------------|---|-------|-----|
| 目標 | 1) 対象者のライフステージに応じた内容、方法、コミュニケーション技術、理論を用いて、個別性がある健康教育を理解できる。 2) 個人または集団への健康教育を企画し、発表できる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 健康教育の基本 | 講義・演習 | 上田 |
| | 2 対象者とのコミュニケーション | 講義・演習 | 上田 |
| | 3 対象者個人への関わり方と個別的な健康教育 健康行動理論 | 講義・演習 | 上田 |
| | 4 健康教育の事前準備 | 講義・演習 | 上田 |
| | 5 健康教育の実践 | 講義・演習 | 上田 |
| | 6 集団健康教育の基本 | 講義・演習 | 上田 |
| | 7 集団健康教育の健康教育 | 演習 | 上田 |
| | 8 集団健康教育の健康教育 計画立案・発表 | 演習 | 上田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前・事後学修：各講義・演習で提示する課題を指定した日程までに取り組みでお願いいたします。 | | |
| 評価方法・評価基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習や課題への取り組み（主体性・積極性・協調性）30% ・発表 20% ・グループワークでの取り組み 20% ・健康教育計画等のレポート 30% 上記の項目を総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 助産学講座5助産診断・技術学Ⅰ：我部山キヨ子、武谷雄二編。医学書院 | | |
| 参考図書 | 講義の際に紹介します。 | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 森兼 眞理 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 母子保健行政の現状と動向を理解する。また国内および諸外国の母子保健の現状を理解する。 | | |
|------------------|---|--------------------|----------|
| 目標 | 1) 地域母子保健行政の体系を理解できる 2) 助産師が行う地域母子保健活動の実際が理解できる 3) 国内および諸外国の母子保健問題について助産師の役割を考えることができる 4) 関心がある母子保健の健康課題についてプレゼンテーションができる | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 1. 地域母子保健行政の体系 2. 母子保健統計からみる現状と課題 | 講義 | 森兼 |
| | 2 関心がある母子保健統計を分析してみよう * 母子保健の主なる統計を使って | 演習 | 森兼 |
| | 3 1. 諸外国の母子保健活動 2. 在日外国人の母子保健 | 講義 | 森兼 |
| | 4 妊婦および新生児訪問活動の実際 1 | 講義 | ゲストスピーカー |
| | 5 妊婦および新生児訪問活動の実際 2 * レポートあり | 演習 | ゲストスピーカー |
| | 6 助産師が行う性教育の実際 1 | 講義 | ゲストスピーカー |
| | 7 助産師が行う性教育の実際 2 * レポートあり | 演習 | ゲストスピーカー |
| | 8 私が考える地域母子保健の現状と課題 発表 | 院生による プレゼンテーション | 森兼 |
| 授業外学修(事前学修・事後学修) | ★事前学修 事前に授業テーマに関するキーワードを提示する。1つ選び自己の考えをまとめておくこと ★事後学修 授業終了時にミニツツペーパーを記載のこと | | |
| 評価方法・評価基準 | 1. 「母子保健の主なる統計」よりテーマを1つ選び、現状と課題について自己の考えをまとめ発表する。 2. 第4,5回および第6,7回のレポートは「自己の学習目標に対する到達度と課題」について各1題まとめて提出する。 ★評価 1. プレゼンテーション(見やすさ、説得力、根拠に基づいている) 60% 2. 各レポート 10%×2題 3. ディスカッションへの積極的な参加(20%) | | |
| テキスト | ・助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版 医学書院 ・母子保健の主なる統計 最新版 母子保健事業団 | | |
| 参考図書 | ・国民衛生の動向 最新版 厚生統計協会 ・UNICEF 世界子供白書(日本ユニセフ協会サイトからダウンロード可) | | |
| 学生へのメッセージ等 | 地域と世界に関心をもち助産師として活動の可能性を上げよう。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子／芝田 和美／高橋 律子／森重 圭子 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 助産業務管理に必要な知識や助産業務に付随する法的責任を修得し、助産師としてのセーフティマネジメントについての対策を考察できる能力を養う。 | | |
|------------------|---|-------|-----|
| 目標 | 1) 施設（病院、開業助産所等）における助産業務の管理、および関連する法規と責任を説明できる。 2) 周産期における医療事故を予防するために必要な基本的な管理を学び、助産師としてのセーフティマネジメントのあり方を考察できる。 3) 独立開業を行う場合に必要な資源、人材等の経営的視点について考察できる。 4) 周産期医療システムの連携について理解する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 2021年4月21日（水） 2限目 助産業務の概念、助産管理の概念と課程 | 講義 | 五十嵐 |
| | 2 2021年4月28日（水） 2限目 周産期の管理に関する法律・制度 | 講義 | 五十嵐 |
| | 3 2021年5月12日（水） 2限目 助産と経済 | 講義 | 五十嵐 |
| | 4 2021年5月19日（水） 多職種との協働と女性等との共同、 生涯教育とキャリアパス | 講義 | 五十嵐 |
| | 5 2021年5月26日（水） 2限目 周産期における医療事故と安全対策 | 講義 | 五十嵐 |
| | 6 2021年6月2日（水） 2限目 災害支援 | 講義 | 五十嵐 |
| | 7 2021年6月11日（金） 2限目 助産所運営の活動と実際（助産所見学を含む）① カンガルーホーム見学 | 講義・演習 | 高橋 |
| | 8 2021年6月11日（金） 3限目 助産所運営の活動と実際（助産所見学を含む）② カンガルーホーム見学 | 講義・演習 | 高橋 |
| | 9 2021年6月11日（金） 4限目 助産所運営の活動と実際（助産所見学を含む）③ カンガルーホーム見学 | 講義・演習 | 高橋 |
| | 10 2021年6月15日（火） 3限目 助産所の管理と運営の実際① | 講義 | 芝田 |
| | 11 2021年6月22日（火） 2限目 助産所の管理と運営の実際② | 講義 | 芝田 |
| | 12 2021年6月29日（火） 2限目 助産所の管理と運営の実際③ | 講義 | 芝田 |
| | 13 専門看護（CNS）の役割、CNSの活動場所と助産管理 日にち未定 | 講義 | 森重 |
| | 14 看護理論の活用と助産実践 日にち未定 | 講義 | 森重 |
| | 15 2020年7月14日（火） まとめ | 講義 | 五十嵐 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | | | |

| | |
|------------|--|
| 評価方法・評価基準 | 出席、授業への参加度、筆記試験、レポート（論理性・一貫性・適切性）で総合的に評価する。 |
| テキスト | 助産学講座（10）助産管理（第5版）医学書院 助産師基礎教育テキスト 2019年版 第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会 助産師業務要覧〈1〉基礎編〈2019年版〉 日本看護協会出版会 助産師業務要覧〈2〉実践編〈2019年版〉 日本看護協会出版会 助産所業務ガイドライン 2014年度改定版 社団法人日本助産師会 |
| 参考図書 | 産科医療補償制度 各報告書 (http://www.sanka-hp.jcqh.or.jp/documents/committee/index.html) 日本助産評価機構 資料 (https://josan-hyoka.org/) |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 上田 佳世／岡山 真理 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | ヘルスプロモーションの視点に基づいた妊娠期における健康問題・課題を見出すことに対し助産過程を展開して助産診断技術・援助技術を修得する。 尊いのちを家族とともに迎え、健やかで豊かな母性を育み、出産や育児に向かう女性にとってより良い助産ケアを提供するために、必要な専門知識や理論を統合し、専門家として姿勢や倫理を養う。 | | |
|------|--|------|----------------|
| 目標 | 1. 妊娠期の女性の健康と胎児の成長・発達必要な解剖・生理学の基礎を説明できる。 2. 妊娠期の女性と胎児の健康の診断技術を学び、妊娠期における女性とその家族の身体的、心理的、社会的な健康状態について考慮した助産過程の展開ができ、基本的な支援を学修する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 授業ガイダンス 妊娠期の心理的・社会的変化 | 講義 | 上田 |
| | 2 妊娠期の助産診断のための基本知識 妊娠の生理 | 講義 | 上田 |
| | 3 妊娠期の助産診断のための基本知識 妊娠の生理と関連した検査 | 講義 | 上田 |
| | 4 妊婦への助産ケア技術（妊婦健診：腹部触診、胎児心音聴取、骨盤外計測） | 演習 | 岡山 |
| | 5 妊婦への支援 日常生活の適応のケア | 講義 | 上田 |
| | 6 妊婦への支援 マイナートラブルの支援 | 講義 | 上田 |
| | 7 妊婦への支援 心理・社会的ケア | 講義 | 上田 |
| | 8 助産診断 | 講義 | 上田 |
| | 9 妊娠期の事例演習 妊娠初期 助産計画立案・個人指導案の発表 | 演習 | 岡山 |
| | 10 出生前診断と遺伝カウンセリング | 講義 | 増井 遺伝カウンセラー |
| | 11 妊娠期の事例演習 妊娠中期 アセスメント・助産診断 | 演習 | 岡山 |
| | 12 妊娠期の事例演習 妊娠中期 助産計画の立案 保健指導計画 | 演習 | 岡山 |
| | 13 妊娠・授乳とくすり | 講義 | 宮原 薬剤師 |
| | 14 妊娠期の事例演習 妊娠後期 アセスメント、助産診断と計画 | 演習 | 岡山 |
| | 15 | 演習 | 岡山 |

| | | | |
|------------------|---|----|------------|
| | 妊娠期の事例演習 妊娠後期 助産計画と保健指導計画 | | |
| 16 | 妊娠期からの母乳育児 | 講義 | 上田 |
| 17 | 妊娠期の事例演習 妊娠後期 保健指導のロールプレイ | 演習 | 岡山・上田 |
| 18 | 妊娠期の事例演習 妊娠後期 保健指導のロールプレイ | 演習 | 岡山・上田 |
| 19 | 助産外来・院内助産 | 講義 | 臨床教育講師 |
| 20 | 助産外来・院内助産 | 講義 | 臨床教育講師 |
| 21 | 妊娠期の事例演習 ハイリスク妊娠 切迫流早産 子宮内胎児発育遅延 | 講義 | 上田 |
| 22 | 妊娠期の事例演習 ハイリスク妊娠 切迫流早産 子宮内胎児発育遅延 アセスメント・助産診断 | 演習 | 岡山 |
| 23 | 妊娠期の事例演習 ハイリスク妊娠 切迫流早産 子宮内胎児発育遅延 助産計画 | 演習 | 岡山 |
| 24 | ハイリスク妊娠 妊娠高血圧症 | 講義 | 上田 |
| 25 | 妊婦への助産ケア技術 清潔ケア、輸液管理 | 演習 | 岡山 |
| 26 | ハイリスク妊娠 糖代謝異常 | 講義 | 上田 |
| 27 | 周産期メンタルヘルス | 講義 | 兵 臨床心理士 |
| 28 | ハイリスク妊娠 多胎 | 講義 | 上田 |
| 29 | ハイリスク妊娠 その他合併症 前置胎盤、精神疾患、甲状腺疾患、子宮筋腫 | 講義 | 上田 |
| 30 | 妊娠期 まとめ | 講義 | 上田 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前・事後学修：各講義・演習で提示する課題を指定した日程までに取り組みをお願いいたします。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 講義や演習への取り組み姿勢や態度（主体性、積極性、協調性）10%、プレゼンテーションやロールプレイ（助産診断・計画・保健指導案の内容、方法）30%、レポート10%、筆記テスト50%に基づき、総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院 助産学講座3 母子の健康科学 医学書院 助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕 医学書院 病気がみえる Vol.10 産科 医療情報科学研究所（編）メディックメディア 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 我部山キヨ子／大石時子 医学書院 実践マタニティ診断 第4版 日本助産診断・実践研究会 医学書院 | | |
| 参考図書 | 産婦人科診療ガイドライン 産科編2020 日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会 エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期・産褥期 2020年 日本助産学会 病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科 医療情報科学研究所（編）メディックメディア | | |
| 学生へのメッセージ等 | 妊娠した女性は出産や育児に向けて親になっていく心と身体を整えます。女性やその家族にとっての助産師の支援は新たないのちを育んでいく上でとても重要な役割を担っています。この講義や演習を通して助産師を目指す皆さんにとって助産ケアの重要性を体感し学び合えればと願っております。 | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 3 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 乾 つぶら／岩田 塔子／(産婦人科医師)／西久保 俊也／上田 佳世／岡山 真理 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| 目的 | 分娩経過についての助産診断を基に、個別性に応じた助産計画を立案する能力を養い、分娩期において母子の安全と安楽を提供できる助産技術を修得する。 | | |
|------|---|-------|--------|
| 目標 | 1) 分娩期における助産実践の基盤となる理論が理解できる。 2) 助産診断に基づいて、分娩期における母子、および、その家族の個別性に応じた助産過程の展開ができる。 3) 分娩経過について助産診断を行い、正常を逸脱する可能性についての予測ができる。 4) 分娩介助技術の原理及び出生直後の新生児管理が理解できる。 5) 母子関係確立と家族関係の再構築に向けた支援ができる。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 授業ガイダンス | 講義 | 乾 |
| | 2 分娩期の看護 知識・技術 試験 | 講義・演習 | 乾 |
| | 3 分娩時における胎児の健康 (CTG) 1 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 4 分娩時における胎児の健康 (CTG) 2 | 講義・演習 | 産婦人科医師 |
| | 5 超音波診断法演習 1 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 6 超音波診断法演習 2 | 講義・演習 | 産婦人科医師 |
| | 7 分娩期の診断技術1 | 講義 | 乾 |
| | 8 分娩期の診断技術2 | 講義・演習 | 乾 |
| | 9 産痛緩和 | 講義 | 乾 |
| | 10 分娩期の助産ケア | 講義・演習 | 乾 |
| | 11 分娩介助の原理と介助方法 1 | 演習 | 乾 |
| | 12 分娩介助の原理と介助方法 2 | 演習 | 乾 |
| | 13 出生直後の新生児ケア・分娩直後の産婦ケア | 講義 | 乾 |
| | 14 分娩期助産過程の実際1 | 講義 | 乾 |
| | 15 分娩期助産過程の実際2 | 講義 | 乾 |
| | 16 助産院における正常分娩の助産診断・技術とケア | 講義 | 岩田 |

| | | | | |
|------------------|---|---------------------|-------|---------|
| | 17 | 正常からの逸脱時の助産診断・技術とケア | 講義 | 岩田 |
| | 18 | 分娩介助演習(技術試験) 1 | 講義 | 乾/上田/岡山 |
| | 19 | 分娩介助演習(技術試験) 2 | 演習 | 乾/上田/岡山 |
| | 20 | 分娩介助演習(技術試験) 3 | 演習 | 乾/上田/岡山 |
| | 21 | 児の出生時の対応と蘇生(NCPR) 1 | 講義 | 西久保 |
| | 22 | 児の出生時の対応と蘇生(NCPR) 2 | 講義・演習 | 西久保 |
| | 23 | 児の出生時の対応と蘇生(NCPR) 3 | 講義・演習 | 西久保 |
| | 24 | フリースタイル分娩演習 1 | 演習 | 岩田/乾 |
| | 25 | フリースタイル分娩演習 2 | 演習 | 岩田/乾 |
| | 26 | 分娩期の標準計画と保健指導 1 | 講義・演習 | 乾 |
| | 27 | 分娩期の標準計画と保健指導 2 | 講義・演習 | 乾 |
| | 28 | 事例による分娩介助演習 1 | 演習 | 乾 |
| | 29 | 事例による分娩介助演習 2 | 演習 | 乾 |
| | 30 | まとめ | 講義 | 乾 |
| 授業外学修(事前学修・事後学修) | ガイダンスで提示する。 | | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>評価方法：筆記試験20-30%、技術試験10%、講義演習への参加30%、提出課題30-40%、 評価基準： ・筆記試験は分娩期の助産診断と知識を選択式・記述式で評価する。 ・技術試験は科学的根拠に基づいた分娩介助技術の修得で評価する。 ・講義演習への参加は、グループワーク・ロールプレイ・発表・討論の内容、運営全体への貢献度で評価する。 ・提出課題はマタニティ診断に沿って分娩期の助産過程を展開できているかで評価する。</p> | | | |
| テキスト | 助産学講座2：母子の基礎科学 医学書院 助産学講座3：母子の健康科学 医学書院 助産学講座4：母子の心理・社会学 医学書院 助産学講座5：助産診断・技術学Ⅰ 医学書院 助産学講座7：助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院 実践マタニティ診断：日本助産診断・実践研究会編 医学書院 産婦人科診療ガイドライン産科編2020 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会 日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト 助産業務ガイドライン 2019 日本助産師会 | | | |
| 参考図書 | 今日の助産：北川眞理子,内山和美 南江堂 改訂第3版 2013 最新産科学正常編：荒木勤 文光堂 改訂第22版 2008 最新産科学異常編：荒木勤 文光堂 改訂第22版 2012 新生児学入門：仁志田博司 医学書院第4版 2012 病気が見えるVol110産科 医療情報学研究所編 メディックメディア 他、講義の際に紹介予定。 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 上田 佳世/岡山 真理/越山 茂代 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 産褥期および新生児期における専門的知識を統合し、助産過程を展開できる能力を養う。対象の価値観や志向を理解した上で望ましい状態を目指した最善の助産ケア実践できる基本的な技術を習得する。 | | |
|------|--|-------|-----------------|
| 目標 | 1)母児の生理的経過が正常から逸脱していないかをアセスメントし、予防や対処するための支援を説明できる 2)新生児の身体変化をアセスメントし、胎外生活への適応や成長発達を促す支援を説明できる 3)産褥婦や新生児に助産ケアを提供する基本的な技術方法を説明できる 4)親子の絆や相互作用をアセスメントし、新たな家族形成を促す支援を説明できる 5)産褥婦、児とその家族の全体像を説明できる | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 授業ガイダンス 産褥期の生理・心理社会的変化と助産ケア | 講義 | 上田 |
| | 2 産褥期の身体・精神的な問題と助産ケア | 講義 | 上田 |
| | 3 産褥期の事例演習 アセスメント・助産診断・計画立案 | 演習 | 岡山 |
| | 4 新生児の適応生理と正常からの逸脱 | 講義 | 上田 |
| | 5 新生児 出生直後と24時間以降のケア | 講義 | 上田 |
| | 6 新生児 フィジカルアセスメントとケア 抱っこ、オムツ交換、寝衣交換、母子健康手帳の活用 | 演習 | 岡山 上田 |
| | 7 新生児の事例演習 アセスメント・助産診断・計画立案 新生児の特徴と育児、新生児の異常と受診の必要性、予防接種・母子健康手帳の活用、退院後の育児環境 | 演習 | 岡山 |
| | 8 母乳育児 | 講義・演習 | 越山 開業助産師 |
| | 9 母乳育児 | 講義・演習 | 越山 開業助産師 |
| | 10 産後のメンタルヘルスと産後健診 | 講義 | 上田 |
| | 11 新生児のケア 沐浴、授乳支援（搾乳と人工乳の授乳方法） | 演習 | 岡山 上田 |
| | 12 NICU/GCUに入院するハイリスク新生児の特徴とケア | 講義 | 臨床教育講師 |
| | 13 ハイリスク新生児のケアの基本 | 演習 | 臨床教育講師 上田 岡山 |
| | 14 産褥婦や新生児を対象にした保健指導 計画と実施 母児同室と保清指導、産後指導、新生児指導、退院指導、家族計画 | 演習 | 上田 岡山 |
| | 15 産褥婦や新生児を対象にした保健指導 計画と実施 母児同室と保清指導、産後指導、新生児指導、退院指導、家族計画 | 演習 | 上田 岡山 |

| | | | |
|------------------|---|--|--|
| | | | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前・事後学修：各講義・演習で提示する課題を指定した日程までに取り組んでおいてください。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 講義や演習への取り組む姿勢や態度（主体性、積極性）10%、課題への取り組み（助産診断・計画・保健指導案の作成した内容、実施の方法）30%、技術の習得度10%、レポート10%、筆記テスト40%に基づき総合的に評価する。 | | |
| テキスト | 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期（医学書院） 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期（医学書院） 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア、新生児期・乳幼児期のケア（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア（日本看護協会出版会） 母乳育児支援スタンダード 編集NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会（医学書院） 新生児学テキスト 日本新生児成育医学会編（メディカ出版） 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版（医学書院） 実践マタニティ診断 第5版（医学書院） | | |
| 参考図書 | 新生児学入門 仁志田博司 改訂第5版（医学書院） NICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシックコース（医学書院） 臨床助産テキスト 第3巻 産褥（メディカ出版） 新生児ベーシックケア 横尾京子 医学書院 受胎調節指導用テキスト（日本家族計画協会） 家族計画指導の実際 第2版増補版（医学書院） | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 乾 つぶら / (産婦人科医師) | | | |
| 添付ファイル | | | |

| 目的 | 周産期における母子の健康状態をアセスメントし、リスクを評価するための知識を修得する。また、周産期に発症しやすい異常について知識を得て、異常分娩の介助や、緊急時の対応に関する理解を深める。 | | |
|---------------------|--|-------|--------|
| 目標 | 1) 周産期における母子の健康逸脱、異常予測のヘルスアセスメントとケアに必要な知識を学ぶ。 2) 妊娠期・分娩期・産褥期に発症しやすい異常とその要因、発生機序、病態生理、検査、治療について説明できる。 3) 周産期における医療と看護、ハイリスク妊産褥婦への助産ケアを理解する。 | | |
| 授業計画 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
| | 1 周産期におけるハイリスク母子と助産師の役割 | 講義 | 乾 |
| | 2 妊娠期のリスクと医療1 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 3 妊娠期のリスクと医療2 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 4 妊娠期のリスクと医療3 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 5 妊娠期のリスクと医療4 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 6 分娩期のリスクと医療 1 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 7 分娩期のリスクと医療2 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 8 分娩期のリスクと医療3 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 9 産科出血と妊産婦管理・産科ショック | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 10 産褥期のリスクと医療 1 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 11 産褥期のリスクと医療2 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 12 会陰切開と縫合1 | 講義 | 産婦人科医師 |
| | 13 会陰切開と縫合2 | 講義・演習 | 産婦人科医師 |
| | 14 ハイリスク妊産褥婦への助産ケア 1 | 講義・演習 | 臨床教育講師 |
| 15 ハイリスク妊産褥婦への助産ケア2 | 講義・演習 | 乾 | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | ガイダンスの際に提示する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法：筆記試験60%、講義演習への参加20%、提出課題20% 評価基準： | | |

| | |
|------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験はハイリスク妊娠分娩産褥の医学的知識を選択式・記述式で評価する。 ・講義演習への参加は、グループワーク・ロールプレイ・発表・討論の内容、運営全体への貢献度で評価する。 ・提出課題は正常からの逸脱がある場合の助産過程を展開できているかで評価する。 |
| テキスト | <p>最新産科学正常編：荒木勤 文光堂 改訂第22版 最新産科学異常編：荒木勤 文光堂 改訂第22版 助産学講座2：母子の基礎科学 医学書院 助産学講座3：母子の健康科学 医学書院 助産学講座4：母子の心理・社会学 医学書院 助産学講座5：助産診断・技術学Ⅰ 医学書院 助産学講座6：助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 医学書院 助産学講座7：助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院 助産学講座8：助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 医学書院 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 産婦人科診療ガイドライン 産科編2020 日本産婦人科学会 助産業務ガイドライン 2019 出生前診断の現場から 専門医が考える「命の選択」：室月淳 集英社新書</p> |
| 参考図書 | 講義の際に紹介予定。 |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 1年 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子／乾 つぶら／上田 佳世／岡山真理 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------------------|--|
| 目的 | 妊娠期・分娩期にある母子とその家族を対象とした健康教育の実際を見学し、分娩に立ち会い、看護学の知識技術も応用して助産学の基盤となる科学的思考力の基礎を培う。実習を通して、助産師としての倫理を意識し、理想とする助産師モデルを思い描く。 |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦とその家族の主体性を引き出すための参加型の集団健康教育の方法について説明できる。 2. 産婦と胎児、その家族を対象に、安全に配慮し安楽を考慮した助産計画の科学的根拠を述べることができる。 3. 妊産婦とその家族との良好な関係を持ち、特徴や反応を考慮して提供される助産ケアとは何か 説明できる。 4. 自己の助産師像のモデルについて述べるができる。 |
| 授業計画 | <p>【実習場所】 奈良医科大学附属病院</p> <p>【実習時期】 1年前期</p> <p>【実習内容】 集団健康教育（メディカルバースセンター両親学級）を見学する。産科病棟・メディカルバースセンターでの分娩に立ち会う（詳細は実習要項参照）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 両親学級の実際を見学し、集団における健康教育の運営とともに、妊婦とその家族の個別性にも対応した保健指導のあり方を学ぶ。 2) 分娩に立ち会い、産婦の助産診断と助産ケアおよび分娩介助、間接介助および出生直後の児のケアを学ぶ。 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 実習要項を参照 |
| 評価方法・評価基準 | 実習要項を参照 |
| テキスト | 別途提示する。 |
| 参考図書 | |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------------|---|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 9 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子／乾 つぶら／上田 佳世／岡山真理 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |
| 目的 | 周産期にある母子や家族を対象に、既習の知識技術を活用して助産過程を展開し、対象に応じた助産診断とその診断に基づく継続的な助産ケアを選択する。実習を通して、助産師としての倫理観を養い、理想とする助産師像を描く。 | | |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 母子とその家族を統合して捉えた助産診断ができる。 2. 対象のニーズと科学的根拠に基づいた安全安楽な助産ケアが実施できる。 3. 母子とその家族との信頼関係を結び、生命の尊厳を守る。 4. 自己の助産師像を描くことができる。 | | |
| 授業計画 | <p>【実習場所】 病院・メディカルバースセンター 等において、助産学実習を行う。</p> <p>【実習時期】 1年後期（9月～2月）</p> <p>【実習内容】 分娩介助実習、継続事例実習を含む周産期助産実践実習（詳細は実習要項参照）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 継続事例は、妊娠後期から分娩期、さらに産褥1か月まで1事例を継続して受け持つ。 <ol style="list-style-type: none"> ①助産師外来における妊婦健康診査、助産診断に基づく保健指導を行う。 ②産婦の助産診断とケアおよび分娩介助、間接介助および出生直後の児のケアの実施。 ③褥婦・新生児を対象としたケアおよび保健指導（産後健診、産後訪問、1か月健診を含む）の実施。 2) 分娩介助実習は、分娩第Ⅰ期からⅣ期までを受け持ち、産婦の助産診断とケアおよび分娩介助、間接介助および出生直後の児のケアを実施する。 3) 施設における周産期管理やケアの実際を学び、妊娠、分娩、産褥期及び新生児の助産診断と集団指導・個別指導の学びを深める。 <ol style="list-style-type: none"> ①対象や家族の個別性に即した助産診断とケアを理解し実施する。 ②周産期における助産師の業務の実際を学び、他職種との協働やチームメンバーとしての役割について理解を深める。 | | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 実習要項を参照 | | |
| 評価方法・評価基準 | 実習要項を参照 | | |
| テキスト | 別途提示する。 | | |
| 参考図書 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------------------------|--|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子/上田 佳世/乾 つぶら/岡山真理 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |
| 目的 | <p>【ハイリスク妊産褥婦】 ハイリスク妊産褥婦、児とその家族対象に、妊娠・分娩経過と対象の特徴をとらえた助産診断を展開する。親子の相互作用を促し、生涯をととしてより健康な生活が過ごせるよう最善の助産ケアを目指した、助産ケア実践に必要な技術を習得する。実習をととして、周産期医療における助産師としての倫理観を養う。</p> <p>【ハイリスク新生児】 ハイリスク新生児と家族を対象に、胎児期から生後の経過と対象の特徴を捉え上で、生涯をととして健全な成長発育や生活ができるよう、より良い支援を学ぶ。実習をととして、新生児医療における専門職としての倫理観を養う。</p> | | |
| 目標 | <p>【ハイリスク妊産褥婦】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦と児の健康状態や正常経過からの逸脱をアセスメントできる 2. 統合した情報を基に適格な助産診断ができる 3. 対象のニーズと臨床的根拠に基づいた助産計画が立案できる 4. 安全安楽に配慮した助産ケアの必要性和方法を説明できる 5. 母児とその家族の主体性を尊重した信頼関係について説明できる 6. 生命の尊厳を守る態度や行動がとれる <p>【ハイリスク新生児】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児の健康状態や正常経過からの逸脱をアセスメントできる 2. 児に関する情報を統合し適格な助産診断ができる 3. 対象のニーズと臨床的根拠に基づいた助産計画が立案できる 4. 安全安楽に配慮したケアについて理解して説明ができる 5. 母児とその家族の主体性を尊重した信頼関係について説明できる 6. 倫理観をもって生命の尊厳を守る態度や行動をとることができる | | |
| 授業計画 | <p>【実習場所】 奈良県立医科大学附属病院産科病棟あるいはNICU/GCU</p> <p>【実習時期】 1年後期</p> <p>【実習方法】 ハイリスク妊産褥婦およびハイリスク新生児を受持ち、助産過程を展開する（詳細は実習要項参照）。</p> | | |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前学修は課題として実習オリエンテーション時に提示する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>【ハイリスク妊産褥婦】 アセスメント・助産診断の展開と計画立案（40%）、ケアの実践（30%）、実習態度や姿勢（30%）に基づき総合的に判断する。</p> <p>【ハイリスク新生児】 アセスメント・助産診断の展開と計画立案（40%）、ケアの実践（36%）、実習態度や姿勢（24%）に基づき総合的に判断する。</p> | | |
| テキスト | 別途提示する。 | | |
| 参考図書 | | | |
| 学生へのメッセージ等 | | | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------------|-----|-----|--------|
| 後期 | 1年 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子／上田 佳世／乾 つぶら／岡山 真理 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------------------|---|
| 目的 | これから出産を迎える妊婦とその家族が出産や育児に対して抱くニーズや特徴をとらえ、今後の妊娠、出産、育児の生活や生涯の健康へより良い支援を提供する。主体的な出産体験や親子や家族の絆をつくり、前向きに満足した出産に臨めるような準備や機会を提供し、対象に応じた助産ケアの技術を習得する。 |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の特性、ニーズ、健康課題の特徴を説明できる。 2. 対象集団や個人に合った 目的、目標、教育内容、教育方法、振り返りを考察し、説明できる。 3. 対象者を参加しやすくするための雰囲気や環境づくりができ、対象者とのかかわりを体験して、自己の課題について振り返りを考察できる。 4. 出産や育児を迎える妊婦とその家族に対して、出産前教室（両親学級の企画、立案、準備、実施、振り返り）をすることができる。 5. 集団健康教育や参加型クラスでの必要な技術を学ぶことを通して、自己課題を振り返り、考察できる。 6. 集団健康教育を創り上げるにあたり、個々人が状況に応じてメンバーシップやリーダーシップをとりグループダイナミクスを発揮する技術を習得できる。 |
| 授業計画 | <p>【実習場所】 奈良県立医科大学附属病院</p> <p>【実習時期】 1年後期</p> <p>【実習内容】 集団健康教育を企画し運営する（詳細は実習要項参照）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 集団健康教育の計画の立案、修正と媒体の作成を行う。 集団健康教育の計画を立案後、に臨床指導者や教員からの助言に基づき、評価と修正を行う。 2) 集団健康教育の指導計画の立案、修正、準備、実施をグループメンバーで議論し協働して行う。 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 実習要項を参照 |
| 評価方法・評価基準 | 集団健康教育の指導計画の立案、修正、準備、実施についての取り組み、グループでの協働性のある姿勢・態度等で評価する。 |
| テキスト | 別途提示する。 |
| 参考図書 | |
| 学生へのメッセージ等 | |

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------------------------|-----|-----|--------|
| 前期 | 2年 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 五十嵐 稔子／乾 つぶら／上田 佳世／岡山 真理 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|------------------|--|
| 目的 | 助産所での分娩を選択した女性やその家族を対象に、既習の知識技術を活用して助産過程を展開し、根拠に基づく自立した助産実践を学ぶ。さらに、高い倫理観と助産師としてのアイデンティティの形成を目指す。 |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産所を選んだ女性とその家族統合して捉え診断・計画立案ができる。 2. 自然分娩に向けた対象のニーズと、科学的根拠に基づいた安全な助産ケアが実践できる。 3. 助産所における管理を解す。 4. 母子とその家族信頼関係を結び、生命尊厳を守る。 5. 助産師としてのアイデンティティ形成を目指す。 6. 自己の助産師像形成を目指すことができる。 |
| 授業計画 | <p>各助産所において、以下の実習を行う。</p> <p>【実習内容】 実習要項参照</p> <p>継続事例を1事例受け持ち、妊娠中期から産褥4か月頃までのケース実習を通して望ましい助産のあり方を追求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 助産所における継続事例の妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の助産診断とケアの実施。 2) 妊娠期からの乳房管理、超音波画像診断の読み取りの実際、安全・安楽に向けての心身両面への援助を妊娠各期の保健指導案として計画し、実施する。 3) フリースタイルによる分娩介助、産痛緩和法による支援の実際、夫や家族の立ち会い出産への援助 4) 母乳栄養確立に向けた育児支援 5) 助産師の地域での活動（女性・子育て支援センター・性教育の出前講座）に他の助産所で実習している院生とともに参加する。 6) 助産所で取り扱える出産および異常時の嘱託医や小児科を有する病院との連携の実際を理解する。 7) 助産所における助産業務管理の実際を理解する。 8) 他の助産所実習をしている院生との情報交換やまとめのカンファレンスを通して学びの共有を図る。 |
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 実習要項を参照 |
| 評価方法・評価基準 | 実習要項を参照 |
| テキスト | 別途提示する。 |
| 参考図書 | 適宜紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | |

学位審査手続き・学位書類の提出要領(看護学研究科修士課程)

I 学位請求申請

☆ 提出書類

Aセット

下記の書類を順番にセットし、クリップでとめる。【1セット】

- (1) 学位論文審査願または課題研究成果物審査願
- (2) 論文目録または課題研究成果物目録
- (3) 履歴書
- (4) 論文内容の要旨もしくは課題研究成果物内容の要旨
- (5) 学位論文もしくは課題研究成果物

注) 様式に記載されてある備考や注意書き等は削除して提出のこと。

Bセット

下記の書類を順番にセットし、クリアファイル等でまとめる。【15セット】

- (1) 論文内容の要旨または課題研究成果物内容の要旨
- (2) 学位論文(主論文)もしくは課題研究成果物

II 予備審査

学位請求論文・課題研究成果物の受理決定
論文・課題研究成果物審査委員の決定

III 公聴会

学位請求論文・課題研究成果物の発表

IV 本審査

学位請求論文・課題研究成果物の適否を決定

V 学位記授与

様式第1-1号(第7条関係)

年 月 日

奈良県立医科大学長 殿

年 月 日入学

奈良県立医科大学大学院看護学研究科看護学専攻

氏名

印

学 位 論 文 審 査 願

貴学大学院看護学研究科修了の認定をいただくため、貴学学位規則に基づき関係書類を添え学位論文を提出いたしますから、ご審査くださるようお願いいたします。

記

| | |
|---------------|-----|
| 論 文 目 録 | 1部 |
| 論 文 内 容 の 要 旨 | 16部 |
| 履 歴 書 | 1部 |
| 学 位 論 文 | 16部 |

様式第1-2号（第7条関係）

年 月 日

奈良県立医科大学長 殿

年 月 日入学

奈良県立医科大学大学院看護学研究科看護学専攻

氏名

印

課 題 研 究 成 果 物 審 査 願

貴学大学院看護学研究科修了の認定をいただくため、貴学学位規則に基づき関係書類を添え課題研究成果物を提出いたしますから、ご審査くださるようお願いいたします。

記

課 題 研 究 成 果 物 目 録 1部

課 題 研 究 成 果 物 内 容 の 要 旨 16部

履 歴 書 1部

課 題 研 究 成 果 物 16部

論 文 目 録

| | |
|-----|--|
| 氏 名 | |
|-----|--|

主 論 文

題 名
(和 訳)

参 考 論 文

参考論文がない場合は、「なし」と記入し、下記は削除

1)題 名

雑誌名
第 卷 第 号 頁
年 月 日発行

2)題 名

雑誌名
第 卷 第 号 頁
年 月 日発行

備考

1 主論文の題名が外国語の場合は、和訳をつけること。参考論文については和訳を必要としない。

課 題 研 究 成 果 物 目 録

| | |
|-----|--|
| 氏 名 | |
|-----|--|

課題研究成果物

題 名
(和 訳)

参 考 論 文

参考論文がない場合は、「なし」と記入し、下記は削除

1)題 名

雑誌名
第 卷 第 号 頁
年 月 日発行

2)題 名

雑誌名
第 卷 第 号 頁
年 月 日発行

備考

1 主論文の題名が外国語の場合は、和訳をつけること。参考論文については和訳を必要としない。

論文内容の要旨

| | |
|--|--|
| 氏名 | |
| <p>題名*****</p> <p>*****</p> <p>***** (題名を記載)</p> <p>(和訳)</p> | |

課題研究成果物内容の要旨

| | |
|--|--|
| 氏名 | |
| 題名 **** **** ****(題名を記載) (和訳) | |

大学院看護学研究科 特別研究・課題研究担当教員一覧

| 科目名 | 職名 | 研究指導教員名 | 部屋番号等 | 職名 | 研究指導補助教員名 | 部屋番号等 |
|---------------|------|---------|-------|----|-----------|-------|
| 健康科学（心と脳の発達学） | 教授 | 太田 豊作 | 505 | | | |
| 健康科学（環境病態学） | 教授 | 濱田 薫 | 404 | | | |
| 基礎看護学 | 教授 | 松田 明子 | 403 | | | |
| 看護実践応用学 | 教授 | 石澤 美保子 | 503 | 講師 | 佐竹 陽子 | 501 |
| がん看護学 | 教授 | 田中 登美 | 507 | 講師 | 升田 茂章 | 508 |
| 高齢者看護学 | 教授 | 澤見 一枝 | 504 | | | |
| 小児看護学 | 教授 | 川上 あずさ | 502 | | | |
| 女性健康・助産学 | 教授 | 五十嵐 稔子 | 401 | 講師 | 乾 つぶら | 514 |
| | | | | 講師 | 上田 佳世 | 513 |
| 精神看護学 | 教授 | 風間 眞理 | 405 | 講師 | 橋本 颯子 | 407 |
| 在宅看護学 | 教授 | 小竹 久実子 | 402 | 講師 | 栗田 麻美 | 513 |
| 公衆衛生看護学 | 教授 | 城島 哲子 | 506 | | | |
| | 准教授 | 坂東 春美 | 509 | | | |
| 周麻酔期看護学 | 教授 | 川口 昌彦 | 麻酔科医局 | 講師 | 林 浩伸 | 麻酔科医局 |
| | 病院教授 | 井上 聡己 | 麻酔科医局 | 講師 | 恵川 淳二 | 麻酔科医局 |